

改訂 增補 養豚全書 完

東京

有隣堂發行

農學博士  
獸醫學博士  
新潟縣立加茂農林學校 教諭

本 田 幸 介 校 閱  
勝 島 仙 之 介  
舊那覇姓 高 山 徹 著 述

257  
389

065151-000-0

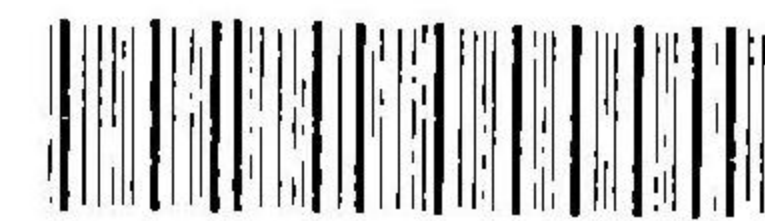
特24-867

養豚全書 (改訂增補)

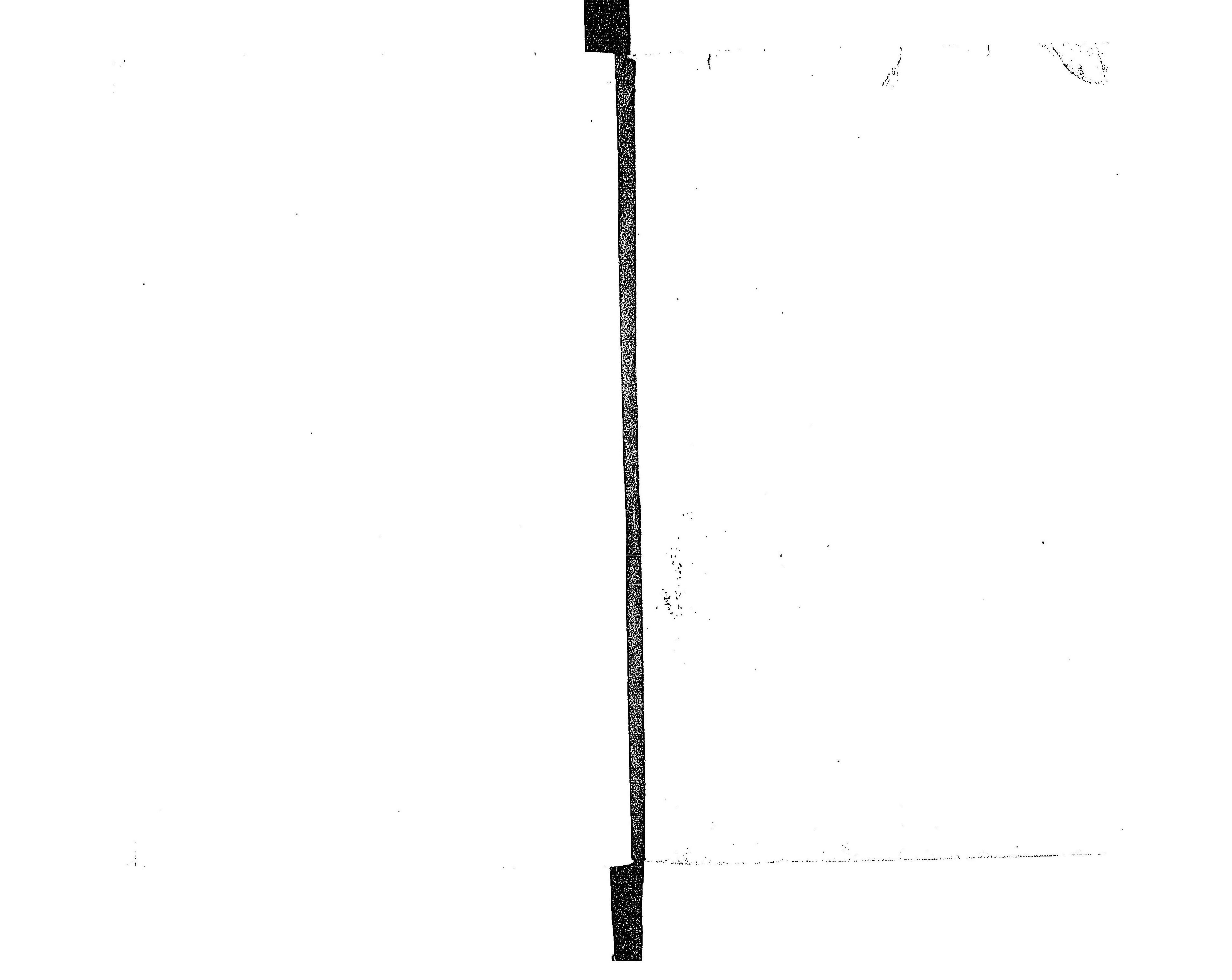
高山 徹 / 著

M41.4

CCD-0634









特24  
867

改訂  
增補

養

豚全書

完

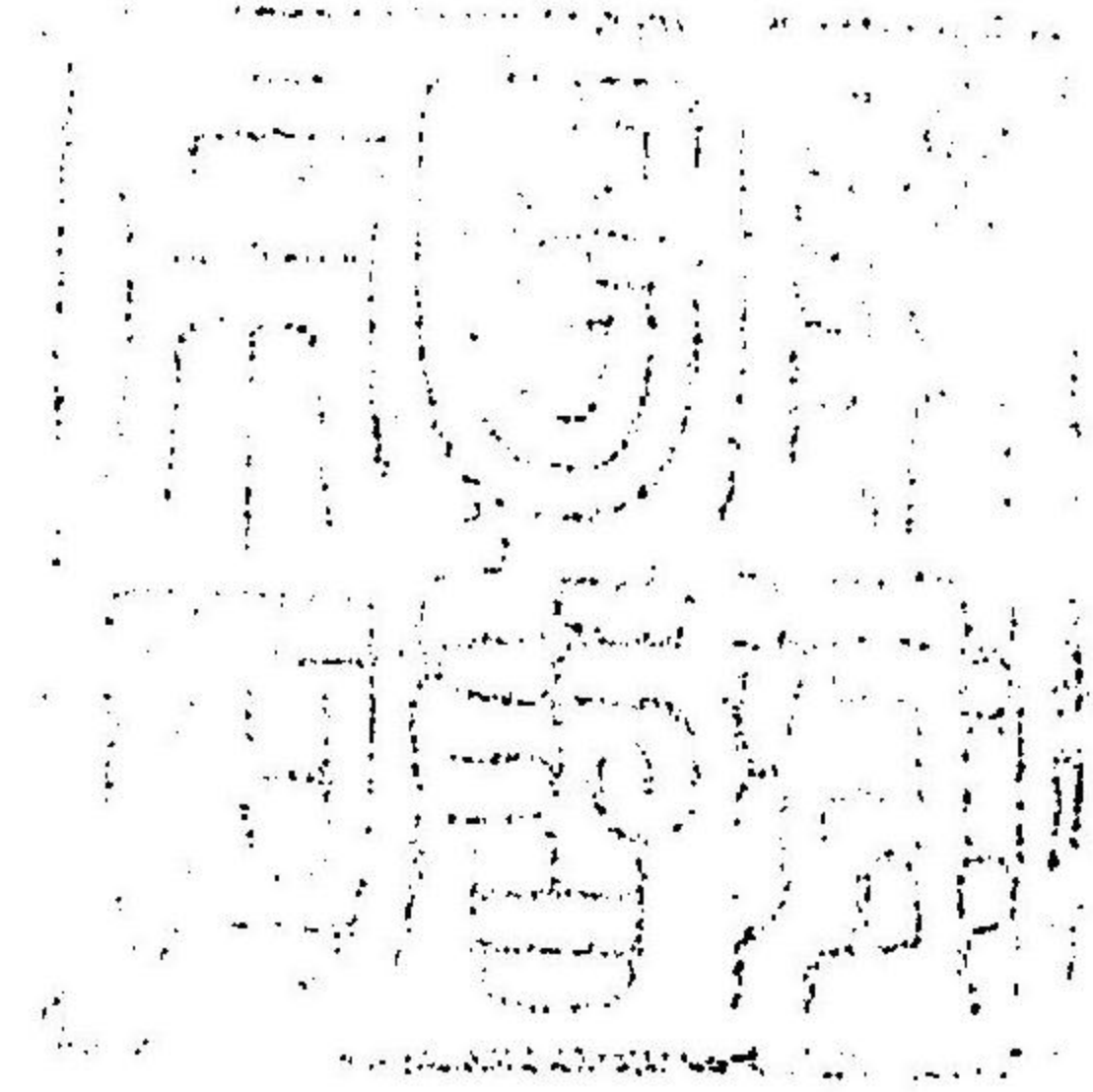
農學博士  
獸醫學博士  
新潟縣立加茂  
茂農林學校  
教諭

本  
勝島仙之介  
校閱  
幸  
玉那  
舊性  
高  
山  
徹  
著述

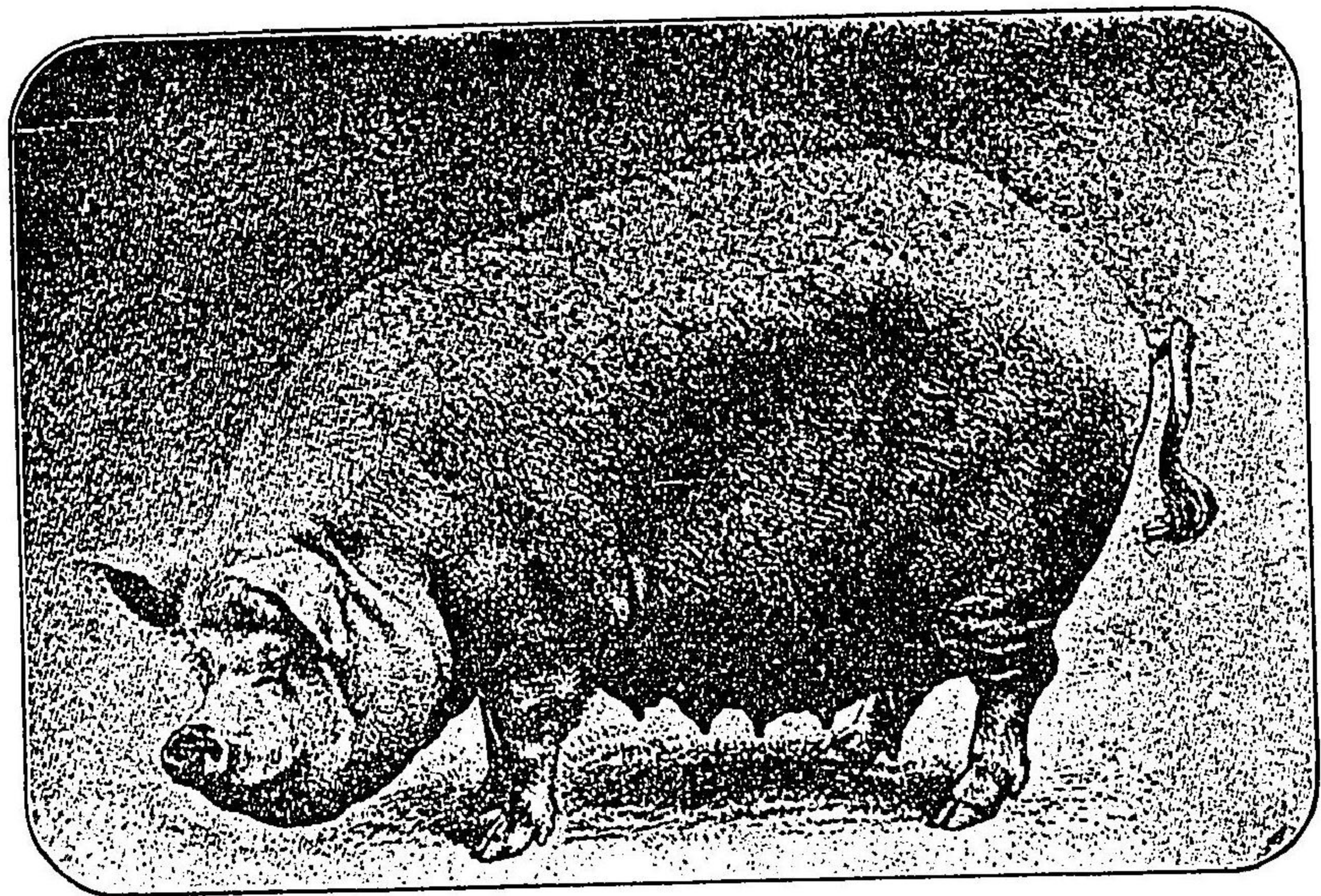
明治  
41 4 30  
丙午

東京

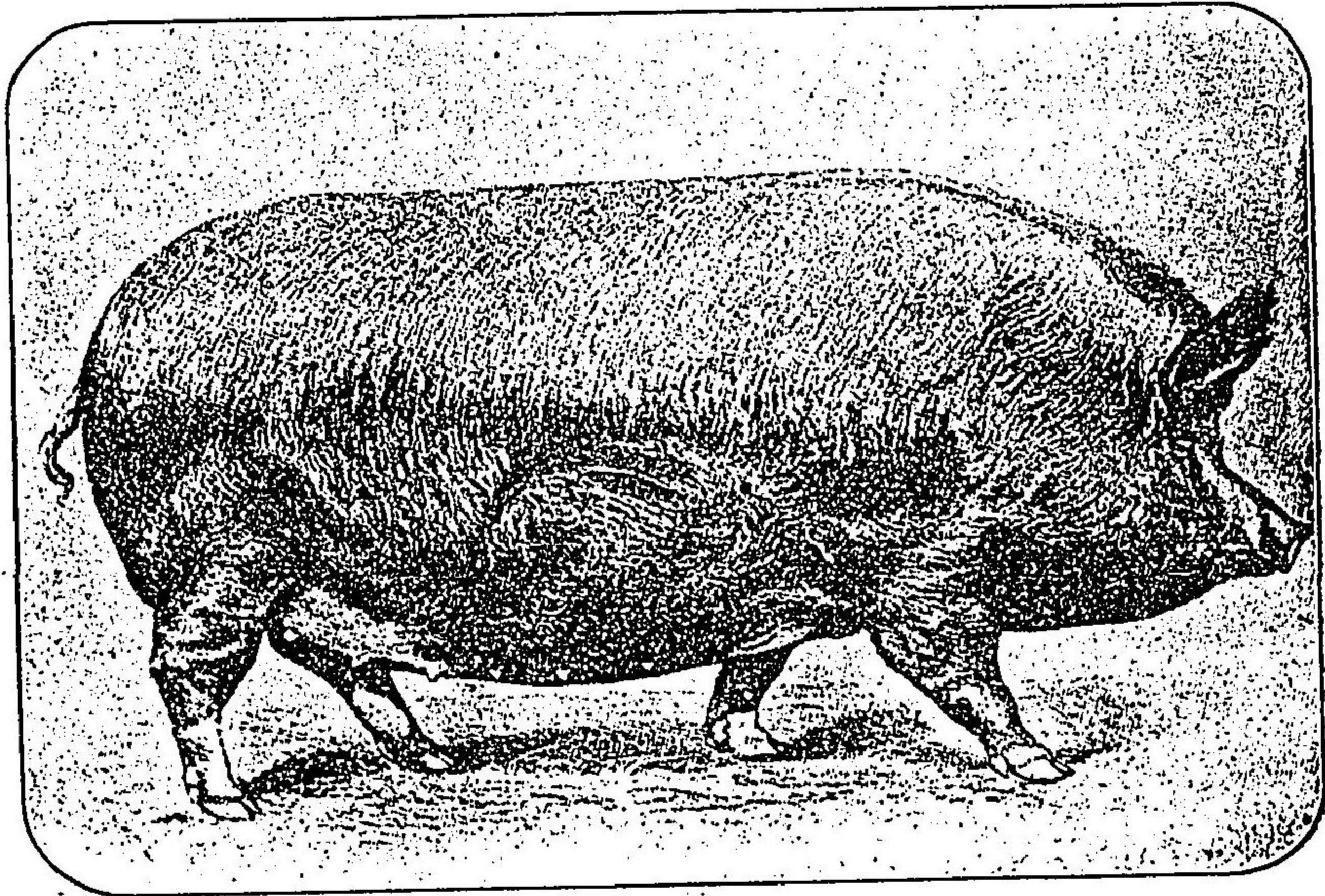
有隣堂發行







種 - ヤ シ ク - ヨ



種 - ヤ シ ク - パ



養豚全書序

高山 徹君駒場ニアリ多年研鑽ノ末本年七月優等  
第二位ヲ以テ實科ヲ卒ヘラレタリ在學ノ間學問ト  
實驗トニ精勵拔群ナリシノミナラス氣品高尚儕輩  
ノ爲メニ愛敬セラル君常ニ皇國ノ世界ニ列スルノ  
勢位ニ於テ深ク慨スル所アリ嘗テ曰空論虛議徒ヲ  
ニ燕趙ノ士ニ倣フハ國家ニ益ナシ念フニ今日ノ計  
ハ同胞ノ智力ト体力トノ増進ヲ勉ムルニアリ之ヲ  
爲ス一ニシテ足ラズト雖モ就中肉食ノ急ナル疑フ  
ベキニアラズ夫然リ單ニ肉食ト云ヘハ事甚ダ易々  
タルニ似タリ而シテ實ハソノ成效大ニ難シ熟々考  
フルニ肉食ノ目的ヲ達スル養豚最モ之ニ適ヘリ抑



々養豚ノ業タル簡ニシテ而シテ易ナリ何地何人ト  
雖モ行フテ行ハレサルハナシ況ンヤ生國沖繩古來  
コノ業ニ精シ今生レナガラニシテ得タル所ノ經驗  
ト學シテ獲タル泰西ノ學問トヲ綜合シテ一書ヲ著  
ハシ以テ世ニ問フ所アラントス微衷幸ニ憐ムベシ  
トセバ希ハクハ序セヨト

余日諾矣則序矣

明治三十四年十月

於東京駒場農科大學畜産教室

農學博士 本田 幸介

凡 例

一、予は元來養豚を好むものなれば近來養豚熱の盛あるを觀  
て欣喜する所なり然れとも本邦に於ける養豚業既往の有  
様を追究するに實に慨歎に堪へざるものあり是に於てか  
淺學卑才を顧みず遂に在學中課業の餘暇を以て本書を編  
せり若し夫れ本書にして苟も斯業者の參考となるを得ば  
予の本懐之れに過ぎざるなり

一、本書を編するに當り常に恩師農學博士本田幸介先生の助  
力を忝ふし且つ稿既に成るに及び先生の慎重なる注意を  
以て校閲の勞を執られしは編者の深く鳴謝する所なり又  
た獸醫學博士勝島仙之助先生が豚の疾病及び治療法を懇  
篤に教示せられたる好意に對し爰に深く謝意を表す若し



本書にして國家に裨益するあらば之れ皆兩恩師の賜物なり

一、本書は原と世の識者の瀏覽を請はんが爲めにあらず唯だ養豚業に志するものへ爲に資する所なり故に深邃の理論を釋ねず可成通俗的に解説し文章の如きも俗語を挿み務めて平易にして解し易きを旨とせり然れども編者文辭に嫻はず書中の文句妥當ならざる所多し讀者文意の解し難き議論の盡さざる所あらば適當の見解を下し文外に其意を察し誤謬あらば教を垂るゝに吝なる莫れ

編者識

### 増訂養豚全書目次

第一章 緒言	一
第二章 總説	一五
第三章 豚の種類	二四
種類の撰擇	二五
良豚の撰擇法	二九
豚の元祖	三三
甲、亞細亞豚	三五
一、支那豚	三五
二、日本崎面豚	三六
三、琉球豚	三七
四、谷頭種	三六
乙、歐羅巴豚	四〇



在來種.....四〇

五、ダムウォールス種.....四〇

改良種.....四二

英國種.....四二

小形種.....四三

六、エッセックス種.....四三

七、小形ヨークシャー種.....四三

八、ヘヤホートシャー種.....四四

九、サッフオーク種.....四四

十、ウヰンドソール種.....四四

十一、コーレスヒール種.....四五

十二、リンコロンシャー種.....四五

中形種.....四五

十三、バークシャー種.....四六

十四、中形ヨークシャー種.....四七

十五、中形サッフオーク種.....四八

十六、ハンブシャー種.....四八

大形種.....四八

十七、大形ヨークシャー種.....四九

十八、レーセスター種.....四九

十九、大形サッフオーク種.....五〇

二十、リンコロンシャー種.....五〇

米國種.....五一

二十一、ポーランドチャイナ種.....五一

二十二、チエスタターホワイト種.....五二

二十三、ジュエロークゼルシー種.....五三

二十四、ビクトリヤ種.....五三

二十五、チエシャー種.....五四



豚の附點審査……………五

第四章 管理法……………六

管理法と豚の性質……………六

豚養法……………六

豚舎構造上の要件……………六

豚舎の位置及び方向……………六

豚舎の用材……………六

豚舎の床……………六

豚室の高及び廣……………七

運動場……………七

豚舎圖解……………七

豚舎の清潔……………七

寒暑の豫防……………七

馴親の必要……………七

惡癖の豫防……………六

第五章 繁殖法……………六

遺傳……………六

雌雄の形成……………六

種豚の撰擇……………六

牡親の撰擇……………六

牝親の撰擇……………六

撰拔期……………六

繁殖年齢……………六

牡親の管理……………六

牝親の管理……………六

妊娠期間……………六

分娩の好期節……………六

遊牝期及び交尾……………六



妊娠の徴候 ..... 一〇七

妊娠の飼養管理 ..... 一〇七

分娩の手續及び産後の注意 ..... 一〇九

産兒の數 ..... 一一〇

一母の育兒數 ..... 一一三

母豚惡癖の原因 ..... 一一四

惡癖の豫防法 ..... 一一四

兒持母豚の飼料 ..... 一一六

母兒の運動 ..... 一二七

哺乳中の兒豚の飼養 ..... 一二八

兒豚の去勢 ..... 一三三

兒豚の斷乳 ..... 一三三

第六章 去勢法 ..... 一三六

去勢の効用 ..... 一三六

去勢術施行期節 ..... 一三八

睾丸截去法 ..... 一三九

卵巢截去法 ..... 一四〇

第七章 飼養法

飼料の原料 ..... 一四〇

穀類—根菜類—葉菜類—鹹果類—殘滓類—草類 ..... 一四〇

樹實類—肉質類—副飼料 ..... 一四七

豚の嫌物 ..... 一四七

飼養器具類 ..... 一四八

食槽 ..... 一五一

蒸煮器 ..... 一五三

飼料運搬器 ..... 一五四

飼料の調理 ..... 一五六

成豚の飼養法 ..... 一六一



飼養上温度の關係……………一七

一室の飼養豚數……………一六

沖繩縣に於ける飼育法……………一六

肥臘法……………一七〇

ウオルフ氏の飼料分析表……………一六

脂肪及び肉の養方に付きヘンリー博士の試験……………一六

**第八章 屠殺及び貯肉法……………二六**

屠殺及び解體法……………二七

燻腿及び燻肉の製造法……………三三

腸詰の製造法……………三〇

鹽豚の製造法……………三三

豚油の製造法……………三四

豚の副産物……………三五

**第九章 豚肉の料理法……………三七**

ぶた汁……………三七

豚肉の味噌煮……………三八

らふて……………三八

豚足の吸物……………三八

焼ぶた……………三九

豚味噌……………三九

むしぶた……………三九

豚肉の吸物……………四〇

酢味噌合……………四〇

天麩羅……………四〇

なかみの吸物……………四一

鹽豚の食方……………四一

肝臓腎臓及血の料理……………四二

其他の豚料理……………四三



第十章 豚の疾病及び治療法

家畜保健の原則 ..... 二四

疾病の豫防 ..... 二五

健康及疾病の徴候 ..... 二七

傳染病 ..... 二八

豚疫 ..... 二八

(一) 豚羅斯疫 ..... 二九

(二) 豚肺腸疫一名豚虎列拉 ..... 二九

豚の結核病 ..... 三〇

豚の流行性鷓口瘡たる口蹄疫 ..... 三〇

豚痘 ..... 三一

豚の炭疽 ..... 三一

豚の狂犬病 ..... 三二

皮膚病 ..... 三二

豚の濕疹性皮膚病 ..... 三六

豚の蕁麻疹 ..... 三七

消化器病 ..... 三九

咽頭炎 ..... 三九

豚の疝痛 ..... 四〇

豚の胃腸加答兒 ..... 四一

運動器病 ..... 四二

筋肉痲痺質斯 ..... 四二

佝僂病 ..... 四三

神経系病 ..... 四四

腦炎 ..... 四四

寄生虫症 ..... 四五

旋毛虫 ..... 四五

囊虫 ..... 四七



養豚全書 目次

腎臓虫

疥癬

豚腫

獣疫豫防法

獣疫豫防法施行細則

獣疫豫防心得

一一

二八七

二八六

二八九

二八九

二八九

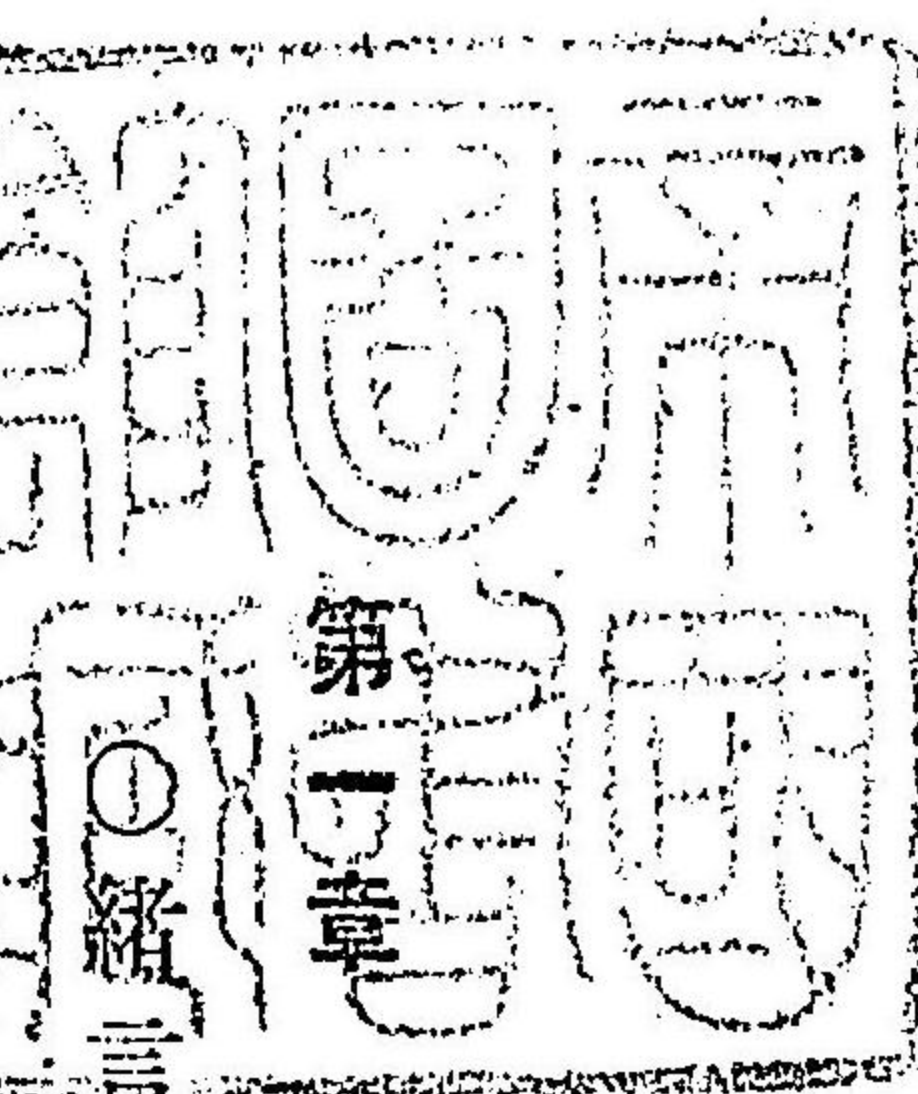
三〇一

# 目次終

## 改訂 養豚全書

農學博士 本田 幸介 校閲

新潟縣立加茂農林學校 教諭 高山 徹 著述



世界の肉食に及ぶの必要論

我國養豚の政策を一掃し去るや泰西の文物一瀉千里の勢を以て進入し  
國運駸々として日に月に進み文に武に實業に長足の進歩をなし文明の光華  
燦然として輝き征清役の全捷と共に我邦の名聲は朝暉の天に冲するが如く  
國威頓に宣揚し國權大に其勢を張り版圖を擴張し從來東洋の一小島國とし  
て輕過視せられし者一躍して字内の列強と相伍し彼れと平等の國權を獲得  
し彼の碧眼赤髯の徒をして少しく畏敬の念を惹起せしむるに至れり是れ我  
國民をして壯絶快絶太平を謳歌せしむる所以なり然れども熟活眼を開いて



宇内の大勢を洞察するに實に吾人をして悠悠閑々空過すべからざるを覺知せしむるものあり彼の英と云ひ露と云ひ其他獨佛米の如き皆是れ國富み兵強く萬國を凌ぎ國勢駭々として日に月に開化に趨き而かも英露朝に擊器を造れば獨佛夕に之を壞るの具を發明し英佛日に數十の艦艦を製すれば獨米月に數百の艦隊を組織するが如く一窺一應片時も自己を護るに怠らざるのみならず尙ほ進んで互に侵略を試みんとするものゝ如し見よ英はその猛勇を以て尙ほ他國を蠶食し領屬を擴張しその羽翼を伸張し漸次天下を吞噬せんとし露は彼の強大を以て尙ほ爪牙を琢磨し暴掠を試み乘すべきの隙あらば一番奮起東洋の覇權を掌握し漸次宇内を吞噬せんとす其他獨と云ひ佛と云ひ米と云ひ皆然らざるなし米の比利賓群島を領屬とし其遺利を獲得し其功名を博せんとするが如き露の不凍港を得亞細亞大陸を經略するに汲々たるが如き皆考證善例にあらずや嗟吁實に現時の社會は優勝劣敗弱肉強食忌むべきの狀勢を呈し日に月にその勢を逞ふしその表面は平和條約萬國公法の規定ありと雖もその裏面を精索するに吞噬排外風を成し實に吾人をして

寒膽措く能はざらしむ然るに眸を轉じて我國の内情を見るに實業に學術に彼と我れと相對比する時は吾人をして轉た慨歎に堪へざらしむるものあり嗚呼我が同胞今にして大に奮起するにあらずんば此の如き社會に介立し國の體面を全ふし我が國威を發揚し白哲人種をして後へに墮若たらしめ旭旗を翻へして宇内に呼號せんこと得て望むべからず奮起せよ我同胞單に皮相的の文明に止まらずして能く其實を擧げ以て富國強兵の策を執り國家の基礎を安全鞏固ならしめざるべからず

抑も宇内の列強と相對立し彼れに匹敵し事をなさんと欲するものは其智力體力兩ながら亦た彼れに匹敵せざるべからず彼の白哲人種を見るに其軀幹の強大にして體力の強大なる其事業をなすに活潑にして敏速なる者老年に及びて鏗鏘として尙ほ壯者を凌駕するものあるは吾人の驚く所なり然るに翻て邦人を見るに其軀幹の矮小にして體力の微弱なる然かも年五十にして老者となり他人の力に頼らんとするもの多きが如し誰か寒心せざるを得んや彼の北清事變は我が軍隊と列國軍隊との優劣を試むる試金石たりしなり



而して我が軍隊が此の試験に於て優等の地位を占めたるは吾人の快嬉に堪へざる所なり然れども今回の戦争は單に氣力的一面に於て其優所を發揮したるに過ぎずして他面に於ては體力的劣所を示したり嗚呼我が一般國民の體力の小弱なる既に斯の如く我が軍人體力の劣れる又斯の如し愛國の士豈に一日も放心すべき時ならんや嗟呼斯の如く彼我の間に軒輊あるは人種の同じからざる風土氣候の異なる等與りて力あるは疑ふべからずと雖も然れども彼の生計の程度遙に我に優り殊に古より乳肉を食用したるに職由せずんばあらず強存弱滅は動すべからざる真理なり嗚呼我が同胞肉食の必要日に日に益々急なりと云はざるべからず

我が國に於ける肉食の習慣は中古佛教の傳來と共に一頓挫を來し爾來佛法の流布旺盛を極むるに至り一般に肉食を嫌忌し耕種に重きを置き養畜の如き單に採肥用が若しくは使役用としてなしたるのみ其家畜の肉を食するが如きは非人として非常に排斥せらるゝに至たり然るに維新開國以來泰西の文物進入すると共に長年の迷夢も玆に漸く覺め來り佛教的禁肉論は漸々其

形を失ひ去り肉食の風習駿々として邦人間に傳播し肉類の需要益々多きを致さんとするに至れり然るに天産は以て其需要を充し得ざる遙に遠く之を以て家畜の需要年を追ふて増加し牛畜の如き業己に供給の不足を來し毎年多額の輸入を仰ぐに至れり斯く肉食の必要は一般人民に公認せられたりと雖も供給不足の爲め肉價非常に騰貴し中等以上の生計にあらざれば肉類を常饌に充つることなし然るに中等以下の人民は國民の最多數を占め此等人民の幸不幸は直ちに國家の健否に影響する大なり故に此等人民の常食を改良し充分なる滋養物を與へ健全に智力と體力とを發達せしむるは實に國家を健全ならしむるの基となすも敢て失當の見解にあらざるべし

從來我が國農民の常食は極めて粗末にして乳肉の類を口にする殆ど稀なりと云ふも不可なきが如し之を歐米農民の常食に比較するに到底同日に論ずべきにあらず其勞働の遙に彼に劣る固より其所なり然るに世人動もすれば益々粗食して一層勞働すべしと勸誘するものあり之れ甚しき愚論にして恰も汽車汽船に於て良き燃料を惡しき燃料に改めて一層速力を増さしめんと



すると同じ凡そ仕事をなすには一定の順序ありて又一定の制限あるものなり彼の汽車汽船の如き其全速力を出さしめんとするには豫め必ず良き燃料を充分に燃焼せしめ各要部には油をも注ぎて然る後に全速力を出さしめざるべからず人間も之と同じく一層労働せしめんには又豫め一層滋養分に富みたる食物を食せしめざるべからざることば當然の理なりとす故に我國農民の常食を良好にし相當の滋養物を給するは農事振興の一助となすも敢て過言にあらざるなり

斯く肉食の必要益々急なるに拘らず一方に於ては業已に供給の不足を見る吾人焉ぞ之を黙視するを得んや然らば如何なる方法を以て此等の不足を補ひ一般人民の常饌に向ひて最も廉價に肉類を供給し得るや余は一般畜産業を發達せしめ就中特に養豚事業を振興するを以て一大良策と信ず數多の學者實業家も亦た同意見を有せるか如し我が農商務省にては夙に種豚を輸入し大に斯業の發達を企圖されつゝあり斯く特に養豚事業を以て良策として舉ぐる所以のものは他にあらず豚そのものにて次に述ぶるが如き便利なる

豚の他家畜  
と異なる點

特質あるが爲めなり即ち

豚には他の一般家畜と異なる特質數多あり今主なるものを擧げんに

(一)養豚は他の牧畜と衝突せず 牛にても馬にても其食餌とする所は主として枯草なり其他の一般家畜も亦一定の食餌とする所ありと雖も豚に至ては枯草を除くの外は飼料として殆んど何等の好嫌あることなし故に他の家畜にありては五匹の牛を飼ふに足るべき食餌を有するときは此上更に他の家畜を養ふ能はず馬にても羊にても亦た然り然れども豚の場合は之と異にして其食ふ所のものは他の家畜と衝突せざるを以て飼料として供し得る丈の牛馬を飼養したる上に更に豚をも飼養するを得べし即ち農家經濟より云へば豚は他の家畜と衝突せざるの利益あり

(二)地面氣候を擇ぶ性少し 豚以外の家畜は一定の地面氣候を要するものなり例へば羊は温氣を帯びたる低地は病羊を生じ易く馬の乾燥地を好み牛の丘岡の地を嫌ふが如し然れども豚は土地の高低乾濕に就き殆んど虞る所なし故にアルプス山嶺の解の實ドンダリを食ふて生活するあり或はドナツ



川の沿岸に葦の根を食ひつゝ飼はるゝあり同沿岸は非常なる低湿地にして牛馬も之を牧すること能はず作物も之を栽するに堪へざるなり然るに豚は此等の地方に於て優に生存するを得るものなり以て豚飼養の土地氣候に關係する少きを知るべし

(三) 豚は食物を擇ぶこと少し 凡ての家畜は犬と猫を除きては植物質にあらざれば殆んど食ふことなし然るに豚は動物植物の兩質を併せ食ふの便あり即ち庖厨の残物を食ひ雜穀の掃き寄せ根菜類の片塊等も之を嫌はず酒精の糟も麥酒の糟も澱粉の糟も亦好んで之を食せり

(四) 豚肉は貯藏し易し 牛羊其他の家畜の肉は之を貯藏して久しきに堪へしむること困難なり又其味に於ても大いに損ずる所あり豚肉は久しく之を貯藏することを得其味は毫も損することなきのみならず却て生肉に勝ることあり沖繩の名産鹽豚は世人の賞翫措く能はざるは人の能く知る所なり之は單に生肉に食鹽を擦込みたるものなりハムも亦生肉を鹽漬にし之を燻したるものにして西洋諸國及び支那に於て翫味する所なり其他久しく貯藏し

て之を調理するも其味は依然として異なることなし牛肉は往年我國に於て鹽漬にしたることありしが味甚だ悪しく到底食用として味ふ能はざるなり蓋し豚肉の他に異なりて貯藏に堪ゆる所以のものは皮膚の厚くして脂肪に富めるを以てなり即ち脂肪は腐敗し難きものにして然かも之を掩ふに厚き皮を以てし空氣の侵入を防ぐこと恰もブリキ罐に入れたるが如く内外共に腐敗を防止すればなり

(五) 豚は人數の多少に係らず之を屠ることを得 前述の如く牛肉は貯藏に堪へざる爲め少人數の爲めに一頭を屠るときは消費するに餘りあり之を他に賣拂はんとするも平素之を業とすれば格別なるも然らざれば賣ることすらも容易にあらず從て自ら之を損せざるを得ざるなり然るに豚肉は之を貯藏すること容易なるを以て少人數に一頭を屠りて殘餘を生ずるも之が始末に窮することなし是は前條の當然の結果なるが余の特に云はんと欲する所は大小を屠るの自由なるにあり即ち牛に付て之を見るに曠の肉は白色にして柔軟に失し味美ならず故に其價格も亦他に比して二三割許り廉價なるを



常とす例へば他の牛肉一斤四十錢なるときは頓肉は三十錢内外なるが如し去ればとて老年に達したるものは繊維強固にして水分に乏しく味亦甚だ美ならず其最も賞翫すべきは壯齡にあるものとす豚と雖も多少此傾向なきにあらず然れども之を牛羊に比するときは殆んど其差異なしと云ふも不可なきなり故に人数の多少に依り之に相當せる大きさのものを屠るの便あり是れ他の家畜に優る所なり

(六)繁殖力強大なり 豚は交尾以來分娩に至る迄即ち懷妊期は凡そ百十六日乃至百二十日とす分娩は一年二回にして一回に六匹乃至十匹を生むを普通とす其多きものに至りては一回二十二匹に達したることあり而して分娩後滿一ヶ年を経過すれば交尾に適す其早熟なるものは六七ヶ月より交尾に適するものあり其最も食用に適するものは滿一歳乃至一歳半なりと雖も其年齡及期節を擇ばざるなり夫れ斯の如く繁殖速に且つ大なるを以て新開國若しくは開墾地又は肉食の急進國に於ては養豚は最も其需要に適應したるものなり例へば我日本の如き特に東京は從來多く肉食せざりし者一たび其衛

生上に必要なるを認むるや肉の需要は激増し牛肉鳥肉及び魚肉等は以て之に應ずるに足らず遂に繁殖力の最も大なる豚を以て之に代ふるに至るは固より其所にして近頃は東京附近若しくは神奈川千葉等に盛に飼養し又各府縣共之か飼養を奨励するに至れり北海道の如き新開地に於ても亦然り歐州移民の初めて北米合衆國に移住するや幾多の困難は固より覺悟の前にして財産も亦豊ならずと雖も而も遠く故國を離れて本國在住の生計よりも低きは其忍び能ふ所にあらずして遂に銳意豚の飼養に力めたるの結果同國の養豚は今や非常の進歩をなし歐洲諸國に輸出するもの益々多きを加へ現時世界の三大養豚國中其首位を占むるに至れり又新開國の住民は概して資本に豊富なるものにあらざるを以て之か運轉は最も迅速なるを必要とす而して養豚事業は資本を要すること比較的少く加ふるに他の牛羊等に比すれば其繁殖速にして早く食用に適し其資本は早く取返さる換言すれば資本の運轉速なり故に新開地に好適す

(七)豚には殆んど廢棄物なし 其皮は之を革して靴其他を造るべく其毛は



ブラシとなすべく骨は象牙の代用となすべく腸は之を腸詰となすを得其他血液と云ひ膀胱と云ひ全身殆んど捨つる所なし他の家畜類は其使用に堪へざる部分あり些くとも腸位は不用となるを免れず

(八) 大小農家何れにても飼養することを得 換言すれば其多少を問はず之を飼養することを得他の家畜類には斯の如き便利なし例へば羊は一匹許り飼養したればとて相當の人手を要し設備をも要するものなり又毛を剪るとしても僅かに一二匹にては如何ともする様なし故に少くとも或一定數迄は之を飼養するを利とす従て大農にあらざれば之を飼ふ能はざるなり之に反して豚は一匹にても二匹にても食物の得らるゝ限りは隨意に之を飼ふことを得べし之れ別段手数を要せざるが爲めなり

豚の他の家畜類と異なる所は概ね上述の如し故に我國の如き肉食の急進國にありては最も適當したる家畜にして近來之が飼養の流行するは最も賀すべき状態なりと云はざるべからず然るに肉用の豚にありては分娩より屠殺せらるゝ迄は空しく食餌して何等の用途に供せらるゝことなし故に其成熟

養豚業計畫  
上  
守  
す  
べ  
き  
件

したるものゝ價格と分娩より屠殺に至る迄の費用の差額の大小に依りて其飼養の如何を決すべきなり予は茲に於てか豚を飼養せんとするものゝ最も慎重に注意せざるべからざるものあるを認む即ち養豚に依り苟も利益を得んと欲するものは其第一の問題として引續き飼料を充分多量に且つ廉價に得らるゝや否やを攻究せざるべからず然らざれば豚の如何に有利なる家畜なりとするも之が飼育の經費の爲めに收支償はざるの恐れあればなり例へば酒精糟麥酒糟其他農場より出づる廢棄物等常に引續き之が供給を得るの途存し且つ價格は最も低廉ならざるべからず故に養豚事業は必ず副業として營むに好適するものと云はざるべからず

本邦の養豚業は明治初年に一時非常に流行したりしが元來何等の意味もなき流行にして經濟に基礎を置かず恰も衣服其他の新陳代謝して流行するが如くなりし加ふるに投機的不正の徒の玩具となりしが故暫くにして斯業の爲め一大不幸を來し無實の罪を負ひ再び立つべからざるの衰境に沈淪せんとしたり蓋し當時の養豚業者の大多數は斯業に不案内にして全く養豚業の



特性如何を知らずして營みたるが如し故に其失敗をなしたるは寧ろ當然の事にして決して豚そのものゝ罪にあらざるなり然かも此頃は肉食未だ盛ならず殊に豚肉には旋毛虫なる寄生虫ありて之を食するときは人生に最も恐るべきものたるを稱揚せしものありて益々需要の途を斷たれ空しく寶の持腐的となりし等斯業衰微の原因をなしたりき然るに今や肉食盛となり需要廣く且つ旋毛虫の如き其撲滅最も簡單にして恐るゝに足らざるに至れり故に經濟を根據とし能く飼養法の宜しきを得ば決して再び明治初年の如き失敗には陥らざるべし然れども予は農家に向ひて悉く主業として養豚すべしと勧誘するものにあらず前に述べたる如く引續き飼料を充分多量に且つ廉價に得らるゝの範圍に於て農家の廢物利用的に副業として各自相當の豚を飼養せんことを希望して止まざるものなり尙ほ委しく云へば飼料少なき小農は斷乳したる仔豚を飼ひ飼料の稍や多き中農は小農か飼育したる生後五六ヶ月の中豚を買ふて飼養し飼料の多量ある大農若しくは農産製造家(醬油、酒類、澱粉及豆腐製造家の如きもの)は中農が飼育して稍や成熟せしめたる豚を

適切なる養豚法

買ふて肥育して屠殺豚にするか若くは繁殖用の母豚を飼ふ様にすべし之れ沖繩縣にて行はれ最も成功したる方法にして我が國一般に應用して最も適切なる養豚法と信ず此方法を以てせば殆んど總べての農家をして養豚せしむることを得べし若し全國の農家が悉く飼養するとせば其生産實に莫大となり肉の輸入を仰かざるのみならず進んで輸出國たることを得べし

### 第二章 總説

豚字の解

豚は學名を *Sus Scrofa* と云ひ佛蘭西語にて *Porc* 獨乙語にて *Schwein* 英語にて *Pig, Hog* 或は *Swine* 特に牝を *Sow* 牡を *Boar* と云ふ日本にては豚の字の外に豕、家猪等の字あり牡を豶、牝を豨、豨、豨と書し豨丸を截去したるものを劊豚又は豨と書せるあり大槻氏の言海に據るに豚(ぶた)は肥大なるを形容したる語なりとあり即ちぶたぶたしたると云ふ語より來りしものなりと日本にて昔は豚を<sup>ぶ</sup>を<sup>ら</sup>或<sup>は</sup>い<sup>の</sup>こ<sup>と</sup>と云ひたり近頃は斯く云ふこと少し

豚の動物學上の位置

豚の動物學上の位置は脊椎動物、哺乳動物、有蹄類、偶蹄類、不反芻類、猪科、豚族に



名産地

屬するものなり  
 豚は他の家畜と同じく有史以前より人に知られたるものにして今日にては至る所に飼はざるはなし殊に温帯地方にては何所も飼養せざるなし其内最も有名なるは支那、北米合衆國、埃地利、匈牙利なり之に次ぎて露西亞なり露西亞は有名ならざるも尙ほ輸出國なり支那は輸出せず北米合衆國、埃地利、匈牙利は輸出國なり其他の國にても盛に飼養し且つ多く消費し英佛の如きは自國産にては不足し輸入を仰げり近年の統計表に依れば主なる諸國の産額は次表の如し

國名	面積 (平方哩)	人口	豚 (頭數)
日 本	一四七、六五五	四二、二七〇、六二〇	二〇〇、〇〇〇
英 吉 利	一一〇、九七九	三八、一〇四、九七二	三、七九四、〇〇〇
佛 蘭 西	二〇四、〇九三	三八、五一四、九八六	六、〇三八、〇〇〇
獨 逸	二〇八、八三〇	五二、二七九、九一五	一、二七四、二八八

本邦豚の來歴

國名	面積 (平方哩)	人口	豚 (頭數)
歐羅巴 露西亞	一、九〇二、〇九二	九一、二二二、八八八	一〇、〇二八、〇〇〇
埃地利 匈牙利	二四〇、九四二	四一、三五八、八八六	八、三五三、三三九
白 耳 義	一一、三七三	六、三四一、九五八	六四六、〇〇〇
和 蘭	一一、六四八	四、二九八、六五八	五七一、〇〇〇
瑞 西	一五、九七六	二、九八六、八四八	五六五、〇〇〇
英領加奈太	三、三一五、六四七	四、八三三、二九九	一、九一六、〇〇〇
北米合衆國	三、五〇一、〇〇〇	六二、六二二、二五〇	四二、八四二、七五九

本邦にて豚を飼養し始めたるは何時代なりしや明ならざるも左迄「舌」からずして沖繩縣を以て養豚の嚆矢とす沖繩縣の養豚の起因は充分明かならざれども先づ二三百年前ならんと云ふ沖繩縣に次ぎて早かりしは薩摩大隅にして百年前に沖繩より輸入し盛んに繁殖したり他の地方に擴りしは四五十年前の事にして養豚の數少かりき維新後風俗變じて肉食大に廣まり夫れと同時に養豚盛なるに至る其間一盛一衰あるも大體より云へば年一年と養豚數



を増加せり明治三四年頃養豚業は一時非常に流行したりしが經濟に基礎を置かざりし爲め暫くにして失敗するもの多く遂に廢棄せらるゝに至れり之れに反し一昨年以來流行せるものは單純なる流行にあらずして經濟を根據としたるものなれば彼の朝に流行して夕に廢せらるゝが如き投機的のものにはあらざるが如し今明治三十二年の調査に係る本邦各産地に於ける豚の頭數を示せば左の如し

本邦豚の  
産地名

養豚道府縣別

道府縣	内種		雜種		外種	
	牝	計	牝	計	牝	計
東京	三六四	二五五	四七〇	三四七	八一	三九九
京都	五〇	三六	一三三	一八六	一七	一〇三
大阪	三八一	二〇〇	一七	三三	四三	二六九
神奈川	七九九	六〇〇	三九五	二六五	二一	八九二
計	一三三九	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇	二〇〇〇

道府縣	内種	雜種	外種	計
兵庫	一八	一九	二〇	三六
長崎	八三	一五五	二五	二〇三
新潟	六〇	一一	一	七一
埼玉	一六四	五二	七	二二三
群馬	三六	一八	一	五五
千葉	二二二	一八九	一	四一一
茨城	一九七	二七	一	二二五
栃木	八三	五〇	一	一三四
三重	三	七	一	一一
愛知	五	八	一	一四
静岡	一	一	一	三
山梨	一	一	一	三
岐阜	一	一	一	三
長野	一	一	一	三
計	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇	二〇〇〇



道府縣	内種		雜種		外種		計	
	牝	計	牝	計	牝	計	牝	計
山口	四	九	七	一〇	六	七	三	一〇
廣島	四	九	一	二	二	三	二	四
岡山								
島根								
富山								
石川	五	六	二	三	一	二	四	九
福井	二〇	二七	六	一〇	三	五	二〇	二九
秋田								
青森								
岩手								
福島	三三	九七	七〇	一五五	二〇	三三	一六	四七
宮城	二八	九〇	四三	一〇	二	一〇	一〇	二〇
計	一〇〇	二〇八	一四三	二五三	二〇	三〇	一〇〇	一三〇

道府縣	内種		雜種		外種		計	
	牝	計	牝	計	牝	計	牝	計
香川								
愛媛	二	五	一	二			一	三
高知	三〇	三三	一	二			一	三
福岡	七	三三						七
大分	三	五	四	五				八
佐賀	三	五						八
熊本	五	一〇						五
宮崎	四	九	三	五				八
鹿児島	三	六	二	三				五
鹿兒島	三	六	二	三				五
沖繩	五	二〇	一	二				七
北海道	二〇	二七						二〇
計	九四	一八八	六四	一四七	一三	二〇	二〇	二二七

而して屠殺豚數に依れば沖繩臺灣最も多く鹿兒島之れに次ぎ其他東京大阪



豚の發育

豚の年齢を  
知る標徴

長崎、神奈川、千葉等盛なり  
豚の發育は種類及び管理飼養等によりて大に異なり一概に云ふこと能はず  
先づ大體より云へば生兒の體量は一斤乃至三四斤あり而して發育速なるも  
のにして成熟したる豚の體量は普通二十五貫乃至百貫にして最も大なるも  
のは二百十七貫餘に達するあり  
豚の年齢は熟練せるものにあらざれば知るに少しく困難するなり種類及び  
飼養管理等によりて一定の標徴なし唯た参考とすべきは其齒及び皮膚等な  
り豚の齒は完備したるものは上下顎同數にして四十四枚なり即ち門齒十二  
枚犬齒四枚臼齒二十八枚なり而して十二枚の門齒の内中央の四枚を鉗齒其  
次の四枚を中間齒其次きの四枚を偶齒と云ふ偶齒の次ぎにある四枚は犬齒  
にして其犬齒の次にある十六枚は前臼齒其奥にある十二枚は後臼齒なり犬  
齒の形及大さは種類及び年齢によりて異なり牡豚の下顎犬齒は牝豚のもの  
に比し發達し又は未改良種は改良種に比して大に發達せり豚の齒の發生及  
ひ脱換は他の家畜と同しく年齢に伴ふも比較的豚に於ては不規律なり今大

體を表示すれば次の如し

期	齒	成	乳	門齒		犬齒		臼齒			合計
				前	後	第一	第二	第三			
生	四週	四週	四週	○	○	○	○	○	○	○	八
三ヶ月	六週乃至八週間	四週	四週	○	○	○	○	○	○	○	二八
六ヶ月	九ヶ月	九ヶ月	四週	○	○	○	○	○	○	○	二〇
九ヶ月	十ヶ月	十ヶ月	四週	○	○	○	○	○	○	○	二四
十ヶ月	十ヶ月	十ヶ月	四週	○	○	○	○	○	○	○	二六
十ヶ月	十ヶ月	十ヶ月	四週	○	○	○	○	○	○	○	二八

(但し改良種及罕丸を除きたる豚の齒は脱換せざることありと云ふ)

老年の徴候

豚は年を経るに従ひ成齒は不規則なる缺損をなす其老年の徴候は牡豚は鼻



皺牝豚は其腹の深く垂落せる等に由りて能く知られ齒に因りて識別すること寧ろ困難なりとす

豚は大抵一歳位にして繁殖に適し其乳頭の數は一定せず或は七八個或は十五個なるあり而して左右の數も亦等しからず或は右に五個にして左に七個なることあり或は左に少く右に多きことあり

豚は種類に依り大に異なるも四歳に達すれば最早發育停止し衰退に傾く而して生存期は十五年間位なり

### 第三章

#### ○豚の種類

動物は個々全く相等しきものなし然れども歐羅巴人と日本人と云ふが如く歐羅巴人は歐羅巴人と日本人は日本人と互に相通じたる形質あり例へば頭髪の色及び眼の相似たるが如し斯く相通じたる形質を有したるものにして其の形質が累代遺傳するものを集めて團體となし其團體を種類と名く換言

種類の解

すれば種類とは同種に屬し一つ又は數多の特別なる形質を相通して具有し其形質を良く固定し且つ遺傳する一集合體を云ふなり

種類の成立には自然と人工の二原因あり自然の原因とは土地氣候飼料等の作用にして總べて自然に支配せられて生ずるものなり人工の原因とは雜種訓練等の作用によるものにして自然以外に人工を加へて其目的に近からしめんとするにより生ずるものなり其他原因不明にして偶然に生ずるものあり

種類は家畜の多少或は其擴張の廣狹或は効用の多少等を定むるものにあらずして單に其特別の形質を固定し之れを遺傳する集合體を云ふなり故に日本崎面豚の如きは今日其數甚だ少くして必要も殆んどなし然れども矢張日本崎面豚の種類を保ち得るなり

#### ●種類の撰擇

凡そ家畜の種類を撰擇するには先づ第一に風土氣候に適するや否やを定め次に飼養管理の難易及び飼養の目的等に就て考ふべきものなり然れども豚

種類の撰擇



養豚の目的

は比較的風土氣候を擇ぶことと少なきを以て先づ飼養管理の難易及び飼養の目的に重きを置き次に其地の風土氣候に適するや否やに付て撰擇を定むるなり

養豚の目的は地中海のミノルカ島にて犂を引かすが如き特別の外主に繁殖用と需肉用採毛用及び採肥用とす需肉用には生肉用と製肉用の別ありて之れによりて種類の撰擇も亦た異なるものなり即ち生肉用とは生肉のまゝ直ちに料理して食するを云ひ之れに好適する種類は成熟速にして肥満すること最も早き英國の小形種の如きものなり製肉用とは一旦肉を製品例へばハム等を製して用ゆるを云ひ之れに好適する種類は英國大形種の如きなり而して生肉と製肉とに兼用せらるゝ種類は英國中形種の如きなり豚を生肉用にするると製肉用にするると何れが利益なりやの問題に至りては經濟上の方面より攻究せざるべからず故に一概に論ずること能はずと雖も先づ人口稀薄にして需要地を距る遠き地方にては可成製肉即ちハム、ベーコン、鹽豚等を製して販賣するを利益とす之れに反して人口稠密なるか又は生肉

日本に適する種類

の需要盛なる地例へば都會若しくは其附近にては生肉として販賣するを利益とするならん本邦に於て飼養せらるべき有望なる種類を列舉せんに余は先づ次の八種類を擇ぶなり

英國小形種

- (一) エセックス種(黒色)
- (二) 小形ヨークシャー種(白色)

此の二種は共に早熟にして生肉用に適し都會及び其附近の地に飼養して可なり

英國中形種

- (三) バークシャー種(黒色)
- (四) 中形ヨークシャー種(白色)

此の二種は中熟にして生肉製肉兼用に適す

英國大形種



(五) 大形ヨークシャー種

此の種は晩熟にして製肉用に適す人口稀薄運搬不便飼料の最も低廉なる田舎地方に飼養して可なり

米國種

(六) ポーランドチャイナ種(黒色)

(七) チェスターホワイト種(白色)

此の二種は生肉製肉兼用に適す

亞細亞種

(八) 支那豚

此の種も生肉製肉兼用に適す

右の八種に付き就中間遠なく成効の見込みあるはパークシャー種と中形ヨークシャー種なりとす日本の豚を改良せんには先づ此の二種を本となし其地方種と雜種を作り其風土氣候に馴適せしむべし猥りに種類を多くするが如きは餘り好ましからざるなり改良種を飼養せんには最初は繁殖用のみ純

良豚の撰擇法

粹種を擇びて購入し漸次自ら繁殖をなすべし彼の一時に多くの高價なる純粹種を購入して肥育豚となすが如きは經濟上策の得たるものにあらざるなり

● 良豚の撰擇法

豚を撰擇するに種類にのみ重きを置きて個體の如何を顧みざるものあれども人間の兄弟に形質の善惡あるが如く同種の豚にも各個獨特の性質あるを以て各個に就て撰擇すること必要なりとす純粹種の如きは其種類の特性を具備すれば他は見ざるも大なる誤なしと雖も雜種に至りては必ず個體に就て一々選擇するを要するなり

良豚を撰擇するの注意は第一に健否を見ることなり豚の健全なると否とは通例の場合には舉動及び食慾又は毛色等によりて知るを得べし第二に注意すべきは體格及び性質なり豚の體格は種類に由りて大に異なり茲に概括して論ずること困難なれども先づ比較的に云へば頭は一體に美小にして粗大ならず頬は太く前額は狭く鼻は短くして先端は細く耳は薄くして短く毛少

良豚の標準



眼は清涼快活なるべく頸は短くして耳後より肩胛に至るまで脊と厚潤を同ふし胸は廣大に脊は廣く同幅を以て尾骶に達し十字部は落ちず後體能く發育し足は短小にして股の内外面共に太く兩股の分界大なるを要す其充分に肥滿せるときは腹は地に着かざる位とし蹄は強硬にして能く揃ふて立ち被毛は光澤ありて柔軟に細きを良しとし毛の用途より云へば寧ろ悪しき方なり如何となれば豚の毛はブラシを造るものなれば粗くして長きを以て良しとすればなり故に良豚と良毛とは相伴はざるものなり凡そ肉用としての豚は早熟早肥を利とす而して此の二性質を俱有するものは其被毛必らず良好ならず被毛の良好なるは成熟肥腴も共に遅緩なり故に良種の豚なるも其食物を劣惡にして取扱を不完全にせば成熟肥腴は遅緩となり被毛は用途より云へは却て良好となるなり夫れ被毛は重寶なるものに相違なきも其價格の肉價よりも利益大なりと云ふこと能はざるなり故に被毛は用途上劣等なるも可なりとす而して良豚は尙ほ皮膚柔撓滑澤なるべく體の大體の形は殆んど長方形にして骨の割合に肉多く性質温和にして能く馴化し飼育し易き

ものを最良の豚とす

豚の色は黒色及び白色を多しとす或は錆色あり斑白あり概して云ふときは黒色のものは氣候食物を擇ぶこと少く且つ強健なり白色のものは凡ての點に於て幾分黒色に及ばざるものあり故に經驗なき人は先づ黒色のものを養ひ相當の經驗を積み然る後に白色のものをも飼養するを安全とするなり豚の善惡を識別することは甚だ緊要なることにして其善良なると劣等なるとは經濟上著しき差別あるものにして劣等なるものは善良なるものと同様の飼育法をなすと雖も増肉すること遅緩にして肉量も少く飼料を消費する點に至りては却て善良なるものより大なりとす劣等なる繁殖用豚にありては産兒も悪しく兒豚の價格も甚だ低廉なり故に代價安き不良豚を飼ふよりは縦令代價は高きも成るべく良豚を飼ふを以て利益とす殊に繁殖用の豚に於て然りとす

#### ●豚の元祖

豚の種類は大別して二つとなす即ち歐羅巴豚と亞細亞豚是れなり歐羅巴豚



は歐羅巴の猪より成り亞細亞豚は印度の猪より成る而して歐羅巴の猪は *Sus scrofa ferus* と云ひ印度の猪を *Sus indicus ferus* と云ふなり今先づ豚の元祖たる此の二種の猪に就て説明せん

歐羅巴の猪

歐羅巴の猪は潤葉樹の繁茂せる陰鬱なる森林中に生活して時々畑に出て、作物を荒す性あり頭は狭長にして顔面殆ど眞直なり涙骨は高さよりも長さが長く臼齒の排列は並行し犬齒は非常に長くして曲り一尺二三寸に達するあり

印度の猪

印度の猪は潤葉樹の繁茂せる森林中に棲息し前種と同じく時々畑に出て作物を荒す性あり唯だ前種と異なる所は頭は比較的短くして廣く涙骨は長さよりも高さが長く臼齒は並行せずして前方に擴がり犬齒は割合に發育せず長さは前種の半分位なるにあり之れ歐羅巴の猪は氣候寒き所に居りて食物少き爲め樹根或は土を掘りて食物を求むる必要よりして自然口部は發達して長くなりたるなり印度の猪は氣候温暖なる所に居り食物多くして土を掘らずとも充分に食物を得らるゝなり故に口部は發達せず體は肥滿し歐羅巴

の猪は瘠せり犬齒の如きも食物を求むる難易によりて必要上自然其發育を異にするなり斯く元祖に於て既に異なるあり従て其子孫に於ても多少異ならざるを得ざるなり即ち印度の猪より出でたる亞細亞豚は歐羅巴の猪より出でたる歐羅巴豚よりは善良なり今日歐米にて有名なる改良種は皆な其本は支那豚即ち亞細亞豚より改良したるものなり今日歐米より亞細亞に輸入し來るは之れ皆な逆輸入と稱すべきものなり

地方種

歐羅巴豚及び亞細亞豚を更に分ちて地方種及び改良種の二つとなす地方種とは例へば支那には支那固有の豚ある如く其土地の風土氣候に依り自然に一定の形體と性質とを有する一種類を化育するものにして獨佛英等の諸國にも亦た此種の在來種あり其土地に馴れたるものなれば概して身體強健に氣候の寒暖に依りて病むことなく食物の良否に依りて困難すること少く能く天然力に抵抗するの力あり而して早く成熟し早く肥ゆる所の性質は多少を欠けるものゝ如し

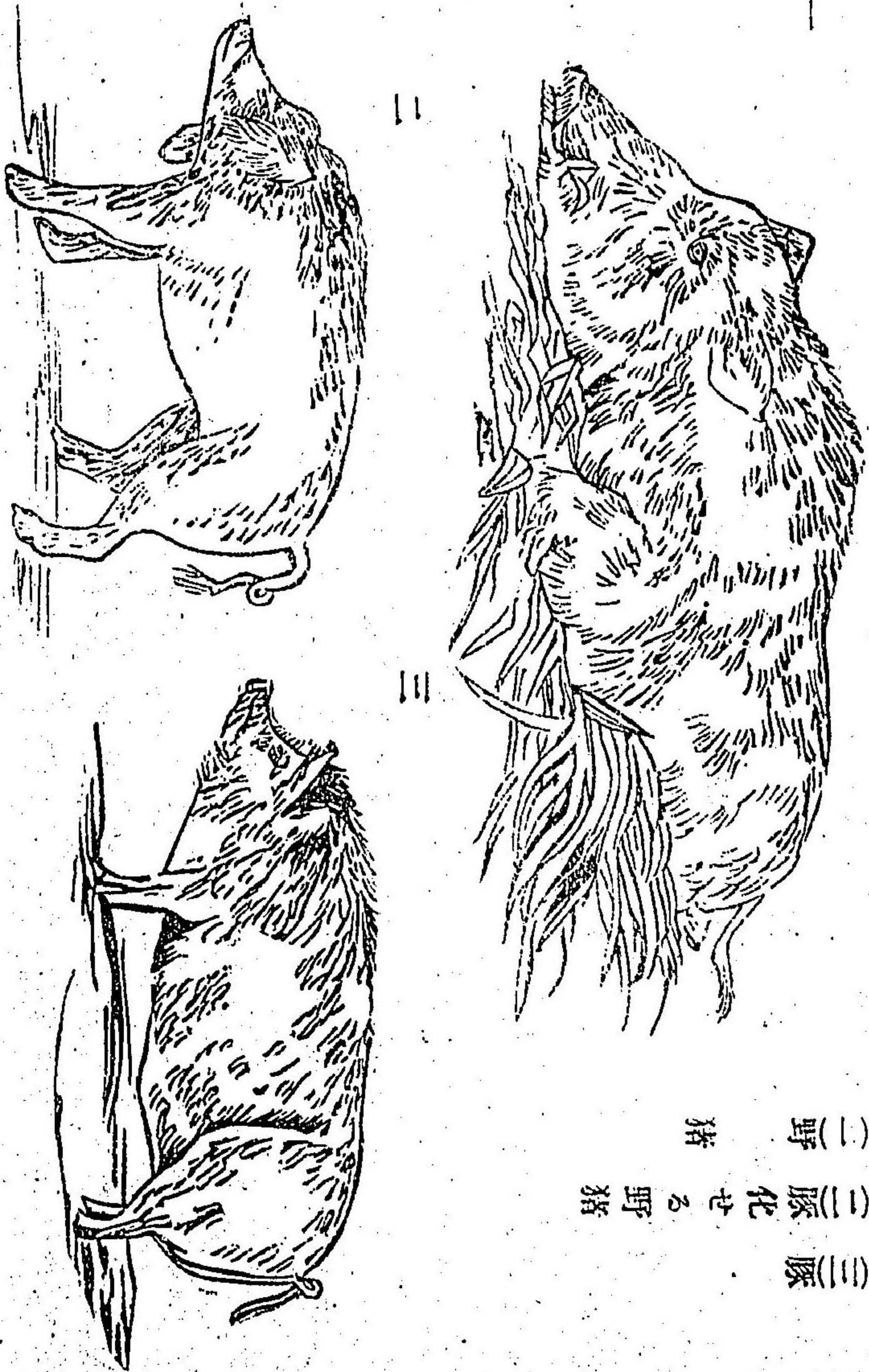
改良種

改良種とは古代は存せざりしが經驗を積み智識ありし人が飼養管理法を變



猪より豚に  
進化せる概  
形

左圖は猪より豚に進化せるの概形なり(牧畜雜誌より寫す)



じ繁殖の方法を異にして改良したるものなり故に謂はゞ人工豚とも稱すべきものなり

甲 亞細亞豚

一 支那豚

印度の猪より來りたる豚の種類多しと雖も其内最も善良なるは支那豚なり此支那豚の色は黒色なるあり白色なるあり或は又た黒白の斑なるあり然れども黒色を最も多しとす全體支那豚は早く成熟する種類にして能く肥り生後七八ヶ月に至れば成熟して生體量二十七貫乃至三十四貫に達す頭は極て短くして廣く頬の所は肉多く附き額は殆ど直立せり鼻の脊は少しく凹めり耳は小さくして動き易し頸は短厚にして丈夫なり體は廣く且つ長く脊は幾分内凹し十字部の所は廣く脚は短小にして強し尾は短くして下に垂れり此豚は支那印度爪哇等に多く飼養せらる

支那豚は改良さるべき總ての性質を有す故に改良種の標本なり此豚は歐洲に輸入して歐洲の豚を本にして雜種を作り能く彼の風土氣候に適したる種

支那猪



類を作りたり歐洲に輸入したるは十八世紀の極末にして英國に初めて輸入せられ此豚によりて數多の改良種を作りたり今日賞賛せらるゝ良種は皆支那豚にて改良されたるものなり即ち歐洲人は此等の性質を巧みに配合して支那豚の良性を取りて在來種の良性と組み合せ兩者の悪性は之れを除去して今日の如く多くの善良なる改良種を作りたるなり

## 二 日本崎面豚

日本崎面豚は千八百六十一年に初めて歐洲に入りたり此名は英國にて命名したるものにして英國にて *Japanese Masked Pig* と云ひ英獨佛の書には大抵此豚のことを記せり歐洲人は屢日本人に向ひて此豚のことを尋ぬるものあれども何人も之れを知るものなく何れの地に産せしやも分らざるなり能く其豚を見るに支那豚の變種にして皮に皺多し顔は恰も假面を被りたるが如し故に崎面豚の名あるなり其他の性質體格は支那豚に似るも特に異なる繁殖力あり即ち日本崎面豚は繁殖力非常に盛なるものにして一産に十二三匹を生むは普通にして二十匹位を生むは敢て例外ならず歐洲人は此豚の繁

日本崎面豚

殖力の強盛なる特性を取りて歐洲豚の性質に加へんと欲して雜種を作りたりしに果して其雜種も繁殖力盛にして一時は大に賞賛せられ飼養者も多かりしが次第に經驗せしに體弱く就中胸態悪しく肺病に罹るもの多く其の雜種も亦た同様の性質ありて次第に之れを飼養するもの減じ今日にては獨逸に僅か残るのみ然し一時盛なりし爲め能く人に知られたり今此れを日本に就て求むるも斯の如き皺襞の多き豚あることなし又た支那に就て調ぶるも居る所なし然らば何故に歐洲にて日本なる字を用ふるやと云ふに其歴史もなし之れ多分爪哇豚にして爪哇ジャバとジャパンと混同して斯く命名したるならん

## 三 琉球豚

琉球豚は印度の猪より成りたるものなり琉球には豚の種類は二あり一は在來種にして島豚と云ひ一は唐豚なり而して島豚は地方に多く飼はれ唐豚は首里那覇の醸造家に飼養せらる

在來種即ち島豚は脚は長く體も長し大抵黒色にして粗毛密生せり顔長く口

琉球豚

島豚



尖り腹は膨れて下に垂れ脊は殆ど弓形に凹めり性質極めて温順なるを常とすれども離島に飼養せらるゝものは粗野なり肉は概して美味なり勿論飼養法に依るも満二三才にして大なるは生體重四百斤位百六十匁一斤とす以下皆之に倣ふなり

唐豚

唐豚の來歴には二説あり一説には今より凡そ六十五年前の成年に支那より冊封使が來りし時に支那豚一偶を携へ來りしが起原なりと云ひ又た一説には矢張今より凡そ六十四五年前頃に英國船琉球近海にて難船せしを救助したる爲め其禮として白豚一偶を献納せしに起原すと云へり而して後説は最も真に近きか如し即ち其證人として彼の原種を預り飼養せし老女今尙ほ生存せるあり今日にて其の純粹種少く殆ど在來種との雜種のみなり唐豚は頭短く脚も短し背は少しく凹めり肉の性質及び體の大き等は能く島豚に似て肥育の點は前者より勝れり生後満二三ケ年にして能く四百斤の生體重となるを得るなり

## 四 谷頭種

谷頭豚

谷頭豚は東京附近伊豆相模及び千葉縣等に普通飼ふ所の白豚にして種類の成立は新しきが如し其來歴明ならず蓋し神奈川縣久良岐郡の谷頭村に生せしならんと云へり或は在來の豚に米國のチエスターホグイトを加はりて其雜種が種類となりしならんと云ひ又た近頃英國のヨークシャー種が在來種に加はりて雜種したるものならんと云へり皆想像説なり石崎氏の最近の調査によれば英米の純粹改良種若しくは其雜種等の間に生じたる雜種にして其中ヨークシャー種の血を多く混し從て其形質に於てもヨークシャー種に最も多く似ると云へり石崎氏の調査は實地に就き精密なる調査なるを以て先づ真に近きが如し

此の種の優等なるものゝ形質を云へば顔は中庸にして頸能く發育し額骨と鼻骨とは殆んど直角をなし耳は直立し脊は廣くして直く肋骨は能く張り腿は豐廣にして四肢は細く長さ中等なり眼は銀鼠色皮膚赤色を帯び被毛白色なり性質丈夫にして可なりに早熟種なり此の種は體も大きく先づ改良種と云ふを得べし



歐羅巴豚

乙 歐羅巴豚

歐洲の豚の種類は古より成立せるものを一々列挙すれば其數甚だ多しとす  
在來種は何れも不良なるものにして僅か一二の良種あるのみ改良種は英米  
の二國に多く見る所なり抑も英國は蕞爾たる一小國にして耕すべきの土地  
狭小に人口夥多なり小地積を以て多數人口を養ふを得ず是に於てか牛馬羊  
豚其他家禽に至る迄常に他國に卒先して改良を努めたり米國は新開國にし  
て其人民は大抵歐洲より移住し來りたるものなり近年人口著しく増加し肉  
の需要も亦た急劇に増進せり從て之に供給するに最も便利なる豚は玉蜀黍  
の栽培と共に盛に飼養せられ今日にては同國農産物の主部を占め其輸出も  
實に莫大なり

在來種

五 タムウォルス種 (Tamworth breeds)

在來種の飼養せらるゝもの次第に減し今日にては殆ど之を飼ふものなし獨  
りタムウォルス種は改良種と共に飼養せらる肉は柔かにして生肉用にも適

タムウォルス種

し又たハム、ペーコン等を製するにも適す頭は割合に小さく耳は直立し體色  
は鏡の錆びたる色即ち赤黄色あり或は又た汚き白色に褐色の斑あり良豚な  
れば二歳乃至二歳半にして百六十貫目位となる極普通なるも八九十貫目に  
達す此豚は支那豚の血が少しも混せざるものにして純全たる歐洲の在來種  
なり英國及び其他歐洲全體に飼養せらる體強健にして繁殖力強し

改良種

改良種は英國に最も多く之れに次ぎて北米合衆國最も多し今先づ英國の種  
類より述べる

英國種

英國の改良種に三あり即ち大形、中形、小形是なり此の區別は主に骨格による  
なり故に大形なる故必ず中形より牀重大なりと云ふことなし即ち骨格のみ  
大なるも肉附悪しければ重量に於て肉附き多き中形種に劣ることあるが如  
し大形は骨格大にして體は粗に性質強健なり飼料は幾分悪しきも之れに打  
ち勝ちて生長す然れども成熟緩にして肥腴も速ならず故に賃銀物價の低廉  
なる地方に飼養しハム、ペーコンの如き製造品として都會其他の需要地に出



すべし小形は骨格極小にして全體亦小なり體は稍弱き方なり飼料を良くすれば早熟早肥す生肉用として都會若しくは其附近に主に飼養せらる中形は大形と小形との中間にありて製造品及び生肉用にも適す

小形種

小形種 (Small breeds)

エッセックス種 (Essex breeds)

ハルフォートシャー種 (Hertfordshire breeds)

サフオーク種 (Suffolk breeds)

小形ヨークシャー種 (Small Yorkshire breeds)

ウインズル種 (Windsor breeds)

コールスヒル種 (Coleshill breeds)

リンコンシャー種 (Lincolnshire)

此等の内日本に有望なるはエッセックス種と小形ヨークシャー種なり

六 エッセックス種

エッセックス種は黒豚にして骨格は極めて細く體長方形なり性質丈夫にして脂肪

エッセックス種

能く附着す尤も在來のエッセックス種は體幾分か粗にして割合に脂肪に富む尙ほ一つの缺點は胸部悪しく肺病に罹り易し故に此等の缺點を補はんとして改良をなしたり即ち在來種と支那豚とを交雜せしめ其産れたる子にパークシャーを配して雜種を作り今日のエッセックス種を生出せり今其改良法を式にて示せば左の如し

在來エッセックス種 × 支那豚 = X

X × ショークシャー種 = 改良エッセックス種

此種類は北海道に輸入し充分に其風土氣候に好適し體軀強健に繁殖力に富めり下總に來りしものは體重百貫目ありしと云ふ

七 小形ヨークシャー種

此れは Small White Yorkshire と書し又 Small Yorkshire と書し或は Small white と書せるあり小形の白豚中最良なる種類なり色純白にして骨格小に頭短く口は廣短にして鼻は烈しく前より押し縮められたるが如き觀を呈せり額骨と鼻骨とは殆ど直角をなし耳は薄くして直立し頸は短くして廣く脊は扁平

小形ヨークシャー種



にして腰は廣く四肢は短く脚と脚の間は廣し早熟にして生後八ヶ月乃至十ヶ月を經れば能く肥育法を行ふに適し生體量は二十五貫内外に達す之の種類は彼の短角牛を改良せしシノー、コーリング氏の改良により成立せし種類なり此の種類は改良されてより英國にては支那豚の血を混じて多くの改良種を作りたり此の種は生肉用にして都會及び其附近に飼育するに好適す日本に輸入したりし結果は良好なる方なり體質は尋常にして非常に強健と云ふ方にはあらざるなり

ハルフォートシャー種

八 ハルフォートシャー種

此れは黒豚にしてエッセックス種に似て彼れより劣れり

サツフォーク種

九 サツフォーク種

此の豚は黒色にして温順なり肥肉の點は可なるも氣候及飼料の變化に感じ易く弱き方なり

ウヰンズル種

十 ウヰンズル種

此の豚は白色にして英國王室の御料農場にて出來たる種類にしてヨークシ

コールスヒル種

十一 コールスヒル種

ヤーに似るも繁殖力弱く且つ體も弱し

此の種は小形の白豚にして氣候及び食物の悪しきに堪へ小形の白豚中最も丈夫なるものなり繁殖力最も強し此れは氣候の悪しき所に擴りつゝあり即ち佛國と獨逸の北部に擴りつゝあり肥肉の性質と肉の性質より云へばヨークシャー種に及ばざる遠し唯だ丈夫にして繁殖力強き爲め氣候の悪しき地方に擴りつゝあるなり

リンコンシャー種

十二 リンコンシャー種

此の種は小形にして白豚なり豚の中にて最も多く脂肪に富むものなり少しく肥育の度を過せば脂肪のみとなり肉味悪し故に脂肪用にして肉用には殆ど不適當なり此種の缺點は尙ほ繁殖力の弱きにあり

中形種

中形種 (Middle Breeds)

サッフオーク種 (Suffolk Breeds)

バークシャー種 (Berkshire Breeds)



ハンプシャー種 (Hampshire breeds)

中形ヨークシャー種 (Middle Yorkshire breeds)

此の内にて主なるものはパークシャー種と中形ヨークシャー種なり

十三 パークシャー種

パークシャー種は中形の黒豚にして改良されたる黒豚中最も良好なるものなり苟も豚の改良を企圖する者にして此種を入れざるはなし日本にも古くより入り來り農科大學及び北海道其他に飼養せり今までの經驗に由れば最も丈夫にして繁殖力強く肉附きも多く能く日本の風土氣候に熟化せり今度農商務省の廣島牧場に種豚として輸入せり

此の豚は黒色にして四肢の端と額と尾端とに白斑あり其他肩の所にも帶黄白の斑あることあり被毛は改良種中多き方にして細長なる毛を密生し稍縮れり殊に頸部の毛は多く縮れり頭は極めて小さく口は短小にして尖れり額は稍直立し兩眼の間廣く眼は可なり大なり眼の色は蠟色又は栗色なり耳は小に薄く軟かなるも直立し頬は能く發育し頸は短大にして充實し胸は長深

パークシャー種

中形ヨークシャー種

にして肩及び脊は甚だ廣く眞直にして捲尾に達す腰部に肉多し四肢短強にして脚の間は廣し故に歩武確實なり要するに全體の形は各部分能く比例せり豚の種類中最も美麗なるものにして其舉動も活潑にして一見健康の相あり繁殖力強く可なりに早熟にして一歳乃至一歳半に肥育法を施せば能く六十貫乃至百貫目に達す實に黒豚中世界第一の良種にして馬に亞刺比亞種牛に短角種あるが如く非常に他種に卓越したるものなり又た何處の氣候にも馴れざるはなし我國に輸入して結果好良なるは此の種類なるべし

十四 中形ヨークシャー種

此の中形ヨークシャー種は今日英國に飼養する所のヨークシャー種中最も多く飼養せらるゝものなり白豚にして骨格は中庸に體軀強健なり顔の長さは中位なり口は丈夫に耳は中位の大きさにして直立せり胸は小形ヨークシャー種に比せば長く大形ヨークシャー種に比せば短し性質丈夫にして繁殖力強く生肉用にも製肉用にも適す恰も大形種と小形種の間々の性質を有す獨り英國のみ飼養盛なるのみならず獨乙にも多く飼養せらる今度農商務省廣



島牧場に輸入飼養せらる

中形サフ  
フォーク種

十五 中形サフフォーク種

中形サフフォーク種は白豚にして性質は小形のサフフォーク種より丈夫なるもパークシャー及びヨークシャー種に比し弱く餘り貴はれず

ハンブ  
プシャー種

十六 ハンププシャー種

此の種は黒豚にしてパークシャー種に類すれども其異なる點はパークシャー種には一定の色あるも此の豚の色は不規律なり

大形種

大形種 (Large breeds)

レスター種 (Leicester breeds)

ヨークシャー種 (Yorkshire breeds)

サフフォーク種 (Suffolk breeds)

リンコンシャー種 (Lincolnshire breeds)

大形ヨ  
ーク  
シャー種

十七 大形ヨークシャー種

此の内にて特に説明すべきはヨークシャー種のみなり

此の種は白豚にして英國は勿論歐洲全體の田舎に飼養せらる我が國にも輸入し北海道に飼養するものは主に此の大形種なり頭稍や長く額は廣く額骨と鼻骨は殆ど直角をなし口は丈夫にして短く頬は能く發育し耳は直立せり胸長く肩廣く一體に前體部は能く發育し後體部は發育良からず骨格は極めて粗にして非常に強健なり仔豚の發育優れ且つ繁殖力強くして一産に八匹乃至十匹を生むは極めて普通なり此の種は主にハム、ベーコンを製するに飼はる晩熟にして大抵二歳乃至二歳半に至り屠殺せられ生體重八十貫乃至百貫目に達す

レスター種

十八 レスター種

此の豚は繁殖力非常に強きを以て有名なり大形ヨークシャー種も元は此種の血を混せり他の大形種も大抵此の種の血を混せり此の種は繁殖力の強大なる外他に良點なし

大形サフ  
フォーク種

十九 大形サフフォーク種

此の大形サフフォーク種は白豚にして頭短く顔凹み耳は垂れり大形種中の早



熟なれども良豚にあらず

リンコンシヤト種

二十 リンコンシヤト種

此の大形のリンコンシヤト種は小形のリンコンシヤト種より性質良好なり即ち早く成熟し肥肉も良く體も丈夫なり顔は長く口は丈夫にして長し耳は中位の大きさにして垂れり此の豚の欠點は毛が餘り少くして寒き所に適せず唯だ氣候の良き所にのみ適するにあり

米國種

國種

前既に述べたる如く北米合衆國は新開國にして經濟上の關係より豚は必要の家畜となり従つて豚の數も多く今日にては最早輸出國となれり斯く重要な家畜なる故人の注意も深く其結果種類も四五種成立し今尙ほ成立しつゝあり

ポーランド、チャイナ種 (Poland china breeds)

チェスター、ホワイト種 (Chester white breeds)

ジューロク、ゼルシー種 (Duroc jersey breeds)

ビクトリア種 (Victoria breeds)

チェシヤ種 (Cheshire breeds)

ポーランド、チャイナ種

此の内有名なるはポーランド、チャイナ種とチェスター、ホワイト種の二種なり

二十一 ポーランド、チャイナ種

此の種は米國の黒豚中最も良好なるものにして早く成熟し且つ早く肥満す肉の味も甚だ美なり頭は短小にして兩眼の間は廣く口は細く尖れり耳は割合に小さくして前に傾垂せり頸は非常に短くして丈夫なり脊は眞直にして廣く稀には脊は少しく凹めることあり四肢は短くして強し體の全體は厚く即ち胴は長からず胸は殊に良く發育せり被毛は柔軟にして密生なり體色は黒色にして恰もパークシヤト種と同じ即ち顔と四肢及び尾の先端に白斑あり之れを稱して六點白と云ふ此の豚は千八百四十年頃北米合衆國のホワイヲ洲に出來たるが如し種類の歴史は明ならされども種々の豚の雜種なることは想像せらる就中オハイヲ洲の在來種と支那豚パークシヤト種及びブリシグレデール種の雜種より成りたるが如し何故にポーランド、チャイナと稱



するやは明ならず或はポーランド豚が米國に來り支那豚と雜種したる爲めなりと云ひ或は支那豚を米國にてポーランド人が飼養改良したる爲め此の名ありと云へり此の豚の色はバークシャー種に酷似す然れども兩者の區別は明なり即ちバークシャー種の耳は直立しポーランド、チャイナ種の耳は前に垂れり體はバークシャー種は長くポーランド、チャイナ種は短し色は兩者の良きものは六點白なれどもポーランド、チャイナ種は種類の成立新しきが故色は關係せず白か多きも黒か多きも可なり此の種は古くより駒場農科大學及び北海道にも輸入し來れども不幸にして肥滿に過ぎて繁殖力少く難産等によりて失敗に歸したり然れども飼養法の宜しきを得ば繁殖をなさしむる必ずしも不能のことにあらざるべし性質温順にして多く食し早く肥滿す生肉用としても亦たハム、ベーコン等の製品用としても適す

チエスタ  
ホワイト種

二十二 チエスタ、ホワイト種

此の豚はニューヨーク洲のチエスタと稱する地に成立したる種類にして米國の白豚中第一と稱し米國にて最も廣く飼養せらる頭極て小にして口は細

ジエロク  
セルシー種

く尖れり頬は能く發育し耳は薄く細くして前に傾垂せり頸は短く脊は眞直にして且つ廣し腰は丈夫に廣く後方の肢は特に肥へ四肢は體の割合に小なり被毛は細くして密生せり繁殖力強くして一産に八匹乃至十五匹を生む此の豚は英國の中形のヨークシャー種に能く似る其異なる點は第一ヨークシャー種の耳は直立しチエスタ、ホワイト種の耳は前に垂れり第二ヨークシャー種の胸は短くチエスタ、ホワイト種の胸は長し第三ヨークシャー種は皮に斑少く或は全くなし然るにチエスタ、ホワイト種の皮には斑多し此の三點か兩者を區別する主なる形質なりとす此のチエスタ、ホワイト種は未だ日本に輸入せしことなし農商務省にては近々の内に輸入する筈なり

二十三 ジエロク、セルシー種

此の種は最初に述べたるタムウォルス種に似るも近頃の成立にして種類は未だ固定せず

二十四 ビクトリヤ種

此れは白豚にして往々黒斑點あり被毛細く柔軟なり小形の豚にして顔は短

ビクトリヤ  
種



く胴も短し一體に小なり

チエシヤ  
種

二十五 チエシヤ種

此れは白豚にして全體の形はパークシヤ種に似る故に之れを白パークシヤ種とも稱す種類は未だ充分に固定せず

最良種

豚の種類は非常に多くして一々枚擧するに遑あらず以上述べたる種類は最も良好なるものなり就中黒豚にては英國のパークシヤ種と米國のポランド、チヤイナ種、白豚にては英國のヨークシヤ種と米國のチエスターホリイト種を推して其最も良好なるものとす此内今日迄我國に於ける成績の充分に明なるはパークシヤ種とヨークシヤ種とす此兩種は寒熱の地にも適せざるなし特に政府は種豚として之を輸入したれば確實なるものを得るに苦まざるなり故に差當り經驗なき人が豚を飼養せんとするときは前記兩者殊にパークシヤ種を撰ぶを可とす而して此外の種類を飼養せんには此等の確實なるものを養ふに馴れたる後に於てせば誤りなかるべし

〔附〕

豚の附點審査

豚の附點審査

現今各地の豚の品評會に於て其善惡を定むるに附點審査法を用ふ而して其附點審査の方法に二様あり一は肉用家畜の標準形質に基くもの一は種類の標準形質に基くもの是なり何れの場合に於ても其形質中の緊要なる部分に多數の點を附し左程緊要ならざる部分には少數の點を附す換言せば形質の各部によりて標準點を異にす其各部の標準點を悉く合すれば百點にして即ち滿點なり此の滿點百を形質の部分に割賦することは最も必要のことにして豚の改良上大なる關係を有するものなり今北米合衆國二三の品評會に於ける標準形質と點數とを示さん  
アメリカン、パークシヤ種組合に於けるパークシヤ種の標準體格及び標準點數は左の如し  
色は全體黒色にして顔と四肢及び尾の先端は白く而して時に腕の所に白斑あるものを完全とし四點とす  
顔及び鼻は共に短くして顔は良好にして凹形をなし兩眼の間は廣きを完全

パークシヤ  
種の標準  
體格及び  
標準點數



とし七點とす

眼は甚だ清く稍や大きく暗榛色又は灰白色を完全とし二點とす

耳は通常直立すれども時としては年齢の長するに従ひて稍や前方に傾き大

さは適度にして薄く柔きを完全とし四點とす

頬は肥へ膨らみて後方は頸部に達するものを完全とし四點とす

毛は美麗にして柔かく疎密の適度なるを完全とし三點とす

頸は短く頂上の廣きものを完全とし四點とす

皮膚は柔軟にして撓かなるを完全とし四點とす

肩は厚く平かにして頂上は廣く深さは胸と通じたるものを完全とし七點とす

脊は廣く短く真直にして肋骨は裕に張り脹れて臀部と一樣なるものを完全とし八點とす

胴は深く下方に達し其底線の直なるものを完全とし六點とす

横腹(腰)は體の後部の適當位置にありて脚部より下に達し胴の底部と幾んど

一直線をなすものを五點とす

腰は満ちて廣きものを完全とし九點とす

腿は深く厚くして背上に於ては大に開き下方は膝節の部まで太りたるものを完全とし十點とす

尾は後部の適當の位置に附着し細くして粗大ならざるものを完全とし二點とす

四肢は短く真直にして強く兩脚間の距離は尋常にして蹄は直立し能く重き體量を支へ得べきものを完全とし五點とす

全體の相稱は能く全體の大きさに應じて各部分適當に比例するものを完全とし六點とす

全體の形状は完全に發育して強健なるものを完全とし五點とす

風采は自然に好向すべき風采を備へ活氣を帯び養成の完全と強健とを示すものを完全とし五點とす

以上總計百點とす



ポ  
ー  
ラ  
ン  
ド  
チ  
ヤ  
イ  
ナ  
種  
の  
優  
等  
體  
格  
及  
び  
標  
準  
點  
數

ポ  
ー  
ラ  
ン  
ド、チ  
ヤ  
イ  
ナ  
組  
合  
に  
於  
け  
る  
ポ  
ー  
ラ  
ン  
ド、チ  
ヤ  
イ  
ナ  
種  
の  
優  
等  
體  
格  
及  
び  
標  
準  
點  
數  
は  
左  
の  
如  
し

色は暗色斑白、黒色を三點とす

頭は小さくして廣く少しく凹形をなすものを二點とす

耳は良好にして下垂せるものを二點とす

頬は適好に満ちたるものを二點とす

頸は短くして肥へ太り少しく彎形なるを三點とす

胸は肥満したるものを三點とす

肩は廣くして深きものを六點とす

胸の周圍の大なるものに十點を附す

背は眞直にして廣きものを七點とす

胸は満ちて深きものを六點とす

肋骨は能く張り出すものを七點とす

腰は廣くして強きものを七點とす

チ  
エ  
ス  
タ  
ー  
ホ  
ワ  
イ  
ト  
種  
の  
標  
準  
體  
格  
及  
び  
標  
準  
點  
數

肚腹は廣くして眞直なるものを四點とす

横腹(腰)は能く下垂せるを三點とす

腿は廣く満ちて深きものを十點とす

尾は細くして粗大ならざるものを二點とす

四肢は強く眞直にして細きものを七點とす

毛は濃くして柔きものを三點とす

舉動は敏速にして輕快且つ愛らしきものを五點とす

全體の相稱は各部相互に比例したるものを五點とす

以上總計百點とす

チ  
エ  
ス  
タ  
ー、ホ  
ワ  
イ  
ト  
組  
合  
か  
チ  
エ  
ス  
タ  
ー、ホ  
ワ  
イ  
ト  
種  
の  
標  
準  
附  
點  
を  
な  
す  
左  
の  
如  
し

頭は小さく廣く少しく凹形をなせるものを七點とす

耳は薄く細くして垂れるを二點とす

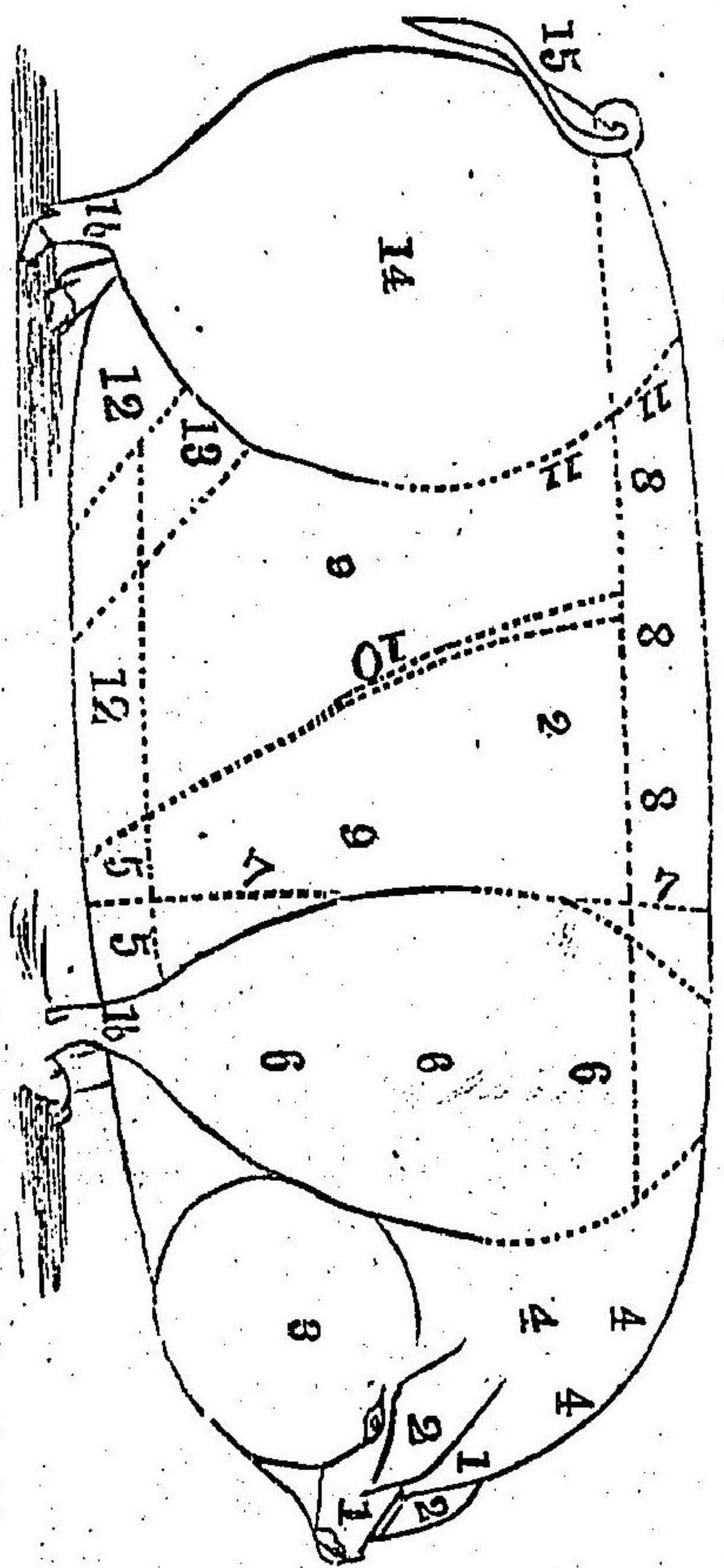
頬は麗しく満ちたるものを四點とす



頸は短く肥へ太りて彎形をなしたるを三點とす  
 胸は肥へ太りて深きを三點とす  
 肩は廣くして深きを六點とす  
 胸部の周圍の大なるものを九點とす  
 背は眞直にして廣きを六點とす  
 胴は肥へて深きを七點とす  
 肋骨は能く張りたるを六點とす  
 腰は廣くして強きを七點とす  
 肚腹は廣く眞直なるを五點とす  
 膾は能く下垂せるものを三點とす  
 腿は廣く肥へ太りて深きを十點とす  
 四肢は強く眞直にして美麗なるを六點とす  
 尾は細くして粗大ならざるを二點とす  
 毛は細かにして密生せるを三點とす

豚の體格圖

色は白きを三點とす  
 全體の相稱の正しきを八點とす  
 以上合計百點とす  
 左圖は豚の全身を圖し各部を示したるものなり前に述べたる標準を之れに就て知るべし





(1)	豚	cadH
(2)	耳	sraE
(3)	鬃	lwoJ
(4)	鬃	kceN
(5)	鬃	teksirB
(6)	鬃	redluohS
(7)	鬃	duora htriG
		traeH
(8)	鬃	kcaB
(9)	鬃	sediS
(10)	鬃	sbiR
(11)	鬃	nioL
(12)	鬃	ylleB
(13)	鬃	knalF
(14)	鬃	maH
(15)	鬃	linT
(16)	鬃	sgel
(17)	鬃	

### 第四章

#### ○管理法

##### 管理法と豚の性質

管理の目的は豚を強健に發達せしめ生體に危険なる有害作用を除くにあり豚は管理飼育其他四圍の境遇異なるにより其形質を變ず而して畜に其れ自身に異なるのみならず子孫にも遺傳するものなり此の形質の變化に二様あり即ち改良及び退却是なり畜産上にて其の形質が飼育者の目的に近寄りたるを改良と云ひ之に反して飼育者の目的に遠ざかりたるを退却と云ひ器官

管理法  
の性質  
と豚

の完全なると不完全なるとは問はざるなり例へば豚は野にあるときは能く走り自ら土を掘りて食物を求め生活せしなり然るに一旦人間によりて馴化飼育せらるゝや走ること減じ食物も自ら求むることをなさず従て足も短くなり鼻も短く弱くなり肉附は多くなり其腦力も減ず之れ畜産學上にて云ふ所の改良にして生物學上より云へば退却なり茲に注意し置くべきは畜産學上の改良と云ひ退却と云ふは生物學上の改良若くは退却とは其の趣を異にするものと知るべし

豚は素と猪を馴化し之れに特別なる飼養管理を加へて改良したるものなり故に若し其の飼養管理を悪くするとき次第に退却して劣悪となるものなり即ち氣候悪しく食物劣悪にして滋養に富まず而して豚舎の構造も宜しきを得ざるときは被毛粗長皮膚強硬となり成長遲緩にして肉附も充分ならず脂肪も少なし之れ恰も銘刀を持ちて保管の宜しきを得ざる爲め遂に錆刀となすが如し

改良されたる豚は其の在來種に比して體質羸弱なるものなれば特に充分な



る管理をするにあらざれば到底完全なる生産を得ること能はざるのみならず甚しきに至りては疾病等起し斃死するに至ること往々あることなり縦ひ善良なる種類を得たりとするも之れが飼養管理に充分注意せざるときはさすがの良豚も悪變せざるを得ず遂に良好なる成績を擧ぐること能はざるに至るべし故に管理法は特に注意すべき事なりとす

象養法

象養法

舍飼

豚を象養するに三様の方法あり即ち舍飼、半舍飼、野飼是なり舍飼とは一定の舍内に圍み食物は一切人手にて與へて飼養する方法なり

半舍飼

半舍飼とは廣き區域に相當の欄柵を設けて晝間は之に放牧し夜間は舍内に入れ食物の半分は自ら牧場内に求めしめ半分は人手にて與ふるが如き飼養法なり

野飼

野飼とは廣き山林原野に放牧して飼料は悉く自ら求めしむる方法にして泥沼卑濕の地にては蛙、蕨、水草等を食食し乾燥地に於ては栗實、榲實等の野生の果實を拾ふて食す

豚舎構造上の要件

豚舎構造上の要件

此の三つの方法に就きて何れか最も適當なりやと云ふに各地其状況によりて一概に適否を論ずること能はずと雖とも我國にては一般に舍飼法を利益とす豚は廣き地面に飼ふときは自由に奔走馳驅して食物を求むるが爲め四肢と鼻端とは堅硬となり被毛粗に皮膚堅硬となり舍飼したるものに比すれば頗る健全なりと云へども肉附悪しく脂肪も生ずること少なく恰も野猪の如くなるなり故に特別なる事情の外は普通に舍飼するを可とす余は茲に舍飼法のみ就きて詳述せん

豚舎の適温

豚舎は豚に有害なる諸點を防ぎ安穩に休息するを得せしむる所にして恰も吾人の家屋に於けると同一なり而して其構造の如何は豚の健全なる發育と農家經濟と至大の關係を有するものなり故に豚舎の設計をなす決して簡單なるものにはあらざるなり今茲に豚の衛生上より良好なる構造の要件を述べれば左の如し

第一 爽快純良なる空氣の充滿して適當の温度を保つを要す温度は平均攝



氏十四度を適當とし皮膚の薄き豚例へば英國種の如き及び兒持豚の室は稍や高温なるを要し即ち攝氏十六度乃至十七度とし肥育豚の室は攝氏十三度を適度とす

第二 賊風侵入せず換氣善良ならざるべからず

第三 光線能く射入し舍内悉く明瞭に分る様にすべし

第四 乾燥清潔なるを要す

第五 動物體に傷症其他の危険の恐れなきを要す

豚舎の位置

豚舎の位置及び方向

豚舎を建築するには其位置高燥快活にして四邊より少しく高く南方少しく低下せる所を撰ぶべし其土質は乾燥清潔にして地下層は能く雨水を滲透する土壤より成るを要す斯の如くなれば雨水は自在に流去し舍内は陰濕の恐れなく能く豚の健康に適す若し湿地なれば充分なる排水法を施さざるべからず

豚舎は快活にして日光及び大氣の流通に毫も障害なきを要す但し冬期は凍

豚舎の方向

烈なる寒風を防ぐべき適當の方法を設くべし凡て低濕の地に設けたる豚舎にては汚水停滞し舍床濕潤するのみならず斯の如き地に於ては微菌の蟄伏すること多く屢々傳染病の發生する恐れあり

豚舎の方向は土地の状況によりて多少の差あり其要件は冬暖に夏涼しき方向を擇ぶにあり是は極めて必要にして斯かる方向は生理上最も宜しく豚の發育速なり例へば夏烈しく熱き時は汗を出し冬甚だ寒き時は之を防ぐ丈け體温を上げざるべからず是等は無益に其精力を消費せしむるものにして之を空費せしめざるときは其健康も良く發育も亦速なり特に豚は他の家畜と異なり其性質自ら土地を變更せんとするものにあらず故に尙更ら適當なる位置及び方向を擇ばざるべからず本邦の如き緯度の差多き所にては地方によりて状況甚だ異なる然し本邦にては冬期に西北の寒風暴威を逞しくする故西又は北を避け東又は南に面せしむべし東向の豚舎は旭を受けて早朝より舍内に日光入る旭は動植物の發育に甚だ必要なるものなれば之れを入れるを良とす南向は東向に次きて良好なり然れとも冬暖なる代りに夏は日光



東向及び南向を真しとす

の直射により温熱高く蠅の群集することあり西向は旭を受けることなく夏夕日によりて温度高まり蠅の群集多し北向は冷濕にして日光を受くることなく冬日は寒風の侵入によりて舍内の温度大に減ず故に一般に論ずれば東向を最良とし次ぎは南向なり若し地形上斯かる方向を取り能はざるときは寒風の来る方向に他の建物又は樹木生垣等を設け寒風を防ぐ工夫をなすべし

豚舎の用材

豚舎の用材

豚舎に用ゆる材料は良好なる品質なるを要す一般に云へば石材煉瓦は木材より良好なり之れ前者は堪久性に富み火災の憂ひ少なく冬日温暖に夏涼し木製の豚舎は通常廉價なれども火災の危険多く保存年限永からず加ふるに冬暖に夏涼しきを保つことは甚だ劣る然れども我國にては各地の状況によりて異なるも一般に木材を用ふること經濟上得策なるべし

豚舎の屋根は能く風雨に堪へ冬季は室内の温度を保ち夏日は火熱を防ぐに足るものなるを要す本邦に一般に用ゆるものは瓦板萱葺等なり此等の内瓦

豚舎の床

豚舎の床

葺と萱葺とを良しとす

豚舎の構造に關して特に注意すべきは床なり床の具備すべき必要の點は第一堅牢緻密なるも餘り滑澤ならざること第二堪久性に富むこと第三水分を吸収し或は滲透することなきを要す第四以上の性質を有し可成廉價なるものを可とす凡そ堅牢なる床は容易に汚物を除去し能く清潔を保つことを得然れども餘り滑澤なるときはすべりて倒れること多し殊に孕豚には危険なり床地は周圍の地面より六寸乃至一尺位高きを要す之れ周圍より雨水の浸入を受けざる爲めなり床の最も清潔なるはシツクヒにして次に煉瓦石造木造等なり而して氣候嚴寒なる所にては木造を良とすシツクヒ煉瓦石造等は豚が直接に起臥するときは急に寒冷を感じ衛生上良からず然れども褥藁を多く敷けば差支なし茲に最も必要なることは床に勾配を附けることなり床に勾配なきときは液狀排泄物は常に停滯して舍内を不潔にすること甚し殊に堅牢緻密ならざる床に於て甚しとす故に必ず勾配を附けざるべからず普

床の勾配



尿尿溜

通前方又は後方に向ひて四十分の一の勾配(即ち四尺に付一寸低くす)を附し汚物の流去に便せり次に必要なることは尿尿溜を設くることなり尿尿溜は舍外に設くべし即ち床の傾斜せる所にて豚舎に沿ふて小溝を造り此の溝は瓦樋等を用ひて尿尿の滲透するを防ぎ尿尿溜に向ひて傾斜せしむべし尿尿溜は尿尿滲透せず能く久しきに堪ゆるものたるを要す通常石又は煉瓦にて堅牢に造るを便益とす而して尿尿溜は常に蓋をなし臭氣の發散せざる様にするべし之れ一つは衛生上より一つは肥料成分の損失を防ぐ點より緊要なることとす又た時に汲み取り可成其所にて腐敗せしむべからず

豚室の高及廣

豚室の高及廣

豚室の高さ及び廣さは牡種豚室、母豚室、肥育室及び貯豚室等により異なる此等は又た空氣の温度及び湿度によりて一樣ならず豚室は高きに過ぐれば冬は寒冷に失し健康に害あり狭小にして低きに過ぐれば夏温暖に過ぎ換氣悪しく有害たるを免れず普通高さは桁下四尺五寸乃至六尺を以て充分なりとす

廣さ

廣さは平均一頭に付き母豚にては九尺乃至一丈二尺平方、肥育豚には五尺乃至六尺五寸平方、仔豚には二尺乃至二尺五寸平方、貯豚(成長の半期に達したるもの)は三尺乃至三尺五寸平方を與ふべし但し後の二者は一室に數多合飼する場合の一頭當の廣さなり

運動場

運動場

從來我國にては豚の爲めに運動場を設けたることなく却て小屋こ閉込め運動を禁したるものゝ如し然れども今後養豚せんとするものは運動場を設け豚をして適當の運動をなさしめざるべからず

運動場内の装置

豚の運動場は歐米にては普通に豚舎に接近して設け周圍は木材の柵或は生垣を用ゆ柵の高さは大抵三尺五寸位にて可なり運動場の廣さは一定せざれども一室に對し五坪位の割合にて各室のものを共通にして大きくするを便利とす但し種牡豚は必ず別々にすべし場内は可成的平坦にして豚舎外に向ひて少しの傾斜を有し全面にはセメントを敷くか若しくは乾燥せる土砂を敷き常に乾燥清潔にすべし場内には淺き小池を造り夏日炎暑の時候には豚自



ら其中に入りて身體を冷すが如くならしむべし尙ほ運動場には樹木を植へて蔭にし炎熱を避くることに注意せざるべからず我國の如き温帯中の熱き地方にては豚は夏日疲れ易く特に白色の豚には日射病に罹り易し蔭用の樹木は夏の間は枝葉繁茂し冬間落葉する所謂落葉樹を最も良とす之れには桐、榲、センダン等葉の大なるものを宜しとす樹を植へるには樹の根部三尺位は丸竹等を挿して豚をして樹幹を損傷せしめざる様にすべし或は夏運動場の上に柵を造り糸瓜、苦瓜、葡萄、夕顔等を植へるは實に一舉兩得の利益となるべし其他場内には大なる擦木を深く地中に挿入し地上三尺位を出し豚をして自ら身體を摩擦せしむべし

## 運動の利益

豚をして運動せしむる利益は新鮮なる空氣を呼吸し自由に運動せしめ筋肉の發育を助け性質強健となり外來の有害作用に抵抗する力を育生す加之ならず食慾を進め最も價值ある赤肉の生成を多くし比較的脂肪の聚積を減や夫れ脂肪も等しく重寶ならざるにはあらざれども其價格は常に肉價より低廉なり故に脂肪の生成は減するとも赤肉の増殖する様にせざるべからず運

動せしめざる時は健康を害し發育を遅緩ならしめ繁殖力亦減殺せらる而して運動時間は必ず長くするの要なし肥育中の豚を除くの外は大抵一二時間宛一日に一二回運動せしむれば可なり風雨又は寒氣烈しき時は之を避く可し仔豚の如きは毎日午前十時頃より三時迄の間に運動せしむるを緊要とするなり

## 水の便

豚舎を建設するには尙ほ水の潤澤にあるを要す豚舎を掃除し又は飲料水に清水を要するは勿論なるが此外豚は肥へたるものなる故夏は非常に暑熱を感ず英國は家畜を叮嚀にする國なるが炎暑の時は日々川に伴ひ身體を洗滌すと云ふ是れ一は身體を清潔ならしめ一は身體を冷すにありて豚の肉附にも有益なる方法なり我國に於ては之等を等閑に附し全く行はざるのみならず或は汚水を飲まし或は室を掃除するに水を用ひざることあり苟も豚を飼養して其利益を多く得んと欲するものは宜しく英國などに倣ふべし以上は豚を健全に發育せしむる上に於て最も緊要なる良法なれども必ずしも斯くせざれば飼養し得ずと云ふにあらず實際豚は地面氣候及び豚舎の構



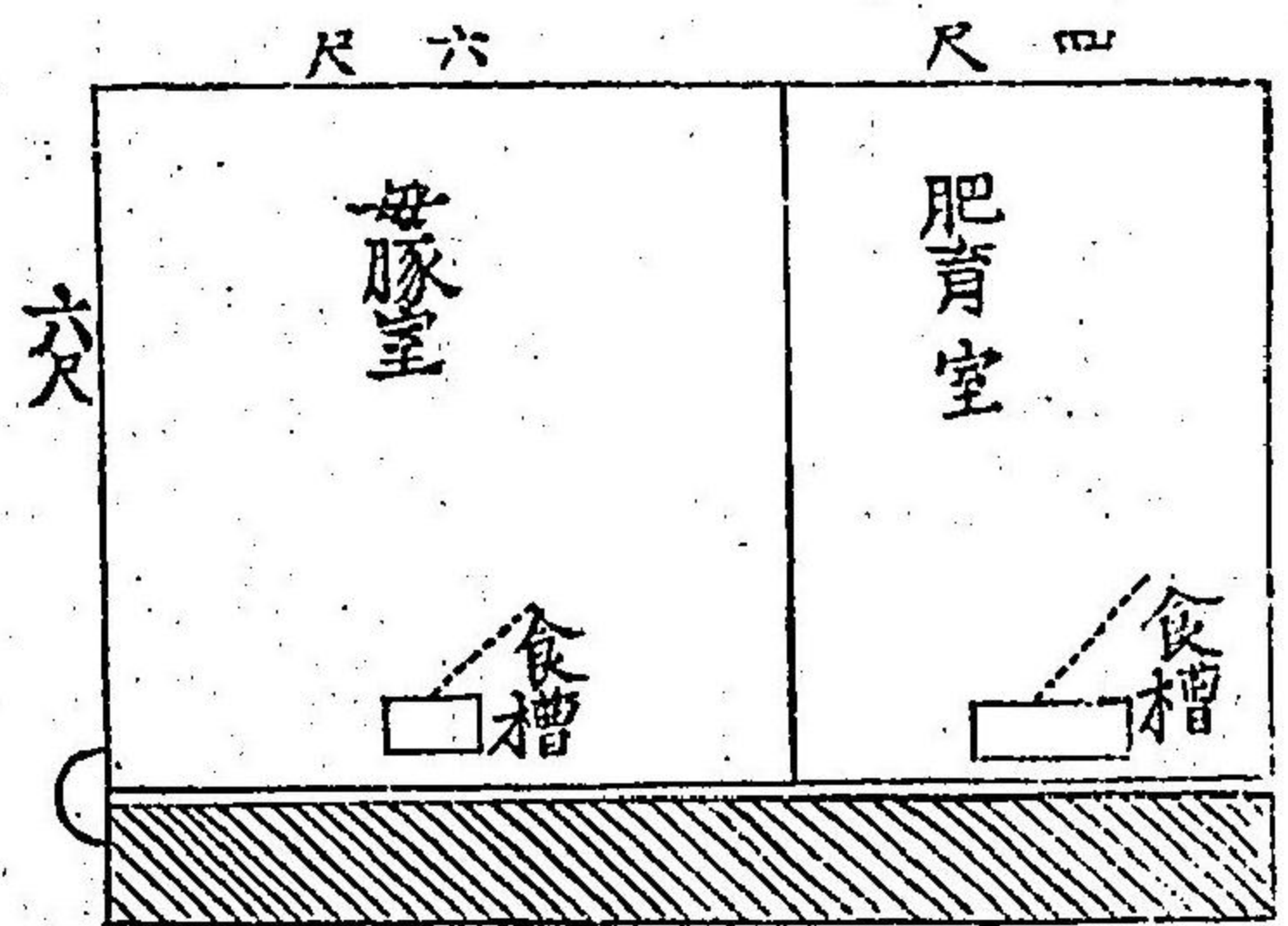
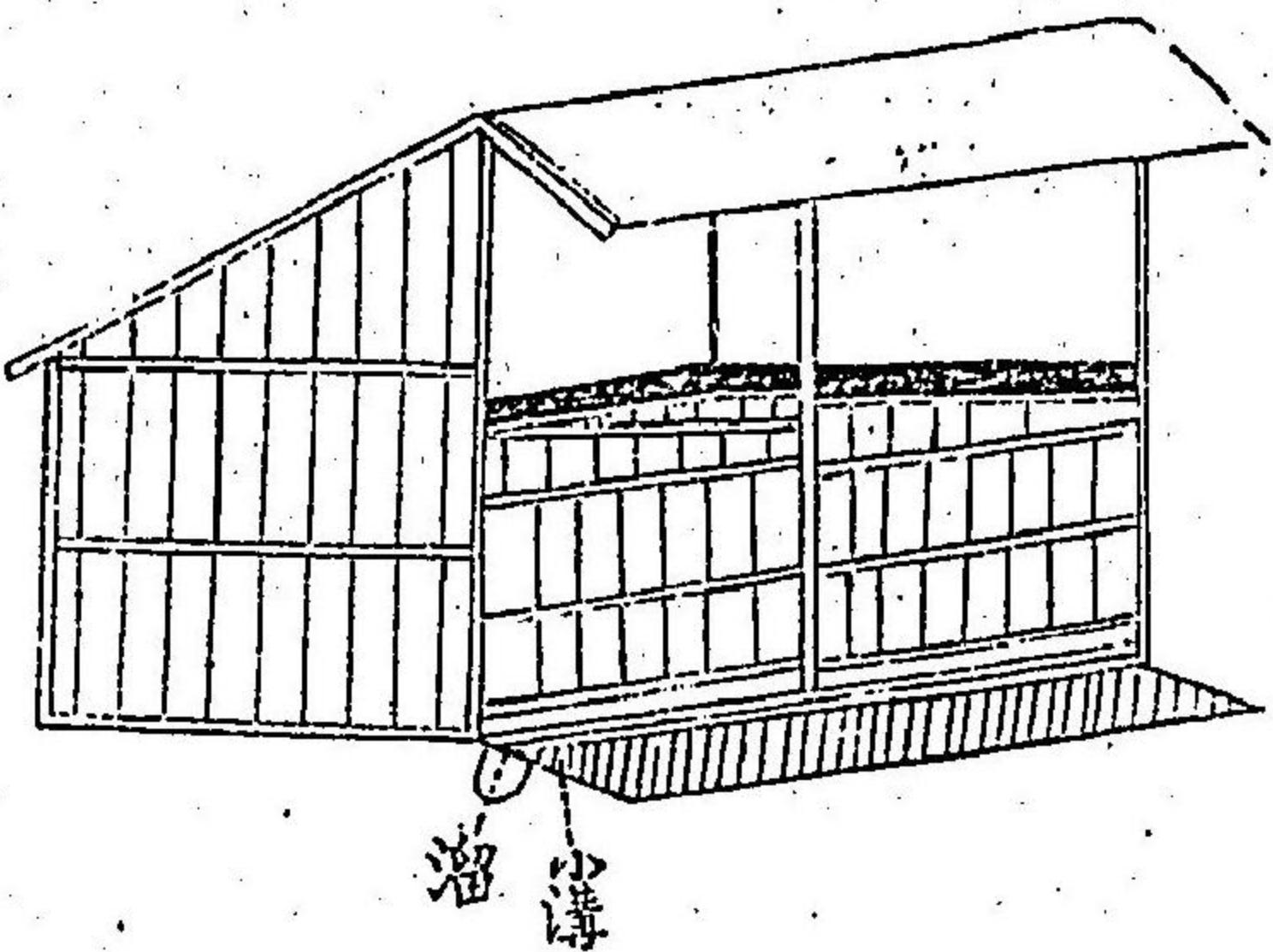
造等を撰む性少きを以て各地の状況により斟酌するも差支なかるべし今實地に豚舎を築造することに付て詳述せん豚舎には單舎と複舎の別あり一棟の豚舎に豚室を一系列に造るを單舎と云ひ二列以上なるを複舎と云ふ豚の衛生より云へば單舎を最も良しとす複舎は主に寒國に見る所なり

甲圖

同上平面圖

豚舎圖解

甲圖は最も簡單なる豚舎にして東京附近に行はるゝものなり其構造を説明すれば先づ奥行六尺長さ自由なる單舎なり一室の廣さは奥行何れも六尺にして間口

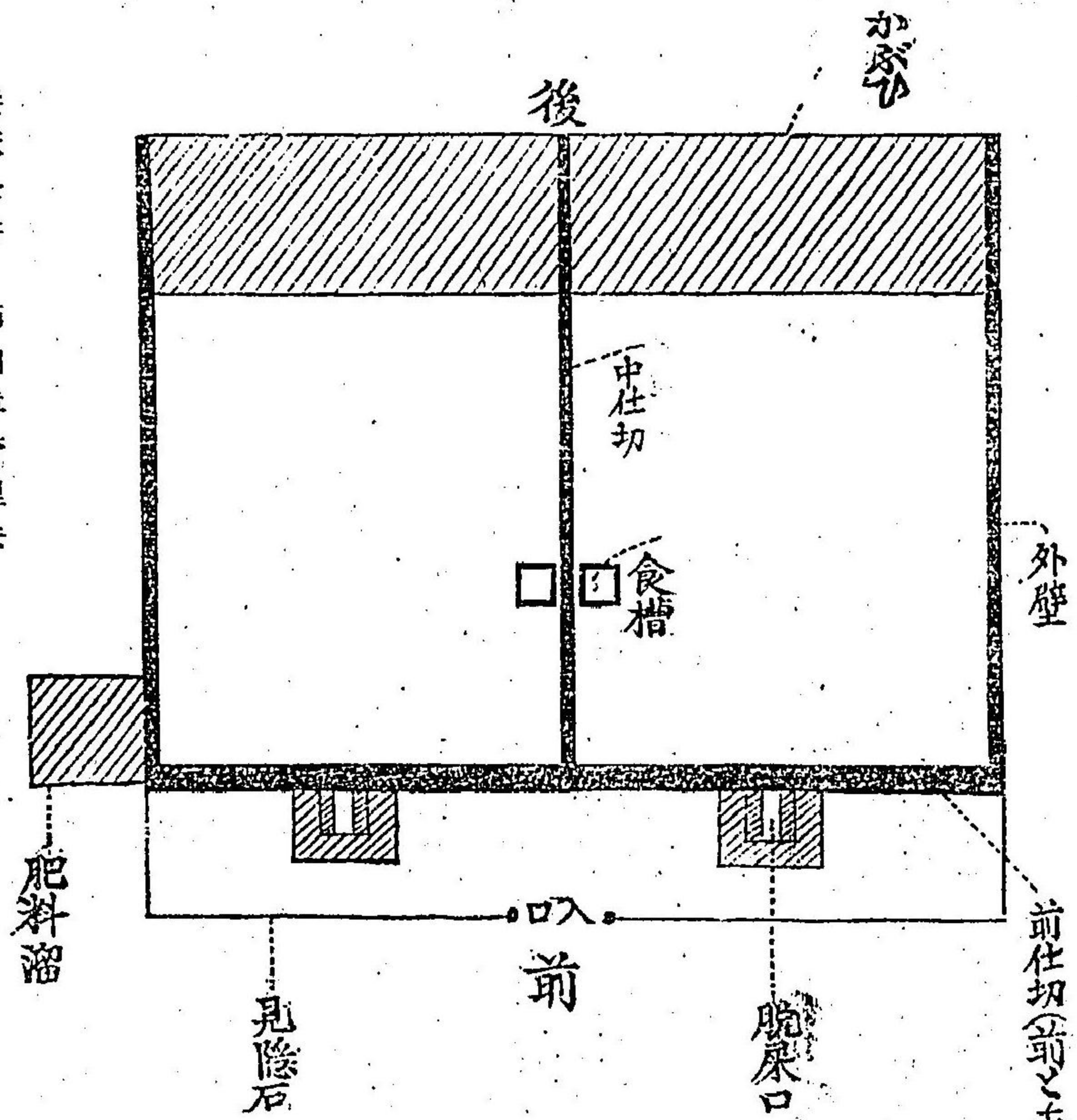


は肥育室は四尺貯豚室及び母豚室は六尺なり前仕切の高は二尺五寸とし尙其上に八寸位を隔てて取外の自在なる横棒を箝む而して此の前仕切は床と二寸位離れしめ且つ悉く取外し得る様にせり中仕切の高は三尺乃至三尺五寸とす前方桁下五尺後方桁下三尺とす床は八分板を敷き前方に四十分の一の勾配を有せしめ屋根は瓦葺板葺コケラ葺藁葺等あり室の前面に沿ふて小溝を設け尿尿は總て小溝を流れて溜に集まらしむ

乙圖は農科大學の豚舎の一にして單舎なり一室の廣さは奥行九尺にして間口は八尺七寸五分と六尺のものとなり前方の桁下は五尺五寸後方の桁下は三尺なり後方は悉く板附きをなせり中仕切は三尺八寸前仕切も同じく三尺八寸の高さにして床より一尺宛は切開き食槽を置きて塞ぎ上方の一尺は格子戸として中央一尺八寸のみ板附けとせり各室に戸口一つ宛を設け大室には二尺七寸五分小室には一尺七寸五分の戸口を有せり戸は蝶錠をなせり床は一寸板を敷き後方に少しく勾配を附せり屋根は麥稈を以て葺き後方の低き部分即ち豚の口の達する丈は下に板を敷きて其の上に麥稈を載せり斯

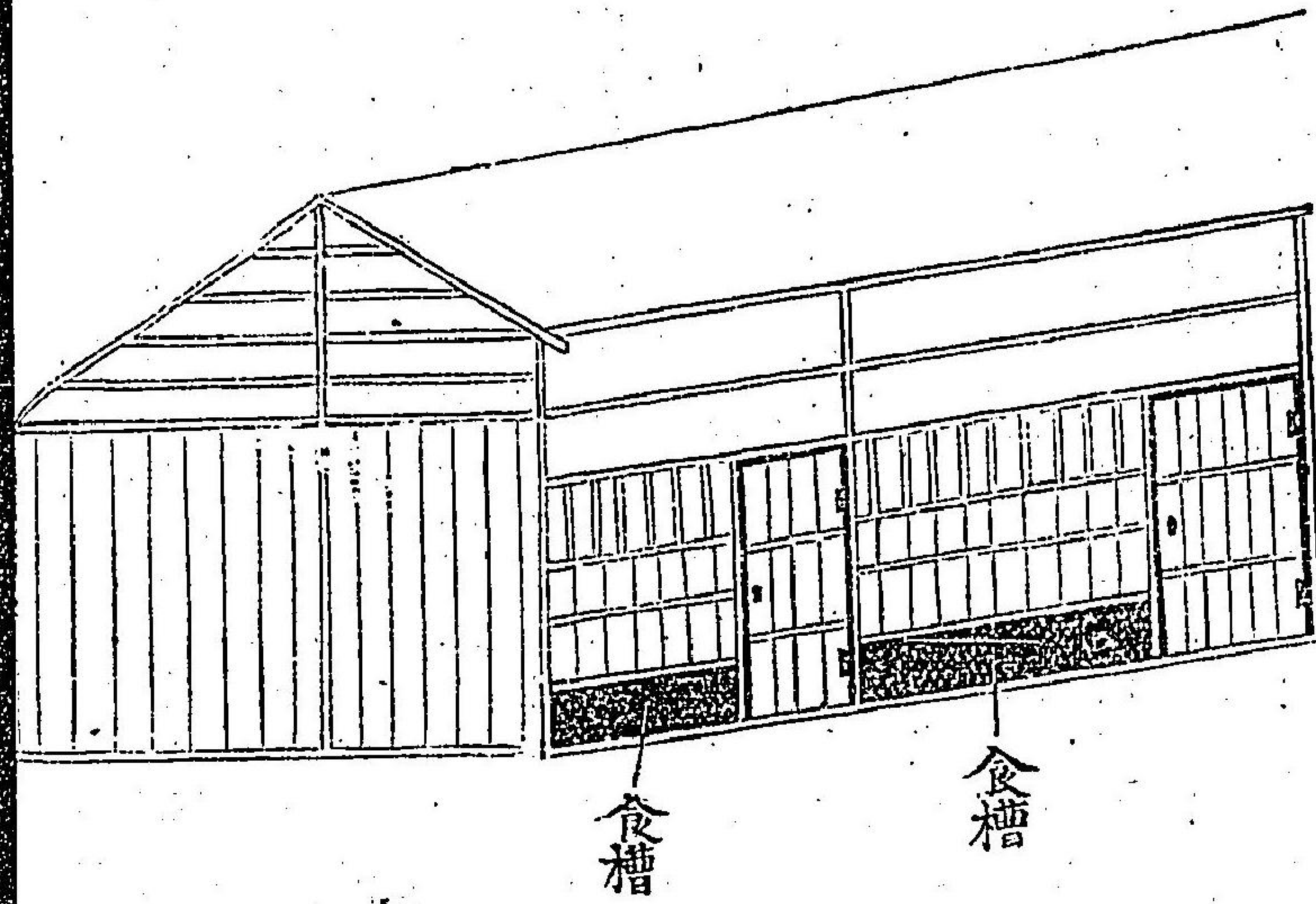


(圖面平の舎豚の造石縣繩沖) 圖丙



尺の廻戸を  
附けり床は  
煉瓦を敷き  
屋根は瓦葺  
なり運動場  
は一室に付  
幅七尺五寸  
長さ三十尺  
の廣さにし  
て繞らすに  
高さ五尺の  
柵を以てせ  
り  
東京府下豊

(すか書を場動運上宜便) (舎豚學大科農) 圖乙



くせされば豚は屋根を喰ひ破るこ  
とあり運動場は四室に對し長さ五  
十四尺幅三十二尺にして周圍は高  
さ三尺五寸の柵を繞らし柵は直径  
三寸位の杉丸太の杭を立て横に丸  
竹を附けり運動場の前端には小池  
を設け豚自ら冷を取らしむ農科大  
學には尙ほ一つの豚舎あり此れは  
奥行八尺五寸間口七尺五寸桁下七  
尺外壁は下より三尺五寸迄は煉瓦  
を以て厚七寸五分に積み立て上方  
は板壁とす中仕切は高三尺七寸五  
分とし煉瓦を以て厚七寸五分に積  
み立てり各室には前後に一つ宛三



多摩郡大久保村三浦氏所有の豚舎には貯豚舎と仔豚舎の二様あり今少しく説明せん

仔豚舎は長十間幅六尺前桁下七尺八寸後桁下二尺八寸屋根は麥稈葺なり一室の廣さは一坪宛にして中仕切は高さ二尺四寸前仕切は高さ二尺一寸にして取外し得る様になれり床は板敷にて前方に傾けり室の前面に沿ふて幅五寸の小溝ありて此の小溝は溜に向ひて傾斜せり

貯豚舎の大きさ及び一室の廣さも前者と等し前桁下七尺三寸後桁下三尺中仕切の高さ三尺前仕切の高さ二尺六寸なり前仕切は三段に横棒を籍めり兒持豚には別に兒豚の食事場として隣りの室の半分を仕切りて附與せり運動場は舎の前面にあり

沖繩縣にて一般に用ふる豚室には悉く石のみにて造りたると壁のみ石にして屋根は瓦又は萱葺なるものとの二式あり前者は田舎地方に多く後者は都會に多し沖繩縣は本邦第一の養豚地にして農家の盛衰を見るに豚の飼育法を以て判断する位なり故に豚舎の如きも割合に大金を投し一室五六十圓を費

す敢て珍らしからざるなり丙圖は即ち石造豚室平面圖なり今少しく要點を略説せん

一室の廣は多少の差異あり然れども大抵一坪内外なり丙圖は神村氏の古風の豚室にして奥行六尺八寸間口四尺五寸なり中仕切は高さ二尺三寸厚さ一尺内外前仕切は高さ二尺五寸厚さ一尺五寸位なり屋蓋と稱するは豚の雨露を避くる所にして高さ四尺五寸乃至五尺奥深さ三尺なり而して上面にはシツクヒを塗りて雨水は後方に流去せしむる様にす床は石を敷き前方に十分の一内外の勾配を附し少しく凸形をなせり食槽は中仕切に接して装置せり而して各室より生ずる排泄物は悉く肥料溜に向て流出せしむる爲め床の前端は皆肥溜に向ひて傾斜せり

他の豚室も大體に於ては前者と同じきものにして唯だ屋蓋の代りに屋根を葺くの差異あるのみなり

以上は總て本邦從來の單舎の構造なり從來民間にある豚舎の欠點とする所は運動場の設備なきこと是なり前に述べたる如く豚に運動せしむることは

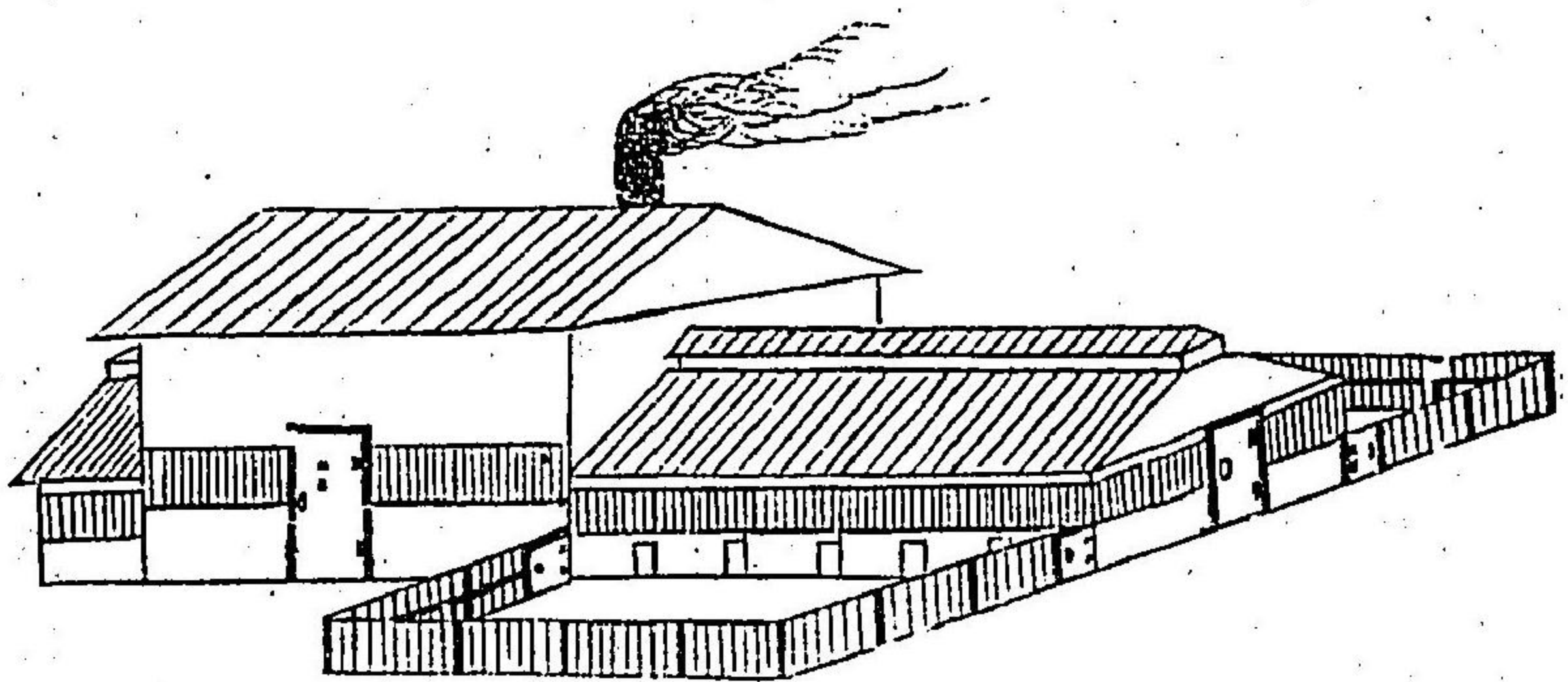


甚だ必要のことなれば従來の閉込主義を改め小屋に引續き柵庭を設け晴天の時は柵内に出して新鮮の空氣を吸ひ運動せしむる様にすべし  
 今廣く農家が建設し得べき程度に於て予が考案し永く經驗し適當と認めたる豚舎の構造を述べれば左の如し

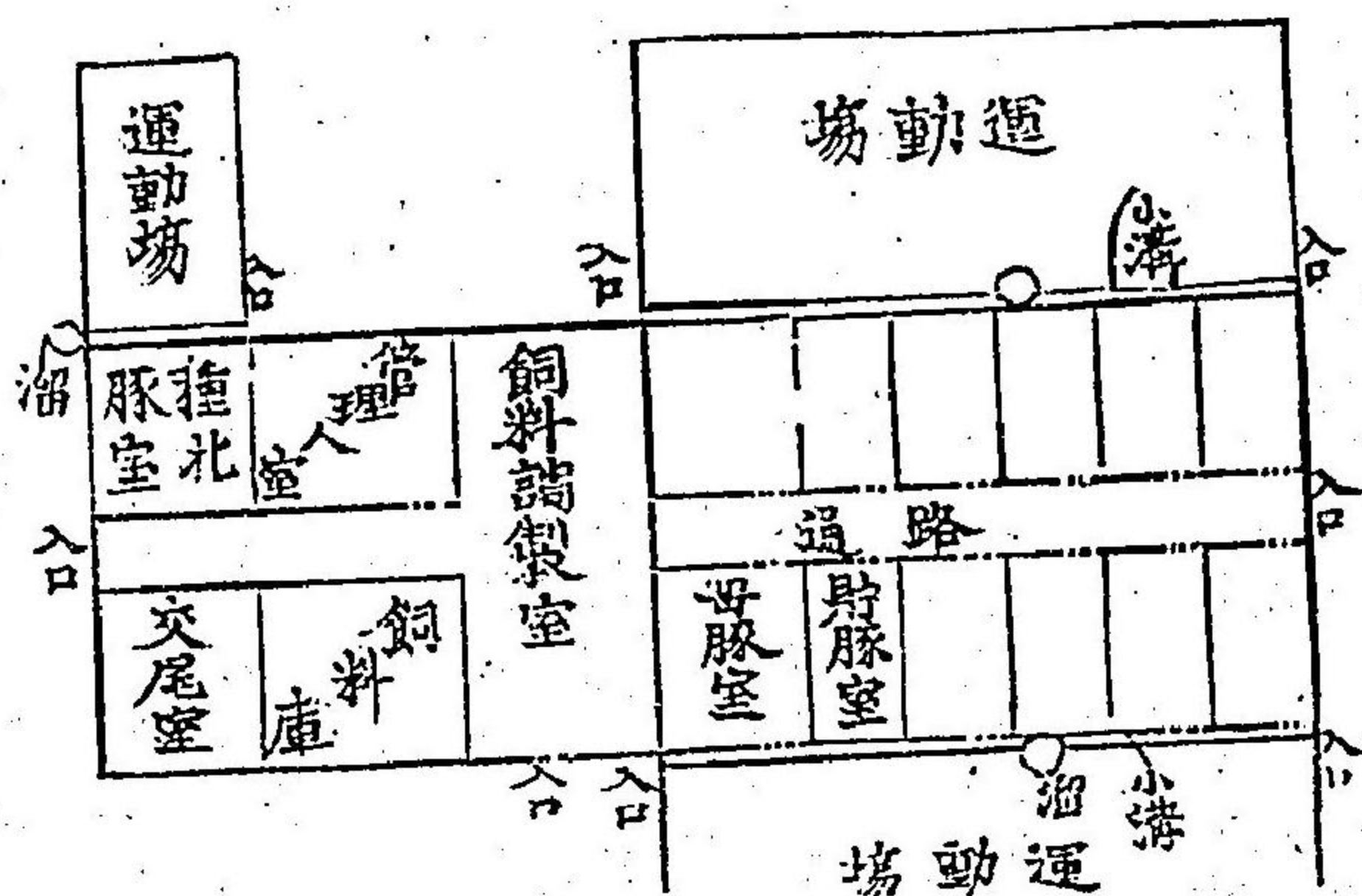
奥行六尺間口母豚室は八尺肥育室は四尺中豚室は六尺にして高さは桁共六尺五寸とし前壁は下三尺丈板附にし上部三尺は横棒三本を附す前壁の下には食槽を箝むる爲め巾一尺七寸高さ六寸の孔を開く戸は巾二尺高さ五尺にして下三尺丈板張りとし後壁は高さ桁共三尺五寸にし下一寸を開けて全部板附にす壁板は總て目板を附け賊風を防ぐ様にす中仕切は高さ三尺とす床は板張りにし後は前より一寸五分低くす屋根は藁又は茅葺とす舎の後は以後壁に沿ふて幅五寸深さ四寸の小溝を設け此小溝は肥溜に向ひて傾斜し以て室内より流れ来る糞尿を受け之を溜桶に流入せしむ舎の前には二尺幅の廡を設く運動場は奥行を二間とし間口は豚舎と同じ間敷とす周圍の柵は高さ三尺とす運動場の中央に長六尺直径五六寸の杭を深く打ち込み地上に三

複舎

丁



養豚全書 第四章管理法



同上平面圖

尺を出し豚をして身體を自由に擦らしむ  
 尙ほ運動場  
 には砂を厚  
 さ三四寸敷  
 くを可とす  
 複舎は外國  
 の例を擧げ  
 て説明せん  
 丁圖は最も  
 簡便にして  
 完備せるも  
 のなり中央  
 は管理人室  
 と飼料調製



室左右は豚室なり舎の幅は三間乃至三間二尺長は隨意とす舎の中軸には四尺乃至六尺の通路を設けり各室の廣さは奥行七尺間口は四尺五寸のものと六尺のものとなり各室は食室と寢室とに分てるあり舎は桁下七尺とし外壁は下三尺は煉瓦又は石にて積み上方三尺は板附けをなし中央二尺は格子窓とせり中仕切りは高三尺五寸とす各室には前後に幅三尺宛の廻戸を附す床は煉瓦石又はセメント等を以て敷き室の外に向ひて勾配を附せり而して室の外方に沿ふて小溝を設け尿尿を肥料溜に流去せしむ屋根は瓦葺きにし中軸に當るところには換氣に便なる爲め格子窓の仕掛けをなせり此の豚舎には一々運動場を有せり種牡豚の室は群豚の室と少しく隔離せり委細は圖に付き解説せり

複舎に於ては明りと空氣の流通及び日光を充分に受けること困難なり然るに此の三つのものは豚の健康發育上最も必要なるものなれば特に注意せざるべからず

一室の豚數

一室に飼養する頭數は貯豚即ち肥育前の豚にありては大室なれば三四頭迄

母豚室

は不可なし肥育豚は一頭宛を可とし母豚は必ず一匹宛にすることは敢て言を俟たず而して肥育室は餘り廣きを貴ばざるも兒持豚の室は廣きを好み兒を産みたる時は室の周圍に壁より一尺を離れて一尺位の高さに棒を横へ兒豚をして母豚の壓殺を免れしむべし而して尙ほ兒持豚の室に隣接して別に一室を備へ兒豚の食事室に當てるべし此の室には兒豚のみ出入し得る丈の口を開き母豚は出入せざる様にすべし然らざるときは兒豚の食物は母豚の爲めに貪食せらるゝ恐れあり種牡豚の室は牝豚若しくは他の豚群の室より少しく離れたる所に設くるを可とす然らざるときは牡は常に發情して早く衰弱して種用に適せざるに至るなり尙ほ室も比較的堅固に造るべし以上既に豚舎の構造を述べたり終りに注意すべきは經濟の點に注意することとなり妄りに大金を投じ壯大美麗なる豚舎を建築して人に誇るが如きは一つの娛樂的の仕事にして決して營業的の仕事にあらざるなり故に豚の衛生の許す限りは可成經濟的に建築材料の如きは各地最も容易に得らるゝものを用ゆべし

牡豚室



○豚舎の清潔

世人豚を以て非常に不潔を好むものと誤解するもの多しと雖も其實決して然らざるなり試みに見よ彼れは一坪以内の小室と雖も必ず寢所と脱糞所を區別するにあらずや要するに豚は性質強健にして他の家畜に比し不潔にも能く堪ゆる性質は存するも決して不潔を好むにはあらざるなり堪ゆると好むとの間に大なる差異あるを知らざるべからず  
 豚舎は毎日朝夕二回掃除し清水にて洗ふべし少くとも必ず一日一回は掃除洗滌し乾燥清潔なる糞枯草を敷き換ふべし殊に豚疫流行中は決して清潔法を怠るべからず如何に豚は強健なるも疾病には勝ち得ざるなり而して病菌類は能く好んで不潔物中に繁殖するなり故に平素食器は勿論豚舎の清潔法を重んずること最も必要なり

○寒暑の豫防

寒中は務めて豚舎を温暖に保つべし之れを實行するには寒國にては豚舎の周圍に板塀を繞らすか又は糞類を以て充分に周圍を圍むべし室内には毎日

○馴親の必要

乾燥せる藁を一頭に付き二斤乃至四斤を與ふべし若し藁乏しければ枯草枯葉鋸屑等を敷き換へて暖を取らしむべし寒冷の肥育上不利なることは飼養法の所に詳述せり即ち飼料を食費する丈け割合に増肉せず之れ體温を保つ爲めに熱の發生に向ひて消費せらるゝが爲めなり肥育豚及び母豚は特に注意を要し飼料の如きも温かなるものを與ふべし  
 暑中は可成涼しき様にし能く舎内を清潔にし空氣の流通を計り豚舎も運動場も共に日影を設く可し日影を造るには前に述べたる如く落葉樹若しくは葡萄、糸瓜、苦瓜等を植へ棚作りをするを最も得策とす炎熱は豚の最も嫌ふものにして爲めに食欲を減じ疾病等起り易し要するに適當なる温度を保つこと必要なり適當なる温度は前既に豚舎の所に既に述べたるを以て爰に略す

豚をして能く管理人に馴れ親しましむることは最も大切なり殊に繁殖用母豚に於て然りとす豚は取扱ひの丁寧なるに従ひて益々温順の性質となるなり其性質の猛惡なるものは管理困難にして肥肉も悪し母豚にすべきものは



是非管理人に馴親せしめざるべからず其分娩するや種々に人手を要するものにして或は其産み落したる兒を保護し或は哺乳の手續をなす等度々室内に入る必要あり若し豫てより人に馴親せざれば分娩の時安穩ならずして人の近づくを嫌怒することあり故に管理人は常に親切丁寧に愛撫し時々刷毛又は藁等を以て身體を梳拭すべし梳拭するは常に馴親せしむる手段たるのみならず皮膚面を刺激し皮膚呼吸を盛にし豚をして活潑ならしめ食慾を増進し肥育豚の如きは著しき効驗あるなり

暖地にては三四月頃蠅が豚の體上に群集し皮膚を嘗め刺き甚しき害をなすことあり斯かる場合には速に其刺けたる部分を石炭酸にて洗ひ種子油と煤と混じたるものを塗り蠅の來襲を防ぐべし

○惡癖の豫防

豚は動もすれば鼻先にて土を掘り荒し食器及び壁等を破ること寡からず此の惡癖は單に破壊せらるゝの損害あるのみならず豚は鼻を使ふこと甚しきときは遂には顔が長くなりて良豚の特質を失ひ肥育も惡しく殊に繁殖用豚

蠅の害

惡癖の豫防

にありては大に其資格を損ふなり之れが豫防法は古くより養豚者間に研究せられ今日にては種々の良法案出せらる就中最も良好なる方法は鼻に金輪を嵌めることなり此の鼻輪には種々の形あり然れども要は鼻にて土を掘る時鼻に痛みを感じしむるにあり例へば四角形の鐵棒を四角形又は馬蹄形に造り鼻に嵌めるあり或は針金を適當の長さに切り之れを鼻に刺し込み其の兩端は釘抜にて捻り結び尙ほ少しく兩端は長く残り置き鼻に向けしむ然るときは土を掘らんとするとき鼻を痛むるを以て如何に愚鈍なる豚と雖も強ひて掘らんとはなさざるなり又た鼻輪を用ひずして單に小刀を以て鼻端を上下に斜に切り割り置くことあり之の方法の効驗は前の金輪を嵌める方法に及ばざるが如し

多數の豚を一室に飼養するとき非常に争闘することありて稀には甚しき負傷をなすことあり此れは一種の病氣にして之れを防ぐには石炭末を喰はしむれば可なりと云ふ

母豚の惡癖及び豫防法は繁殖法の章下に尙ほ委しく述ふべし



### 第五章

#### ○繁殖法

繁殖

豚の繁殖法も他の家畜と同しく専ら天然の法則に従ひて行ふものにして人間は唯だ之れを監督するのみ毫も人力を加ふることなし而して豚の繁殖法は大抵左の四つあり

豚の繁殖法の種類

- (一) 同種繁殖
- (い) 近親繁殖
- (ろ) 撰擇繁殖
- (二) 異種繁殖
- (は) 雜種繁殖
- (に) 再雜種繁殖

同種繁殖

同種繁殖とは同種類間の繁殖にして例へばパークシャー種の相互の間に行はるゝものゝ如きを云ふなり純粹種を繁殖せしめんには必ず此の法に由る

近親繁殖

なり故に純粹繁殖法とも云ふ此れに近親繁殖と撰擇繁殖の二種あり  
近親繁殖とは近き親族間に行はるゝ繁殖法にして例へば親子兄弟姪甥等の間に行はるゝものなり此の近親繁殖に付ては種々の議論ありて或は悪しと云ひ或は差支なしと云ふ人あり各其論する所は一理ありて其歸着する所を知らず然れども良種の豚の繁殖は大抵近親繁殖を以て行はれ來り別に著しき欠點を見出さざるのみならず寧ろ便宜上利益とせり

撰擇繁殖

撰擇繁殖とは同種類中にて特別に優れたる形質を有するものを撰擇して繁殖せしむる方法にして今茲にパークシャー種ありて特別の形質を有し經濟上の關係も特別なるものとすれば其の特別なる形質と經濟上の關係を變更せずして之れを維持すると同時に一方に於ては改良發達を目的として繁殖を行ふものなり

異種繁殖

異種繁殖とは異種類間の繁殖例へばパークシャー種とヨークシャー種との間に行はるゝが如きものにして其間に生じたる子を雜種と云ふ此の繁殖法は異りたる形質のものを融和して丁度中間物の生せしむるを目的とするも



のなり

此等の繁殖法に付て詳述することは畜産汎論に屬することなれば茲に略し唯だ便宜上用語の解釋をなしたるのみなり

遺傳

○遺傳

遺傳のことは繁殖家が特に注意すべきものなるを以て茲に之れを記載し參考に供すべし

凡そ天地間の生物は其の何たるを問はず皆生殖して自體に酷似の新生物を後に遺すものなり此の現象を名けて遺傳と云ふ遺傳は親に似たるものが世の中に生れ出するが基礎なれば或は遺傳のことを類親法とも云ふなり遺傳のことに付ては學者間の疑問に屬して未だ充分なる説明なし畜産學上にては止むを得ず遺傳は兩親の形質が等分に融和して子孫に再現するものとして大體の定則とせり然れども嚴格に論ずる時は必ず此の定則が適合せりとは云ふべからず或は兩親の中孰れかの一方に偏して似ることあり之れを特秀遺傳と云ふ又歸先的遺傳と稱して其の兩親になき形質が其の子に現

出することあり之れその祖先が有せし形質が再現するによるなり此の歸先的遺傳は風土氣候の悪しきとき或は飼育管理の悪しき時等に多く起ると云ふ

得性遺傳とは其の兩親及祖先になくして其の一代に得たる形質を遺傳するを云ふ是れに付ても學者間の説議紛々たりしが近頃に至り漸く相歸着するに至れり即ち器械的に得し障害は遺傳することなく生理的血液及び淋巴液を經過して現はれたる形質は遺傳すと云へり

初産の感應は其の後の産に關係ありと云ふ人あり例へば茲に牝豚ありその初産に悪しき牡豚を掛けて悪しき兒を産ましめば其の後如何に良牡を用ふるも其の産兒は初産のものゝ如く不良のものを生ずと云ふ此の説は近來學者間に採用せられざるも歐米の實業家は實例を擧げて大に之れを主張せり母親の感情が其産仔の形質に影響するや否やは學者間の疑問なりと雖も其の實例は多し例へば某牧場の白色羊群中に黒色の狼亂入して羊群を襲ひ驚かしたるに恰も其時妊娠し居たる羊の内には黒色又は黒白の斑ある仔を産



みたるものありしと云ふ予は前任地鹿兒島縣立大島糖業模範場にて過然之を實見したり同場には大島郡農會の種豚パークシャー種(黒色)と谷頭種(白色)とを十頭飼養し居り或る日牝パークシャーが發情したるを以て牡パークシャーを連れ來りて掛けんとせしに牝豚は一向之に應せずして切りに隣室に居る牡谷頭を慕ふの情見えしかば直に一策を考へ牡パークシャーを一應連れ出し牡谷頭を連れ來り牝パークシャーの眼を風呂敷にて覆ひ牡谷頭を連れ出して再び牡パークシャーを連れ來りて掛け合せたる結果其産みたる仔四頭の内二頭は白色一頭は黒白の斑一頭は黒色を呈したり之れを察するに牝パークシャーが朝夕見馴れたる隣室の牡谷頭を慕ひ且つ自分に掛りたるものも矢張白色谷頭なりと信したる爲め所謂母親の感情が産仔の形に影響したる結果ならん若し果して然りとせば種豚を多く飼養するときは異種のものもを混合せずして飼養するを以て純粹種繁殖上良法なりとす然らざれば前例の如き結果を現出することあるべし

以上述べし如く遺傳に付ては學者間に研究せられつゝありと雖も未だ確乎

## 牝牡の形成

たる論據を定めし人なし唯だ畜産學上にては普通に兩親の形質が平等に中和して子に遺傳するものなりと大體に於て定め居れり

## ○牝牡の形成

爰に牝牡の形成とは如何にすれば雌を生じ如何にすれば雄を生ずるやを云ふなり營業上此の問題の明ならむことを希望する切なりと雖ども古より未だ是れが法則を定めし人なし依りて茲には唯だ多くの人が稱ふる二三の説を擧げて参考にせんのみ

第一説に曰く若年の牝豚は牡兒を多く産むと

第二説に曰く遊牝期の初期に於て交尾せしむれば牡兒多く末期に於て交尾せしむれば牡兒多しと

第三説に曰く母豚の妊娠中營養宜しかりしものは牡兒を多く産み營養不良なりしものは牡兒を多く産むと

此等の説の當否は明ならずと雖ども就中第三の説は今日多數の人の信仰する所なり



○種豚の撰擇

養豚の目的により種類の撰擇の異なる所以は前章に於て既に述べたり而して種類既に定らば其種類に付き善良なる種豚を撰びて繁殖せしむることは養豚家の最も着眼すべき事なるべし豚は種類極めて多く從て各特有の形質あり繁殖用の種豚は必ず其の種類の特徴を備へ遺傳力強く身體健全のものならざるべからず

○牡親の撰擇

牡親を撰擇することは養豚業中主要の條件に屬しその撰擇の如何は直ちに收利の多少に影響す從來養豚業者の失敗をなしたるは牡親撰擇の粗漏も其の一因なるが如し之れ一匹の牡親は數十匹の牝親に配するを以て若し牡親にして不良なるものなる時は是れに配したる一群の牝親は悉く不良なる豚兒を産み大なる損を來すことあればなり歐米の養豚家は親の其の兒に遺傳するに牡親は外部の構造に牝親は内部の構造に遺傳すと云へり而して其の例證として馬と驢との間に生せる結果を示せり即ち牡驢と牝馬との間に生

善良なる牡親の有すべき標徴

せるもの (tail) を螺と稱し其の形狀體格等驢に酷似す又反對に牝驢と牡馬との間に生せるものは駃騠 (hinny) と稱し能く馬に類し何れの場合にも筋骨の格構より運動機關及び音聲は牡親に相似ると然れども此の事實の理論に適合せざることとは多くの學者によりて論破せられたり遺傳の條下に於て述べし如く遺傳説は未だ明ならざるものにして今日にては唯だ兩親の形質が融和して等分的に遺傳すると云ふのみにして其の牡親又は牝親の形質が兒の何れの部分に遺傳するや等の問題に至りては尙ほ更不明なる事柄なり要するに牡親の撰擇の必要にして等閑に附すべからざることとは何人も信じて疑はざる所なり善良なる牡親の有すべき標徴は第一完全善良なる體格を有し骨格逞しく頭小にして顔は短く廣く頭は短く如何にも雄健にして活潑に殊に眼の活潑なるを良とす躰軀は長幅共に充分にして肩も腰も共に廣く前體は特に發育し從て後體も發育せるものを可とす又前肢の間廣くして胴の大なるは肺臟の強健偉大なるを證し肋骨の長くして左右の外方に適宜に能く張れるは消化器の大なるを示す豚は消化器の大にして食欲の大なる程發育



充分に且つ速なるものなり腿は能く發育し皮膚は清潔にして弾力に富み全面には軟大の毛を生じ鼻端及び四肢は清潔にして四肢を揃へて直立したる時其の姿勢の方正なるは全體格の強壯健全なるを示すなり牡親は勿論生殖器完全にして情欲充分に交尾を好まざるべからず

○牡親の撰擇

牡親の撰擇

良種の牡親を得て善良なる兒豚を生産せしめんと欲せば必ずや其の配偶たるべき牝豚の善良なるものを撰ばざるべからず之れ牝親は實に豚群の製造元なればなり

凡そ諸般の製造業に於て如何に良好の原料を採用すと雖も其の製造器械が精良ならざれば到底精良なる製産物を得ること能はざるが如く豚に於ても如何に善良なる牡親を撰ぶと雖ども其の配偶たる牝親にして不良ならむか其の生産する仔豚の善良ならむことは得て望むべからず故に牝豚の撰擇も牡豚の撰擇と共に養豚業上最も大切なるものなり

善良なる牝親の具ふべき標徴は先づ完全無缺なる體格を有し牝は牝らしく

善良なる牝親の有すべき標徴

柔和にして骨格逞しからず筋肉頑健ならず頭は牡に比して更に小さく顔は短くして廣く頬は肥膨し頸は細長く前肢の間廣く胴は大にして長く腿は肥り體の後部は特に能く發育せるを要す蓋し兒豚の母體中に宿する所は體の後部にありて繁殖に關する諸機關は凡て後の部分にあればなり後體の發達宜しきを得ざるものは繁殖用に不適當なる所あり

西洋にては乳頭の多きを良とし少くとも十二個の乳頭を有するを要し多きは十六位あるあり而して其の乳頭は能く發育したるものならざるべからず斯く乳頭の多きを貴ぶ所以は乳頭は繁殖機關の一にして其の數多きは從ひて多くの子を生む徴候なればなり然るに沖繩にては却つて乳頭の多からざるものを撰び大抵八個位のもの好めり其の理由とする所は乳頭多きものは多くの兒豚を生み其の乳を飲む時互に密接し相争ふて飲む故に強者は弱者を排斥して最も多く飲み弱者は僅に其の餘分を飲むに過ぎず故に優勝劣敗の結果として強者は發育健全旺盛なるも弱者は發育不充分となり一腹の豚兒に甚だ不揃ひを來し經濟上損となり尙一つ理由とする所は多く生産さ



れたる兒豚は其の少きものに比して常に體小にして成長も遅しと云ふにあり此れ一應の理由なるも又一方より豚の種類も考へざるべからず支那種は繁殖良からざるも兒の數は多し西洋種は兒の數比較的少し故に西洋に於ては兒の多きを望みて改良上に於ても此の點に注意すること切なり彼の日本崎面豚を入れて西洋豚を改良せんとしたるも偏に其の産兒の多からんことを望みしに外ならざりき

沖繩縣の豚は支那種にして兒を多く産出する點に於ては優り寧ろ兒の完全に發育せんことを望むなり西洋にては兒の多からむことを望むが故に牝牡に拘らず繁殖用豚は同腹の兄弟の數多きものより撰擇す此れ多く兒を生む性質は遺傳するものにして兒を多く産む豚は又兒を多く産みたる親より生すればなり沖繩にては此の點も異なれり則ち同腹の兄弟が多からず少からず大抵七八頭にして然かも一樣に發育したるものより撰擇す

以上は善良なる種豚の標徴の大體なり尙ほ種豚を撰擇するに於て注意すべきは繁殖用豚は可成其の一族に於て缺點なきものより撰擇すべし故に出來

撰擇上の注意

得べくば親兄弟は勿論祖先に遡りて充分調査するを可とす是れ往々歸先的遺傳の發することあればなり

初産の豚兒は繁殖用になすべからず其の理由は親が尙ほ完全に發育せざる故其の兒も發育完全ならずと云ふにあり

豚は一年に二回分娩す其の場合には春に生れたるものを繁殖用にすべし是れ春生のもは其の生るゝや氣候温暖にして飼料潤澤となり發育宜しきを得たるものなればなり其の他豚は家畜と異り種々の惡僻あり假へば其の兒を嫌ひて乳を與へず甚だしきは其の兒を喰ふものあり或は又土を掘り床板を掘り起す等の惡僻あり此等の惡僻を有する豚の兒は成可繁殖用にせざるを良しとす

## ○種豚の撰拔期

繁殖用の種豚を撰拔するには生後幾何の日數を経たる時期に於てなすべきやと云ふに早きよりは遅き方確實とす即ち充分發育したる時に判定するを安全とす熟練家は能く稚弱の時に判定し得ると雖ども生後一二ヶ月にして

種豚の撰拔期



判定するより七八ヶ月を経て既に交尾に適したる時期に判定するに如かず尙ほ爰に一言すべきは繁殖を計るに當り出來得る限り善良なる牝牡兩親を撰擇すべきは言を待たずと雖ども前述の如き良豚の標徴を完備せるものを得るは甚だ困難なることあるべし斯かる場合には牝牡兩親の形質を斟酌して適當に配偶を定むること肝要なり則ち牝親の劣りたる形質は牡親の勝りたる形質を以て補ふ様にすべし例へば今茲に體の前部は非常に劣りたる牝親ありとすれば之れに配する牡親は特に著しく體の前部の勝りたるものを撰ぶが如し斯くすれば其の間には兩親を折中したる恰好の形質を有する兒を生ず之れ歐米諸國の養豚家の唱ふる所にして遺傳法にも適合せる手段と云ふべし

○蕃殖年齢

豚は生れて四五ヶ月を経過すれば暖地にては繁殖に關する情慾既に發動し繁殖に適す然れども餘り若き時に繁殖せしむる時は其の結果甚だ悪し凡そ豚は出産をなせば甚しく身體の健康を害するものにして未成熟の豚にあり

繁殖年齢

未成熟豚を繁殖用にす  
る不利

繁殖の好適  
齡

ては其の害殊に甚しとす兒豚を乳養する間は成長殆ど停止の有様なるを以て母豚をして不完全の發育をなさしめ從ひて羸弱となるなり而して斯かる未成熟の豚より産出されたる豚兒も亦強健なるを得ず殊に未成熟の母豚の影響は著しとす能く成熟したる母豚と未成熟の母豚とを比較するに前者は後者に比し其の産む兒豚の數も多く且つ其の兒は強壯なり生後一ケ年にして成熟豚の仔の體重は未成熟豚の仔の體重の殆ど二倍に達すと云ふ故に未成熟の豚を繁殖用に供するは一つは母豚に於て損し一つは其産みたる兒豚に於て大なる不利を來すものなり

英國に於ては繁殖用の豚は早熟種にて早く用ふるは牝牡共に生後十ヶ月大形種にて遅く成熟するものは滿一歳にして用ふ然れども可成は一歳三ヶ月位にして用ふるを良しとす牡豚の繁殖の好適齡は一歳半より五歳の間とす而して假令一歳若しくは一歳三ヶ月位より用ひ始むるも其の初期に於ては可成多くの牝に交尾せしめざるを得策とす之れ未だ成長しつゝある時に過度の交尾をなさしむれば健康及び發育を害し早く衰弱すればなり大抵一歳



位の時は一季間に牡豚一疋に對し牝豚二十匹位の割合にし二三歳に達せば三十乃至四十匹の牝豚に配すべし經濟上より云へば三歳迄繁殖に用ひ四五歳に至れば去勢して肉用にすることを良しとす老年に達したる牡豚は繁殖用とする能はざるに非ずと雖も動もすれば肥滿に過ぎ繁殖の情慾少くなりて繁殖に適せざるものあり且つ老年になると肉硬く味不美となり價格低落す故に老年に及びて尙ほ繁殖用に供せむよりは寧ろ肉用とするを利益とす牝豚も老年になるに従ひ肥滿に過ぎ交尾するも受胎すること少し故に五六歳に至れば肉用にすることを利益とす

## ○牡親の管理

善良なる牡豚を有しながら其の結果の良好ならざるあり之れ牡豚の管理其の宜しきを得ざるが爲めにして恰も銘刀を得て其の保護宜しからざるが如く則ち如何に正宗の名刀と雖ども之れを泥中に投じて置かば遂には其の特質を失し錆刀とならん之れと同じく如何に精密に撰擇したる良豚種と雖ども其の管理悪しき時は遂には其の特質を失ふて惡變するものなり故に繁殖

牡親の管理

上好結果を得んと欲せば撰擇法と管理法と相俟て宜しきを得ざるべからず管理法の要點を擧ぐれば左の如し

第一牡豚は廣濶なる室に入れ自由に運動せしめ決して狹隘なる室に密閉すべからず運動場を設け適度に運動せしめざるべからず運動は豚の健康上非常に必要なり

第二牡豚は一室に一匹を限り飼養し然かも其の室は他の豚室と離れて可成牝豚又は他の豚の見へざる所に設くべし牡豚を牝豚の見ゆる所に置く時は常に發情し又他の豚中に放つ時は常に垂闘し猛惡粗暴なる性質に變ずるのみならず早く衰弱して繁殖に適せざるに至るものなり

第三餘り養分の多き肥料を興へて妄りに肥滿せしむべからず肥滿すれば交尾に巧ならず且つ情慾減耗し繁殖に適せず又た瘠せたるも惡し中肉なるを要す

第四妄りに多くの牝豚に配すべからず最も適當と云へば一季節間に十二三頭の牝豚に交尾せしむべし且つ可成一日一回以上交尾せしめざるを肝要と



す

繁殖用牝豚牝豚の割合は牡豚の年齢によりて異なるなり前に述べたる如く牡豚一頭に付き牝豚十二頭は繁殖上より論ずれば最も適當の割合なるも通常は牡豚一頭に對し三十乃至四十頭の牝豚の割合なり故に多くの繁殖用牝豚を有する養豚者にありては牡豚を飼養する必要あるも農家の副業として一二頭の繁殖用牝豚を飼養するものによりては各自高價なる種牡を飼養するは甚だ不經濟なり歐米の農家にては組合にて種牡を共有せり其の方法は二三頭宛の繁殖用牝豚を有せる農家にては五六人にて一頭の牡豚を有し之れが飼養管理は一人に囑托し其の飼養料は各人に等分又は牝豚の頭數の割合に分擔せしむるなり斯く共有にするの方法は當に種牡の價格及び飼養料に於て利益あるのみならず尙ほ次の利益あり

牡親共有の利益

- (一) 善良なる種牡を購求することを得
- (二) 飼養管理比較的充分なること
- (三) 良き豚兒を繁殖することを勧誘す

之れ同じ牡親より生じたる兒にして善惡の等級あるは牝親の不良なるか又は飼養管理の惡しきに由るを以て己の生産せし豚兒の他人のものより劣ることある時は良豚兒を得むと欲する競争心より勢ひ良き牝親を購入し且つ熟練せる人に付きて其の飼養管理を習得して改良を企つるに至るべし沖繩及臺灣にては特に種牡飼養者ありて交尾料を取りて交尾せしめ居れり大抵一里以内の所にて牡豚を牝豚の所に連れ來りて交尾せしむるなり其の連れ來るには少しも勞することなく能く人意に従ふて歩行し熟練せる牡豚にありては歸る時は鞭を軽く加ふれば直ちに牝豚を見捨て歸途に着くなり東京附近其他の地方にては之れと反對に牝豚を籠又は箱に入れ荷車に載せて牡豚の所に連れ行きて交尾せしむるなり

牝親の管理

○牝親の管理

牡豚の管理に述べたと同じく如何に善良なる母豚を有すと雖ども其の管理宜しからざる時は恰も善良なる製造器具を有しながら其の取り扱ひ惡きが爲め良好なる製品を得ること能はざるが如く善良なる兒豚を得んと欲し



て望むべからざるなり繁殖家の利益は殆ど母豚の管理法の巧拙によりて決定せらるゝと云ふも敢て過言にあらざるなり

妊娠期間

○妊娠期間

豚の妊娠期間は概四ヶ月位なり最も普通は百十六日短きは百十二日なり若き牝豚の妊娠日数は或は百日乃至百六日なることあり

分娩

○分娩の好期節

豚の分娩は一年に二回とし春三月と秋九月とに分娩する様にすべし故に十一月と五月とに交尾せしめざるべからず春秋の二季は氣候良好に食物潤澤なる故生兒は能く發育するなり

遊牝期及び交尾

○遊牝期及び交尾

遊牝期は四期共に起り來るものにして其の徴候は舉動不穩となり食欲減じ陰部著しく充血して紅色を帯びて腫起す時に叫喚して牝豚を慕ふの情あり斯く徴候現れてより十二時間乃至十四時間中に交尾せしむべし豚の遊牝期は三十時間乃至四十時間繼續す若し此の時に交尾せしめずして徒に經過せしむる時は一二週間を経て再び發情す歐米の養豚家の信する所に由れば遊牝期の初期に於て交尾せしむれば牝兒を多く産み末期に於て交尾せしむれば牝兒を多く産むと云へり

交尾せしむるには可成靜なる所を撰び牝牝一對の外は決して他のものを入るゝべからず而して交尾し終れば別々に室に入れ牝は四五時間食物を與へず水のみを與へ牝は通常の如く飼養すべし

妊娠の徴候

○妊娠の徴候

受胎したる牝豚は靜穩となり自ら倦怠の狀を呈し遊牝期の再發せざるものは最早受胎せる證にして交尾後七八十日を経れば腹膨脹して明に分るに至るなり

妊娠の飼養管理

○妊娠の飼養管理

豚の妊娠中適當なる飼料を與へ適當なる運動をなさしめ安穩なる室を與ふることは最も必要なことなりとす牝豚は牝豚を配する時は寧ろ瘠せしむるも肥滿に過ぎさしむ可らず肥滿に過ぎたる時は妊娠し難く且つ妊娠して

母豚の肥滿せしむべからず



も産兒は比較的、小にして健康ならざるなり故に妊娠中は比較的養分少く容積大なる飼料を充分多量に與ふるを良しとす沖繩縣にては焼酎滓又は豆腐滓及び豆腐の搾汁に甘藷の皮及び屑藷の煮たるものを混じ水を多量に混合して稀薄にし少しく温め之れに甘藷の生葉を挫みて加へ與ふるなり其の他殘飯殘汁根菜類穀物等を煮て與ふ要するに前に述べたるが如く養分少く容積大なるものを與へ妄りに肥滿するを防ぐべし茲に注意すべきは妊娠中は特に注意して不消化物酸腐物及び非常に冷かなる飼料若しくは冷水を與ふべからず發芽したる瓜哇薯は必ず芽を去りて與へざるべからず發芽したるものにはソラニシのりて此等は皆流産の原因をなすものなり適當なる運動をなさしむることは豚の健康上最も必要なることにして狹隘なる室内にのみ閉ぢ込め運動せしめざる時は産後種々の疾病を起すこと多し尙ほ妊娠中は最も安穩なる室を與へ殊に注意して物に驚かしめず又物に衝突せしめず暴風雨又は寒暖不調なる氣候に觸れしめず常に室内を清潔にし冬は新鮮なる寝藁を可成毎日取り換へて與へ暖を取らしめ夏は日蔭を設けて涼を取らしむべし

分娩の手續

分娩の前徴

しむべし

○分娩の手續及び産後の注意

分娩の期近づくに従ひ腹は膨脹し分娩の二三日前に至れば乳房は著しく腫起し其の將に分娩せんとする日になれば豚は臥することなく立ち通し藁を喰へて一方に寄せ集め藁を作らむとするものゝ如し之れ分娩の前徴なり妊娠後百日目位よりは丁寧なる管理をなし清潔なる藁を充分給すべし然し分娩當日になれば切藁を適量に與ふべし餘り藁の分量多き時は母豚は藁を一方に積み重ねて巢を作るを以て往々生れたる兒豚は藁の中に隠れ母豚の爲め壓殺さるゝことあり故に寒き時は室の周圍を藁若しくは蓆等にて充分に圍み室内の温度を保ち室内には餘り多く藁を與ふべからず其の將に分娩せむとする日になれば室内を薄暗くし可成靜にして平素慣れたる管理人の外出入せざるを良しとす

産後の注意

豚の分娩は極めて容易く難産と云ふこと甚だ稀にして人力の助けを要すること少し其の將に分娩せむとすれば前に述べたる如き前徴を示し初め起臥



をなし遂に一側に臥し四肢を縮め豫備陳痛ありて暫時にして一兒を生み其の後五分乃至十五分毎に一兒を生む故に分娩の始めより終り迄には一時間乃至二時間を要す之れを以て母豚の疲勞甚し故に特に注意して看護をなし叮嚀に飼料を與へ元氣の回復を計らざるべからず但し産後直ちに良き飼料を多量に與ふるときは乳房は急に膨脹し其の乳汁過剰となり之れがため劇しき疼痛を起すことあり故に産後三四日は淡白なる食物を與へ兒豚の吸乳増加するに従ひ漸次良食を給すべし最後の兒が産れて十分乃至三十分間にして胎盤を下す胎盤は下るや否なや早く取り去らざるべからず然らざれば母豚は之れを食して肉の味を知り遂には其の産みたる仔をも食するに至ることあり

産兒數

豚の一産の兒數は一定せざるものにして少なきは四五匹極少なきは唯だ一二匹なるあり多きは十八匹甚しきは二十二匹を生みしことありされど普通は五六匹乃至十匹なり而して豚の種類及び母豚の取扱にも由るべしと雖ども普通生れし兒は小なるは一斤大なるは三四斤あり

哺乳の手續

豚の産は斯く容易にして入力を要すること少し唯だ臍が切れざる時に之れを鈍刀にて切るなり然し普通は之れも自ら切れるなり沖繩縣に於ける熟練なる養豚家の取扱法を述べんに飼養者は能く其の分娩の徴候を知り其の將に生れんとするや常に之れを看守して其の生るゝや其の兒を一々採りて柔軟なる木綿のぼろにて先づ口を拭ひ次に全身を拭き一寸位の長さにて臍を結びて其先端を切り軟き切葉を容れたる桶に入れ置き其の悉く生れて後ち胎盤の下るを待ち先づ第一に母豚の嗜好する飼料を少しく與へ次に兒を放ちて乳を飲ましむるは最も良法なりと云ふべし  
豚には惡癖ありて乳を與ふることを嫌ふのみならず兒豚を嫌ふものあり甚しきは之を噛み殺さんとするものあり故に最初兒豚一匹を放ちて其の惡癖の有無を試むべし喜んで兒を愛し乳を與へんとする様子見ゆるときは他の兒豚も悉く放つべし若し萬一兒豚を嫌ひ到底自ら乳を飲ましむる傾向なきときは止むを得ず母豚の四足を縛して一側に倒臥し兒豚をして乳を吸はしむべし斯くすれば母豚は遂に馴れて兒を愛するの念生じて自ら之れを愛育



するに至るなり

一母の青兒數

一母の青兒數

一匹の母豚の乳育する兒豚の數は母豚の性質種類及び飼養管理により大差あれども七八匹を適當とし多くとも十二匹とす餘り多きは乳育するに困難なり故に餘り多きときは同時期に生みし他の兒持ちの少なき母豚に育てしむべし

斯く他より兒豚を貰ひ入れるときは充分なる注意をなすべし然らずして唯だ其の儘入れるときは危険少なからず則ち母豚は自分の兒と區別して甚だしきは之れを嚙殺することあり西洋の方法によれば貰ひ兒と實兒とにプランデーを散布す斯くすれば何れも同じ臭ある故母豚は之れを區別すること能はずして殺害を加へざるなり沖繩縣の方法によれば一應仔豚を悉く室外に出し新らしく貰ひ入れし兒と共に母豚の排泄物を以て擦り或は兒全體に小便を散布し然る後實仔も貰ひ仔も共に室に入れるなり斯くすれば前の場合の如く何れも同臭なる故母豚は之れを區別せずして殺害せざるなり要する

貰ひ兒の取

に豚は自他の兒を區別するに眼によること少なく重に嗅ぐことにのみよる故に唯だ臭を同じくすれば何れの方法にても可なり

死兒は早く除去すべし

生れし兒は直ちに軟かなる藁を敷きたる籠の中に入れ之れを他の場所に置き時々母豚の處に連れ行きて乳を飲ましむることあり之れは壓殺を避け又は母豚の産後の勞れを回復せしむるに便利ありと雖も大抵は斯かる面倒なる手數を行はず直に母豚と同じ場處に入れ置きて少しも差支なかるべし茲に特に注意すべきは豚は感情の鈍き動物なる故動もすれば其の分娩したる兒豚を故意に喰害し或は故意に非ずして過つて壓殺し又は踏殺することあり若し斯かる過ちの生じたるときは其の殺されたる兒豚は早く取除かざるべからず之れを取除くには成る可く母豚に見せざる様にすべし即ち母豚に少許の嗜好食物を施し其の食する間に於て菰のごときものを覆せて取り去るべし若し死兒を永く放置するときは母豚は之れが血を嘗め遂に生食するに至る一度死兒を食して其の味を覺ゆれば其嗜慾は益々増長して遂には他の生きたる兒豚をも食するに至ることあり

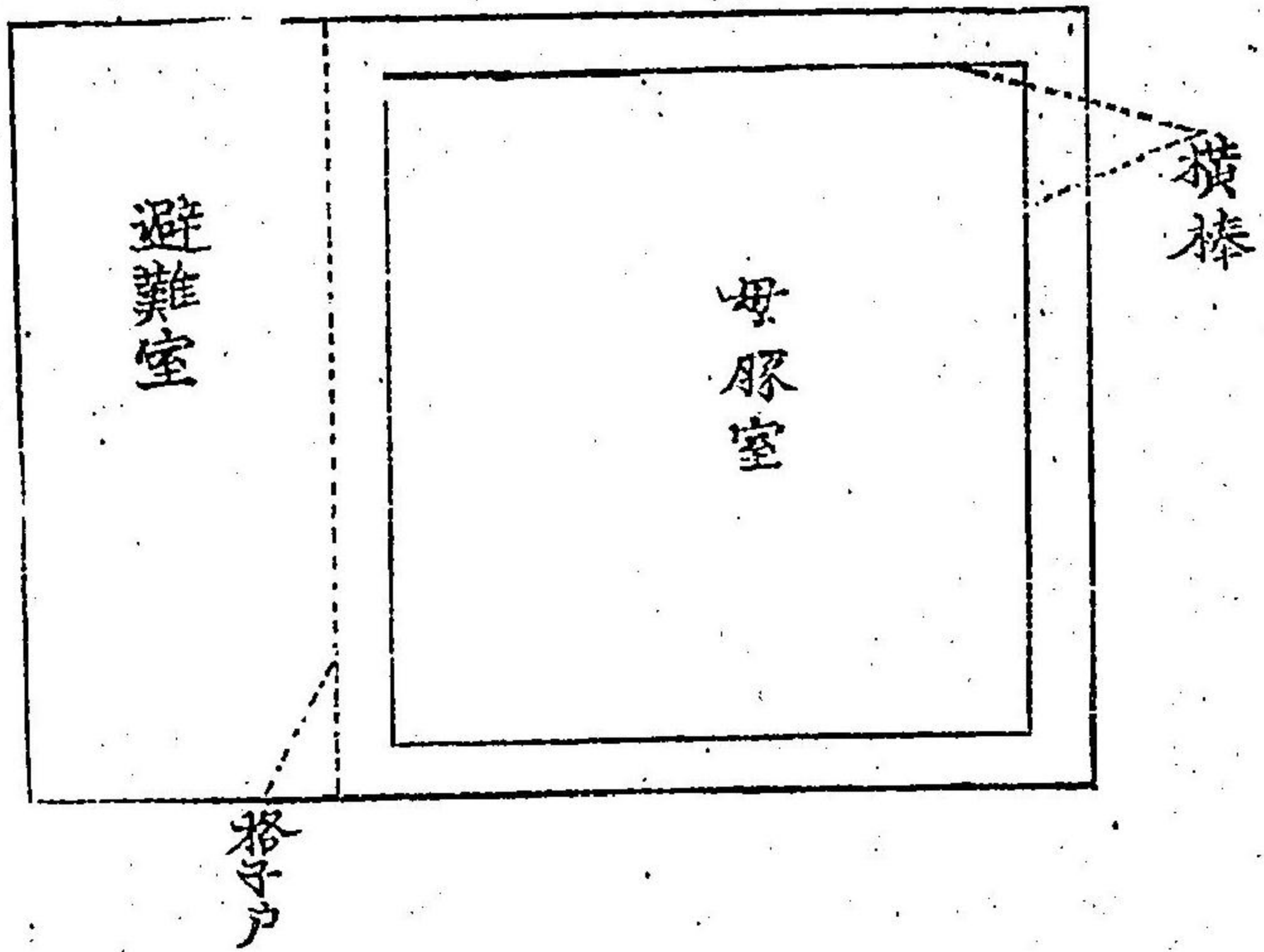


○母豚悪癖の原因

斯く母豚は兒を嫌ひ或は食害し或は過殺する等の悪癖は素より遺傳的性質にもよると雖も飼養管理の方法に最も關係するものゝ如し即ち飼養悪しくして飢を感じせしむるがごときことあるときは母豚は性質悪しくなり常に起臥することも頻繁にして兒豚を過殺すること多く又驚きたるときも同様の過失あり常に室内にのみ清潔に飼養したる母豚にして生兒を食害する悪癖の生ずるは母豚をして少しも土、木炭、石灰等のものを食はしめざるによりといふ人あり此の説果して信ならば之れ等に對しては時々土、木炭、石灰等の粉末を與ふれば可なり或は又兒豚に犬齒の異常なるものありて哺乳の際乳頭を痛め遂に母豚をして狂怒せしめ兒を噛殺すに至らしむることあり故に生れしときよく検査をなし著しく犬齒の異常あるときは釘抜きにて之れを抜き取るべし

○悪癖の豫防法

母豚の悪癖より生ずる損害を豫防するには室を大にし室の周圍に壁より一



尺を放れて一尺位の高さに棒を横へ置く様にすべし母豚の兒を壓殺するは壁に沿ふて寐るときに多し故に横棒の存するあれば母豚は臥せんとするとき其の棒に沿ふて横はり若し兒豚が母豚と横棒との間に居るときは棒の下をくぐりて壁の方に逃げ走るを得るなり斯く横棒を設くるとは産後二三十日間は欠くべからざる要件にして平素は横棒を取り外し置くを可とす尙ほ隣りに一室を備へ其の間壁は格子又は兒豚のみ出入し得る丈けの入口を設け母豚の食害を免れしむべし兒豚の未だ稚弱なるときに長き藁及び枯草等のごときものを



多く與ふべからず之れ長き藁は兒豚の足に纏結して往々母豚の過殺を避け能はざらしむることあり故に藁は必ず五六寸の長さに切斷して與へ兒豚の跪倒を避くべし母豚の生兒を食害せんとするとき兒豚の皮膚に觸れざる様毛に少しく石腦油を塗れば食害を免るといふ又蘆薈の煎汁及び燒酎等を塗ることあり

母豚は豫ねてより能く愛撫して管理者に馴れしむることは大切のことにして分娩のとき又は悪癖の生じたるるとき室内に入りて兒豚を保護するに便利なり若し豫ねてより管理者に馴れざるときは人が室内に入るときは大いに怒ることありて管理上甚だ不便なり

○兒持母豚の飼料

母豚の兒を乳育しつゝある間は多く飼料を與へ良き乳を多く出さしむる様にすべし良飼料とは豆麥等の引割及穀を湯又は温かなる豆腐の搾汁若くは米の磨き汁等に浸したるものなり併し餘り滋養分に富みたる飼料のみを制限して與ふるよりは滋養分中等なる飼料を豊かに與ふるを良しとす滋養

兒持母豚の飼料

母豚及兒豚の運動

分に富みたる飼料のみを制限して與ふるときは動もすれば熱病を發し又は便秘フンゲリを起すことあり草又は他の綠食物は豚の飼料として必要なるものにして赤ツメグサ及び甘藷の葉等最も良し沖繩にては育兒中の母豚に與ふる飼料は妊娠中に與ふる飼料と同じく唯だ此の場合には稍々濃厚にするのみ時々乳を多く出さしむる爲めとて牛豚屠殺場より生する生骨を買ひ之れを煮て與ふるあり或は蛙を煮て飼料と共に揉み碎きて與ふるあり育兒中は渴すること多きを以て常に清水を室内に備へ置くか又は時々充分に給與すべし

○母豚及び兒豚の運動

母豚及び兒豚を運動場に出して運動せしむることは健全に發育せしむる上に於て最も必要なることにして兒豚は之れによりて新鮮なる大氣を呼吸し任意に運動し以て筋骨を堅固にし性質健康となり能く外來の有害作用に抵抗すべき力を生せしむることを得故に分娩後二週間を経れば暴風雨及び嚴寒炎天の外は一日二三回は午前十時より午後三時までの間に母子共に廣き運動場に出して自由に運動せしむべし運動中は成る可く他の母子と一所に



置くべからず若し共有運動場なるときは時間を異にして交々に出すべし斯くせざるときは兒豚は他の母豚の處に行きて害せられ又は母豚間に喧嘩を起すことあり尙ほ注意すべきは運動中は他の獸類殊に犬、狼、狐等の侵害なき様豫防すること最も必要なりとす

## 哺乳中兒豚の飼養

## ○哺乳中兒豚の飼養

豚兒は生後二三週間にして通例食物を食ひ初むるものにして西洋にては毎日三四回滓乳牛乳よりバターを取りたる滓を温めて與へ以て早く飼料を食ふことに慣れしむ其の食物を食ひ初むるや燕麥、玉蜀黍の引割及び糠其の他馬鈴薯、甘藷、豆腐粕等を混じ温湯又は温き豆腐の搾汁若くは滓乳に浸漬したるもの適當の分量を與へ成長するに従ひて馬鈴薯、甘藷、燕麥、大根等の如き根菜及び葉菜等を細かに碎き熟煮したるものを加へ次第に分量を増加すべし米國式に因れば兒豚の食室は別に一室を設け格子戸を以て母室と離隔し母豚をして通行し得ざらしむ然らざれば兒豚の飼料は悉く母豚に食ひ盡さるべし沖繩縣にては別に室を區別するとなく兒豚に給食すると同時に母豚にも給

食して母豚の食食を防げり併し食ひ盡す迄看守し居るを以て差支なしと雖も多くの豚を養ふに於て斯かる手續をなし得ざるときは兒豚の飼料は母豚のものより良きを以て母豚は一度之れを味ひ知れば常に之れを貪食せんとするなり故に成る可く米國式によるを便利とす沖繩縣にては兒豚に飼料を食はせ初むるは生後二十日内外にして其の以前より室内に少しつゝ煮たる甘藷皮及び屑藷を投して之れを拾ひ食はしめ次第に飼料に馴れしむるなり其の食物に慣るゝや煮たる甘藷皮及び屑に焼酎滓又は豆腐滓及び豆腐汁等を加へて温め母豚の飼料よりは少しく濃厚にして則ち粥より少しく稀薄にし與ふるなり豚兒を市場にて賣却せんとするものは蛙を煮て飼料中に揉み碎きて與ふ斯くすれば豚兒は肥滿して美なりと雖も購買者は之を嫌ふなり如何となれば斯かる美食をなしたるものは粗食に慣れ難く其の慣るゝ間は永き時日を要し従て瘦瘠し之れを回復すると甚だ困難なり兒豚のときは惡結果は引て全成長に影響すること大なるものなり飼料を入れるべき食槽は大抵木製の細長なる箱又は丸木を掘込みたるものにして所々に仕切をな



せり今茲に米國の有名なる養豚家ムール氏の兒豚に食餌を與ふる方法を擧げん氏は養豚雜誌に記して曰はく

凡て食餌を入るべき食槽には其の食槽の上に細き仕切をなし各兒豚が食槽内の食餌を食ふときは各自別々に食槽口に於て食はしむべし又兒豚に食餌を食はしむるには各自に多少の差なく平等均一に食はしむるを要す即ち食槽は素と細長き箱にて之れを細き棒にて幾個にも仕切をなすこと必要なり若し斯くせずして水にて稀釋したる食餌を一度に食槽の一端にのみ注ぎ込みて他端に流れ行くに任ずときは此のとき多くの兒豚は既に食槽に臨みて食餌を待ち居る故食餌を注ぎ込みたる槽端に居る兒豚のみ獨り縦に食食し槽の他端にありて食餌の流れ來るを待ち居る兒豚は唯だ殘留せる水のみを食し得るに過ぎず其の旨き食餌(汗の實)は悉く上座の兒豚のために食ひ盡さるゝものなり又多くの兒豚は食槽に臨みて食するを注意して見るときは食餌を注ぎ込みたる端に於て一度食食したることあるときは能く之れを記憶して忘れず次回の

兒豚の副食物

兒豚の去勢

食事のときにあたり若し弱き兒豚が先づ其處に居を占むるときは強き兒豚は之れを排斥して自ら代はりて食するが故に弱き兒豚は常に他端に至り殘餘の汁を啜り之れがため生育甚だ悪し

此の方法は沖繩にても行へり尤も一樣に混合せる飼料にして實と汁との區別なきときは食槽を水平に置き一々管理人が付き添ひ能く看守して給食するときは各豚平等に食はしめ得ると雖も多數の豚群にして手數行届かざるときは是非前法によらざるべからず

兒豚には骨格の發育を助くる爲め一日一匹に付き四匁乃至五匁位の骨粉を飼料の中に混じて與ふ或は木灰又は石灰を一匁乃至三匁を加へて食はす處もあり殊に兒豚には食物を吟味して腐敗物或は不消化物等を與へざる様にするべし又幼きときは病に罹り易きを以て出來得る限り室を清潔にし且つ適當に溫度を保つこと肝要なり

○兒豚の去勢

繁殖用に供する兒豚は生後三四ヶ月を経れば牡牝を區別して飼ひ他のもの



は何れも去勢を行ふべし牝豚の睪丸割去は沖繩にては生後二十五日乃至三十日西洋にては生後一ヶ月乃至一ヶ月半を経て行ふ而して何處も兒豚の未だ斷乳せられざる時季に行ふべし母豚の乳を飲みつゝある間は施術も容易にして傷口の治療も速かなり且つ施術のために毫も身體の發育を害するることなし餘まり大くなりてより去勢すれば發育悪し然れども發育羸弱なる兒豚は其の快復を待ちて去勢を行ふべし睪丸割去の施術は簡單なるものにして何人も行ひ得べしと雖ども可成熟練せるものに行はしむるに如くはなし其の方法は先づ兒豚の後足を執りて室外に出し横に臥せしめ施術者は其の足にて兒豚の肩を押さへて動かざる様にし左手にて陰囊をつかみ睪丸を囊端に來し右手に小刀を持ち睪丸の間即ち絶線に従て中央に一つの創口を切り二個の睪丸を壓出して捻ぢ切るか又は小刀にて截斷して皮膚の創口にはス、の如き得易き防腐劑を塗りて放つなり米國等にては兒豚を之れと同大の底のなき桶に逆向きに入れ頭を下にし後足を上にし自由に身體を動かすことを得ざらしめて施術を行ふと云ふ而して施術後傷口には多くの蠅群集

し來り兒豚を腦ますことあり斯かるときは石腦油を傷口及び其周邊へ塗るを良とす牝豚の卵巣截去は沖繩にては早きは生後三四十日遅きは三ヶ月を経て行ひ西洋にては大抵生後三ヶ月を経て行ふ此の施術は甚だ困難なるものにして熟練せるものにあらざれば決して行ふこと能はず未熟練のものは往々兒豚を殺すことあり沖繩にては一つの專業者あり其の大體の方法を言へば先づ兒豚を右側に臥せしめ臍部の左側面に上下に長さ八分位を切り食指を差入れて卵巣を二個探り出して捻ぢ切るか又は小刀にて截斷し後ち臍部の創口には煤の如き防腐劑を塗りて放つなり此の際腸を傷けざる様特に注意せざるべからず

○兒豚の斷乳

兒豚をして斷乳せしむるに適當なる時期は兒豚發育の有様によりて定むるものにして一概に云ふこと能はず飼養者自ら種々の事情を見計ひて斷定せざるべからず西洋にては普通生後七週間乃至十週間にして斷乳す沖繩にては七十日乃至八十日にして斷乳し其の中最も弱きもの一二頭は百日間位ま



では母豚と共に置き残留せる乳を飲まして断乳す断乳するには豫てより飼料に慣れしむること最も必要にして前に述べたる如く生後二十日内外を經れば乳の外他の飼料を與へ次第に其の分量を増加し漸次に哺乳を減じて啖食に移らしむれば其の成長を妨害せらるることなし若し然からずして突然哺乳を廢して急に他の飼料を食はしむるが如き激變をなすときは數週日間は其生育を遅緩ならしむ兒豚を飼育するに於て其の成長を中止せしめざる様にするは最も肝要のことなりとす

断乳をなすに一腹の兄弟を一時に悉く断乳することは最も良法にはあらずるべし故に大部分は一時に断乳して別室に隔離し其内最も弱きもの一二匹は殘して母豚の残留せる乳を飲ましめ四五日を経て一頭を断乳し尙ほ三四日を経て他の一頭をも断乳すべし斯くすれば弱き兒豚の發育を補ふにもよろしく又母豚の乳は一時に断絶することなく漸々に減少するを以て母豚の健康も害することなく最も良き断乳法なり

断乳後の飼

断乳後兒豚の飼料は哺乳中の食物に同じきものを與ふべし其の初めの標準

は乳の成分に従ふべし豚乳の成分は次のごとし

水分	八七、一七	脂肪	一、〇三
糖分	四、二六	窒素分及蛋白質	六、四六
鹽類	一、一八	合計	一〇〇、〇〇

而して一時に飽食せしめずして成可く度々に與へ以て消化を充分ならしむべし兒豚に滋養多き飼料を多く與ふるときは餘まり早熟早肥して太く成長せざるを以て断乳後は次第に粗食になれしめ最初は骨格を大にする飼料を與ふべし沖繩にては断乳後屠殺するまでを三期に分て飼育す詳しきことは飼養法の章下に於て述べべし

既に述べたる如く室内を清潔にし藁を給し適當の運動をなさしむること等叮嚀に取扱ふこと最も必要とす尙ほ茲に注意すべきは兒豚は強弱相等しきものを一組とし一室に飼養すべし斯くせざれば常に弱者は強者に壓倒せられて發育不充分なるを免れざるなり母豚は断乳後毎日運動場に放ちて自由



に運動せしめ適良なる飼料を給すれば普通断乳後二三週間にして遊牝期を來すべし

## 第六章

### ○去勢法

去勢法

去勢とは繁殖の機能を失はしむることを謂ふなり其の手段として重もに繁殖に必要な大本器關即ち牡にありては睪丸牝にありては卵巢を截去するなり

去勢の効用

### 去勢の効用

肉用豚にせんため牡豚の睪丸を截去することの必要なることは遍く養豚業者の認むる處なれども牝豚の卵巢を截去することも亦必要なり沖繩にては昔より二者共に實行せり去勢したる豚は牡牝を問はず何れも性質温順となり管理し易く肥満し易し肉附きも多く肉味よろしく經濟上大なる利益あり故に特別なる場合を除くの外は肉用豚は必ず去勢せざるべからず然らざれば

牡豚にありては亂暴放縱となりて牝豚と雜居せしめられざるは勿論同じ牡豚と雖ども一室に數多群居せしむるときは互に争闘し甚だしきは癒ゆべからざる負傷者を生ずることあり假令室を別にすと雖も牝豚の音聲が聞ゆるあれば時々刻々發情して牝を慕ひ常に騒がしく或は器物を噛み破り或は飼料を履み亂す等管理困難にして肥満も亦困難なり牝豚にありては時々遊牝期を來して其の期間は食欲減却し肥育困難にして肉付悪しく其の卵巢を截去して肥育したるものと截去せずして肥育したるものと比較するに同大のものど雖も常に前者は後者より肉量に於て十斤乃至二十斤多し故に牝豚を問はず去勢したると否なとは價格に於て非常なる差違を生ずるなり繁殖用豚にして肉用豚に移さるときは牡豚は睪丸を截去せざるべからざるは言を待たずと雖も牝豚は往々妊娠せしめたるまゝ肥育して其の妊娠中途に屠殺するあり之れは卵巢截去したるものには如かずと雖も施術困難にして失敗多きが爲め往々行ふなり若し熟練なる去勢術者なき所にては止むを得ず此法を用ゆること安全なりとす



去勢術施行期節

去勢術を執行するに小豚にありては敢て期節を擇ぶの違なしと雖も廢種用豚の去勢術を行ふには成可く春を良しとす凡そ春は氣候溫暖に草木發生するの時期にして家畜の發育も亦よろしく病畜は此の時期に至りて回復速かなり故に去勢術施行のごときは此の期に於てすれば傷口の治癒すること迅速にして好結果多しとす

睪丸截去法

睪丸截去の方法は兒豚にありては既に前章に於て詳述せり廢種用豚と雖も同じく施術簡單にして別に異なる所なし唯だ後者にありては力大にして性質粗暴なるを以て助手を多く要するのみ此の場合に於ても注意すべきは創口は睪丸の壓出し得らるゝだけ成可く小さくするを要す而して創口は二三ヶ所縫ふことあれとも往々縫ひたるときは膿を持つことあり故に創口餘まり大ならざる限りは縫はざるを可とす

牡豚に *Ridglinghog* といふものあり之れは普通の牡豚と異なり睪丸は固有の

卵巢截去法

場所即ち陰囊中に存せずして體內に隠れ外より見ることを得ざるものなり之れが睪丸を截去するには恰かも牝豚の卵巢を截去すると同じく吐腹の側面に創口を作り手を腹内に差入れて睪丸をつかみ出し截去し創口は糸にて縫ふべし

先づ豚を室内又は室外にて右側を下にして倒し助手は豚を押さへて自由に動かざらしめ卵巢を截去するものは豚の背の上に軽く片足を跪きて載せ創口を附す處即ち最後肋骨の少しく後方の部分の毛を剪り去りて次に創口を上下に一寸位切り食指を差入れて脊に近く其の内側の部分に於て二箇の卵巢を探り出して捻ぢ切るなり斯く截去し終れば創口を縫ふなり之れを縫ふには創口の兩端を寄せ肉と肉とを密着せしめ接合部の中央は少しく上方に隆起せしめる様に針にて糸を皮膚に通じて縫合し靜かに豚を放つべし



### 第七章

#### ○飼養法

飼養法

養豚業の成績の良好なると否とは他に多くの原因も存すれども先づ飼養法の巧拙を以て其最も主なる原因とす換言すれば飼養法の巧拙は直ちに養豚業の盛衰となるものなり今爰に飼養上の大要を約言すれば第一飼料を吟味すること、第二成長に應じて飼料を漸變すること、第三飼料は常に充分に與ふること、第四室内を清潔にすること、第五適當の温度を保つこと、第六適當なる場所を與へて適當の運動をなさしむること、第七飼料は可成廉價なるものを求むること等にして要するに豚を健全に養育し經濟上の少費多獲の方法を取るにあり

飼料の原料

#### 飼料の原料

穀類

#### (い) 穀類

禾穀菽穀共に飼料として最も貴重すべきものなれども價の廉ならざる爲め

普く用ゆること能はざるあり然れども時と所とにより穀物として賣却するより之を以て豚を養ひ肉を生産するを利益とすることあり米國の如きは主に穀物就中玉蜀黍を以て飼養せり然し餘り極端に穀物のみを以て飼ふときは豚の健全を保つこと能はず往々疾病を起すことあり故に穀物は他の飼料と混じて用ゆること必要にして且つ經濟上よりも之を利益とするなり穀物は豚のみならず總ての家畜の飼料として最も價值あることは本章の終りに記載するウォルフ氏の飼料分析表によりて明かなるべし動物は何れのものたるを問はず筋肉を生成する飼料即ち含窒素物と體温及び脂肪を生成する飼料即ち無窒素物とを適當の割合に含有したる飼料を食せしむるにあらざれば到底健全に發育肥滿すると能はざるなり次の表は千八百六十八年米國オハイオ州農事報告に記載されたるものにして肥滿作用を營むべき各種飼料百分中に含まれたる必要元素の割合と脂肪を生成すべき物質の割合と炭素の全量とを示せり表中體温及び脂肪發生物の條下にある(I)は澱粉(II)は砂糖(III)は脂肪なりと知るべし



主なる飼料の化學成分表

名	稱	水	肉ノ滋養物	體溫及生脂肪	澱粉ト同効物	礦物質	炭素ノ全量
大麥		15,100	8,000 (I)	7,000 (III)	6,800	0,900	38,600
蠶豆		11,000	26,000 (I)	5,700 (III)	6,800	3,000	50,800
蕎麥		—	10,700 (I)	5,300 (II)	5,840	1,400	31,700
甘藷		8,900	1,400 (I)	7,000 (III)	7,200	0,100	31,900
胡羅蔔		8,650	1,300 (I)	6,300 (II)	11,300	0,800	36,100
赤苜蓿		8,100	4,700 (I)	8,450 (III)	10,100	1,300	36,700
白苜蓿		7,900	8,800 (I)	8,200 (III)	10,100	2,000	36,600
皮穀ヲ脱シタル棉實油		9,200	4,250 (I)	1,600 (III)	5,400	8,000	46,000
玉蜀黍		11,000	11,000 (I)	6,850 (III)	8,500	1,500	42,700
亞麻仁油		1,000	13,400 (I)	3,900 (II)	6,700	7,500	41,700
Mungold Wurzel	乾燥	—	11,000 (II)	15,000	6,900	6,000	31,100

主なる飼料の化學成分表

牛乳	87,000	41,000 (II)	4,600 (III)	3,500	13,500	0,700	66,700
洋乳	86,000	40,000 (II)	4,600 (III)	2,000	8,800	0,700	55,300
オト	11,000	18,000 (I)	5,500 (III)	6,500	6,600	6,500	46,800
豌豆	15,000	23,000 (I)	5,900 (II)	2,000	6,300	2,500	39,300
亞米利加防風	85,000	1,400 (I)	10,000 (II)	2,500	11,400	1,000	61,500
瓜哇薯	75,000	1,400 (I)	10,000 (II)	0,100	11,400	1,000	61,500
ライ麦	15,000	8,800 (I)	6,700 (II)	2,500	7,200	1,300	39,900
燕麥	9,100	11,000 (I)	3,300 (II)	3,000	6,200	1,500	33,900
バターミルク	89,100	40,000 (II)	4,600 (III)	1,500	7,600	0,750	51,400
麵包	86,600	8,200 (I)	4,500 (III)	1,000	4,600	1,500	26,900

此の表に依り其家畜に與ふべき飼料を擇ぶに當り何れか經濟にして有效なるやを知らる今肉を生成する物質の價値を基礎として其の効力の順序を定むる時は次の如し



皮殻を脱せし棉實油糟、蠶豆、亞麻仁油糟、豌豆、オート、玉蜀黍、ライ麥(穀粒)、蕎麥、麩包、大麥等なり

脂肪を増し體温を發生する物質を基礎とせば其の効力の順次の如し大麥、玉蜀黍、ライ麥、豌豆、オート、蠶豆、蕎麥、亞麻仁油糟、棉實油糟(脱皮殻)等なり全體の營養食物より論ずるときは其の効力の順序次の如し、玉蜀黍、大麥、蠶豆、豌豆、ライ麥、オート、蕎麥、亞麻仁油糟、棉實油糟(脱皮殻)、馬蹄薯等なり

穀類一ブッセル(一斗九升四合餘)を以て幾何の豚肉を生産し得べきやに付き千八百六十九年米國オハイオ洲農務局官吏スリヴァント氏は數多の養豚家の實況を調査せられ平均穀物一ブッセルを以て豚肉十磅(一磅は我百二十一夕六分)強を得尙ほ之を節減して九磅と見積り穀物一ブッセルの成肉の標準とせられたり然れども此の平均數を擧ぐるに採用したる實見家の飼養法は區々別々にして或は有穀穀物のまゝを與ふるあり或は圃場に放飼したるあり或は他の草類を混して與へたるあり故に此の平均數は實際の穀物の効力を示すに足らざること明なり化學上の成分の割合より考ふれば一ブッセルの穀物より

五 穀粉と生肉

豚肉十六磅乃至十九磅を得べきは合理的の事にして多くの熟練家の適當の調理法を以て飼養したる結果も亦同一の數を示せり故に適當なる調理法を以てしたるときは少くとも尙ほ一ブッセルの穀物より十五磅の豚肉を生産し得べき理屈なり然れども確固なる計算標準とするには穀物一ブッセルに付き豚肉九磅と見積ること安全とす

穀類を與ふるには蒸煮して與ふるあり或は又た破碎して水に浸して與ふるあり或は穀粒のまゝ與ふるあり然れども消化易からしむるには蒸煮するを良とす

根菜類

(ろ) 根菜類

根菜類は總て柔軟多汁にして豚の最も嗜好する所の者なり殊に適當に他の蛋白質に富みたる飼料と混して與ふるに於ては最も有効なる好飼料なり其の普通用ふる主なるものを擧ぐれば先づ甘藷、馬蹄薯、蘿蔔、胡蘿蔔、蕪菁、葉菜、芋、菊芋等にして其他總ての根菜類は皆豚の飼料として適當なるべし是等を給食せしむる時は何れも切斷して細片となし一旦蒸煮して消化し易からしむ



るを利益とす殊に菊芋の如きは栽培容易にして收穫多く最も豚の飼料として利益ある作物なり此の栽培法は馬鈴薯と殆ど似たるものなり

葉菜類

(は) 葉菜類

葉菜類も豚の嗜好する所のものにして他の飼料と混じて與へ好成績を呈す其重なるものは苣類、甘藍、菠蓮草其他根菜類の葉等なり此等を給食せしむるには蒸煮するを良とす又時々生葉を與ふるも可なり

鹹果類

(に) 鹹果類

鹹果類は主に他の穀物及び根菜類等の副飼料として最も利益あるものなり其の主なるものを擧ぐれば冬瓜、南瓜、西瓜、ポンキン、夕顔等及び西瓜の殘片及び南瓜の俗に云ふウラナリ等の如き廢物を豚の飼料に利用せば最も有益なるべし瓜類を與ふる時は固熟したる種子は除去するを必要とす然らざれば豚の泌尿機關を損はしむることあり是等はいづれも蒸煮して與ふるを利益とす

殘滓類

(は) 殘滓類

農産製造場其他料理屋等の殘滓を豚の飼料とするは廢物利用の途是より勝れるものなかるべし先づ主なるものを擧ぐればアルコール滓、ビール滓、燒酎滓、醬油滓、菓子アン滓、豆腐滓、澱粉製造滓、油滓類、糠、滓乳、殘飯、殘汁、米の磨汁、庖厨等の廢棄物等なり

馬鈴薯を原料としてアルコールを製造したる其の殘滓の家畜の飼料として有効なることは歐米の學者若しくは實業家の稱賛する所なり近來歐米各國に於て馬鈴薯の酒精醸造盛に行はれ來りし原因を尋ぬるに其の土質が馬鈴薯の耕作に好適するが爲めにあらず又酒精の利益のみに由るにあらずして之より生ずる殘滓の家畜の飼料としての實價が却りて馬鈴薯に勝るが爲めなり廢物利用の途は蓋し之れより大なるものなかるべし若しも直接に瓜哇薯を以て家畜を飼養し充分に營養の効を奏せんと欲する時は特に窒素成分に富みたる副飼料を混食せしめざるべからず然るに瓜哇薯の酒精滓は特に別種の飼料を加味するの必要なくして能く正常なる飼養の効を奏するものなり瓜哇薯を醸造に附するときは其の成分中の澱粉のみアルコールに變じ



て他の成分は依然残滓中に存在す此の失ひたる無窒素成分(澱粉)及砂糖は何れの場所にも最も廉價に得らるる所のものにして其の残滓中に存する物質(蛋白質及脂肪)が却て飼料として高價なるものなり而して瓜哇薯中に存する窒素成分は蛋白質以外の窒素成分割合に多しと雖ども一旦酒精醸造に附するに於ては其の醱酵の時に當りてアミド化合物の若干は能く蛋白質に變化す例へば未だ醱酵を加へざる醱酵液の内には窒素の全量中五五・〇六%の蛋白質とペプトン類を含有するも醱酵作用を受けたる後に至り蛋白質及ペプトン類は七一・二七%に増加すされば醱酵作用によりて一六・二一%の窒素が蛋白質に轉化したる實證なり實際瓜哇薯中の含窒素物に付て之を検するに平均窒素の全量の四〇%はアミド化合物の形にありて存在し酒精滓に付て之れを吟味すればアミド化合物は全窒素化合物の二十五%に過ぎざるなり此の事實に付て考ふるも瓜哇薯の酒精滓の飼料的實價は却て瓜哇薯に勝るとを知るべし瓜哇薯の酒精滓は麥芽を混合するの多少によりて七%乃至八%の全乾燥物を有し其營養率は平均一に付きて三乃至四とす近頃に至り

醸造の術大に進歩し醱酵の度も又た充分なるに従ひて滓中に存在する乾燥物も大に減少し平均五%乃至六・五%に過ぎざるなり此の外特に注意すべきことは其甚だ灰分と纖維とに富めることは是なり即ち瓜哇薯には〇・五乃至〇・八%滓には〇・六乃至〇・九%を有す故に瓜哇薯の酒精滓は豚の飼料として最も有効のものとして貴重すべきものなり其の食せしむるに就き特に注意すべきは此の滓には特有の微生物ありて種々の疾病の原因をなすことあり故に之れを給與するには豫め沸煮して殺菌し其冷からず又た熱からず適温になりたる時に與ふること必要なりとす此の注意は總ての醸造滓に於ても必要なり

甘藷を原料としたる酒精滓も大體に於て瓜哇薯の酒精滓と異ならざるべし故に若し本邦に瓜哇薯又は甘藷を原料とし酒精を製造する時に當りては宜しく養豚を副業とすべし沖繩縣の泡盛製造家の利益を聞くに矢張泡盛其のもの利益より却りて滓の利用より生ずる豚の利益を最大なりとす茲に述べたる殘滓類は何れも豚の飼料に利用して貴重すべきものにして養



草類

豚の利益は斯の如き廉價なる飼料を利用するにあるなり

(一) 草類

豚は素と雜食動物にして其の草類を好むが如きは天性なり然るに世人往々之を察せずして穀物のみを以て飼育し豚をして羸弱に陥らしむることあり穀物の一部分に代ゆるに草類を以てするは實に豚の健康を保つに必要なものみならず經濟上より云ふも甚だ利益とす *National Live Stock Journal* と稱する雜誌の記者の試験は能く是等の事實を證明するに足るものなり

草食の利益なる試験

該雜誌の記者は草即ち纖維質食物の一部と穀粉とを混合して飼養したる豚が健康にして利益なるか將た他物と混ぜずして穀粉のみを以て飼養したる豚が健康にして利益なるかを満足に會得せんと欲してなしたる試験の結果として左の如く記述せり

生後將に五週間なる六頭の兒豚を取りて之を三頭宛の二組に分ちて試験をなしたり六頭の兒豚の身體發達の程度も體重も皆同一にして差異なく而して試験を始めたるは六月一日なり一組の三頭は一つの小屋に

入れて十二時間水に漬けたる穀粉のみにて養ひ他の一組の三頭は其の傍の小屋に入れて青きウマゴヤシを葉切刀にて短かく切りたるものと穀粉とを混食せしめしに最初の程は三頭の兒豚は何れも穀物のみは残らず食ひ盡したれども短かく切りたるウマゴヤシは只四分の一を食ひしに過ぎず又此の穀粉はウマゴヤシと混合せる故穀粉は相互に密着せずして粗々に離れ居る故之を嚙下するに於ては恰も海綿の如きものとなりて胃に入るを以て胃液が充分能く滲入すること尙ほ水の海綿に滲入するが如し胃液が滲入するや直ちに食物の各分子と觸接するが故消化すると至つて速かなり穀物とウマゴヤシとを混じ食ひたる豚は常に活潑にして始終食物を待てり然るに穀物のみを食せし豚は初の程は暫く食ひ食へども幾何もなく食物を食らざる様になり斯の如きこと數日に亘り其の間全身發熱して日々只だ少許の食物と水とを飲食するに過ぎず續ひて全く絶食し然る後復た食ひ始むるなり此の如く初めは食ひ食ひ次に小食となり次に絶食し而して復た食ひ始むること幾回となく



繰返すこと五ヶ月にして余の試験は終了せり是に於て二組の豚の體重を量りしに穀粉のみを以て養ひたる豚は各一頭百五十磅なりしが穀粉とウマゴヤシと混して食はしめたる一組の豚は各二百十磅の體重を有せり即ち草食動物の天性に従ひて養ひたる豚は一頭六十磅即ち四割の増重なり而して兩組が消費したる食物の分量は總計に於て略ぼ相等しく大差あるなし又た此の試験に於て豚に與へたるウマゴヤシの分量は少量にして穀物の副食物たるに過ぎず一食に於て截りたるウマゴヤシの分量は一升三合に過ぎたることなし余は翌夏の間は常に此の如く養ひウマゴヤシは豚の食し得らるる寸の分量を與へたり牧草の生せる牧地なくして豚を養ふにはウマゴヤシを與ふるは極めて善き養法とす此の如く草のみを以て養ふこと或は穀物に草を混して養ふことを正しき養方と云ひ此の養方をなしたる豚は常に健康なり若し又穀物と草との混合食物中へ油質食物を交せて食はしむるときは其の發達生長は甚だ大なるものなり更に又冬期に於て草類を穀物と共に食はしむる良否を

一組二頭宛とし二組を以て試験せり此の四頭の豚は何れも皆同年齡にして一頭の重量も皆等しく各組各百五十磅なり試験日數は百二十日なり此の試験において一組には穀物のみ數時間熱湯に漬けて與へ他の一組には穀物へ枯れたるウマゴヤシを混じ之を熱湯に漬けて與へたり此の試験に於て二組共穀物を食ひたる分量は平等にして差異なし此の時の試験に於ては穀物のみを與へたる豚は夏期の試験に比するに頗る健康なり即ち齡も數ヶ月増加し氣候も亦た寒冷なる爲め身體の發熱も少かりし然れども其の體量に至りては穀物のみを以て養ひたる豚は每頭百十磅にしてウマゴヤシの枯草と穀物とを混し食はしめたる豚は每頭百四十三磅の體重を有し兩者の差三十三磅なり右の如く草食動物なる本來の性質に従ひ養ひ正則の食物を與ふるときは其の利益斯の如く然らざれば其損斯の如し此の損失を計算すれば豈巨大ならずやと以上の實驗に徴するも草類の飼養として有効なることを知らるべし歐米にては夏牧草の繁茂する時は青草のみを以て養ふ所あり凡て穀物は肥滿せし



むるには良食物なれども成長せしむるには好食物にあらず故に肥育期に達する前は可成容積の大なる飼料即ち草類等を與ふるを經濟上得策とす尙又豚の健康上よりも良しとす幼き時より穀物のみを以て養ふときは肥育期に至りて往々疾病を惹起すること多しとす草類の豚飼料として有効なるものはツマゴヤシ、ツメクサ類、アルハルハア草、チモンシ及び甘藷の葉莖等なり就中荳科の牧草は豚の最も好む所なり

樹實類

(と) 樹實類

樹實類の豚の飼料として普通利用せらるゝものは栗、團栗、榧の實、椎の實等にして西洋にては此等の樹實類が熟して地上に落下せる時に豚を放ちて自由に拾ひ食はしむると云ふ

肉質類

(ち) 肉質類

豚は殆んど總ての動物の肉を食ふ沖繩邊にては普通に飼料として用ゐるものは蛙、蟹、タニシ、蝸牛及び魚介類等なり肉質類を與ふる時は充分之を熟煮して揉み碎き他の飼料と混じて與ふべし單獨に與ふるは不可なり

副飼料

(り) 副飼料

食鹽の必要

茲に副飼料と云ふは便宜上名づけたるものにして或は副飼料の名目の下に置き得ざるものなきにあらざるべし先づ茲に云ふ豚の副飼料の重なるものは食鹽、砂糖、石灰、木炭、骨粉、アンチモニー、砒素、硫黄等なり食鹽は動物の生理上必要なものなり之を概言すれば食鹽は全體の生活機能を勵まし殊に消化作用を助け充分に營養分を吸収攝取せしむる故に人畜の健康には最も必要なり而して食鹽は動物體各種の汁液其他總ての組織中に存在して一つの成分をなす此の故に新陳代謝の作用に伴ふて排出せらるゝものは充分に飼料中より補給せざるべからず然るに豚の飼料は或る特種の飼料例へば醬油糟及び臺所の殘物等の外は食鹽の分量に乏し故に特に食鹽を加味するの必要あり又豚も食鹽の加味を好み食欲を増加す然れども過多なる分量は却て生理上有害なり即ち之れが爲めに新陳代謝の作用を烈しくし必要の度を超へて諸機管の分解を促し營養分の損失を招くのみならず往々其の健康を損ひ危險の病に罹り易し故に適當に加味せざるべからず普



食鹽の適量

通豚に與ふる分量は一日一頭につき十匁乃至四十匁とす

炭酸石灰

豚の健康を保たんと欲せば一日一頭につき炭酸石灰二三匁を水に溶かし石灰乳の形となし之れを飼料に混するか或は骨粉三匁乃至五匁を飼料に加へざるべからず殊に幼稚なる豚に對しては最も必要とす

磷酸及石灰

磷酸及び石灰は骨組織を營養するに於て必要のものなり然るに豚の飼料中には磷酸の分量は充分なれども石灰の割合常に充分なる能はず故に此の不足を補はざるべからず彼の軟骨病の原因は礦物質不足にのみ歸するにあらずと雖も是等は平常飼料に加味して與ふれば右の疾病を起さずと云ふ

アンチモニー  
砒石

英國に於ては飼料中に木炭粉を混じて與ふるあり其の説に依れば食物の消化を助け早熟早肥の效ありと云ふ昔よりの習慣にして學理的の説明なし又英國にては豚を肥育するときに一週間に三四回飼料中にアンチモニー或は砒石を四五匁位散布して與ふ其の説によれば早く肥滿すると云ふ蓋しアンチモニー及び砒石は或程度迄は血の循環を能くし又胃腸の作用を刺激し從て食慾を増加す斯かる點より知らず識らず慣用し來れり一つの理屈は存す

砂糖

と雖も經濟上利益あるや否やは別問題なり

砂糖の豚の飼料として有效なることはハノーバー及びギョッチングンの試験場に於て數多の研究の結果によりて明かなり即ち其の試験の結果によれば砂糖三斤を以て一斤の生體量を増加せる割合を示せり但し砂糖の分量には一定の適量ありて之を過ぐれば却て食慾を減するの憂あり故に充分此の點に注意するを要す生長したる豚には一日一頭に付き百三十三匁乃至二百匁を適量とす豚の飼料に砂糖を加味すれば之が爲めに著しく食慾を増進して多量の營養分を吸収するが故に豚の肥育に對しては最も有效なる物質とす然れども是等は經濟上より考ふべきものにして粗製糖又は不結晶糖等の如き最も廉價に得らるるの途あれば用ひて利益なるべし製糖鍋の洗汁等は最も良き利用法なるべし

豚の嫌物

○豚の嫌物

豚は動植物何れも殆んど食せざることなし然れども茲に食せしむべからざるものあり是れ香辛類蕃椒葱の如きものにして之を食せしむるときは下痢



飼養器具類

飼養器具類

食槽

食槽

食槽の構造上の要件

食槽の構造を論ずるに當り注意すべき要件を擧ぐれば左の如し

第一食槽は清潔を保ち易きものなること

食槽は給食後直ちに洗滌して常に清潔ならしむべし是れ世人往々豚を以て不潔を好むとし等閑に附すと雖ども之れを洗はざる時は食槽中に殘留する飼料は腐敗して鈍性の豚は知らず識らず之を食し老年のものは健康を害し少壯のものは病氣を誘起することあり故に注意して清潔にせざるべからず

第二食槽は食物の損失せざるものなること

豚は常に食物を喰ひ散らす傾向ある故此點に注意して可成損失せざる様にする事飼料經濟上肝要なり

第三食槽は豚をして食物を喰はしむるに便なること

食物を喰ふに當り食槽の便否は其の喰ふ分量に大差あり殊に數頭同一の食槽より喰はしむるときに於て著しとす

第四食槽は以上の性質を具備して經濟上有利なるものなること

豚の飼料は常に水分多きものなるを以て木材にて造りたるものは其の腐朽すること速なり單に堪久性より云へば陶器、石造或は金屬性のものを良しとす然れども是等は經濟上の點より考へざるべからず木製なりと雖も製造費廉なれば敢て不可なかるべし

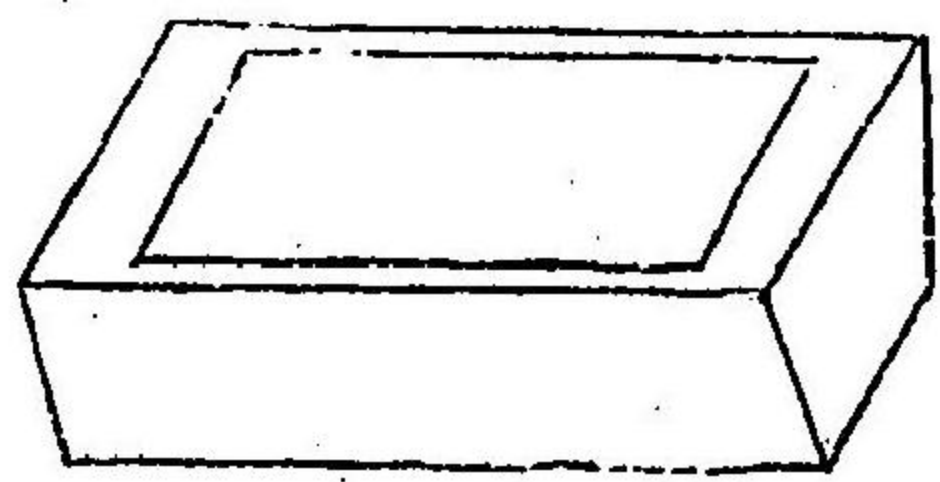
食槽の種類には木造、石造、金屬製、陶器或はセメント製等あり日本にあるは主

に木造にして次は石造なり今茲に數種の食槽の構造を述べん  
第一圖は農科大學畜舎に用ゆる豚の食槽の一つにして丸木を二つ割りにして長さ三尺巾一尺二寸高さ七寸に切り長さ二尺二寸幅一尺深さ五寸を掘り取りたるものなり第二圖も農科大學使用のものにして八分の板を以て造り長さ三尺幅一尺高さは前方は六寸後方は一尺なり  
第三及び第四圖は沖繩に於て慣用したるものにして豚が動かし能はざる様

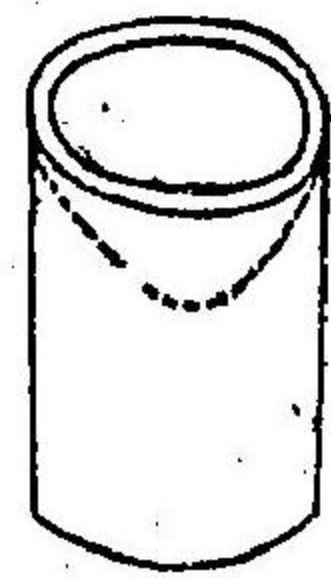
食槽の圖解



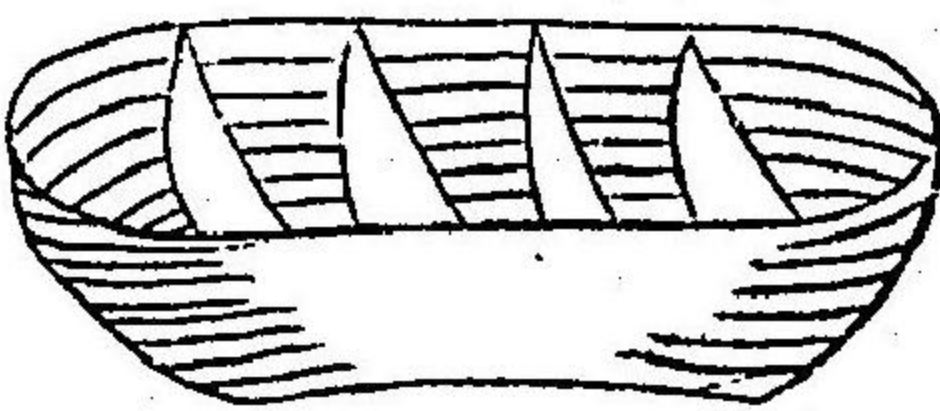
圖一第



圖三第

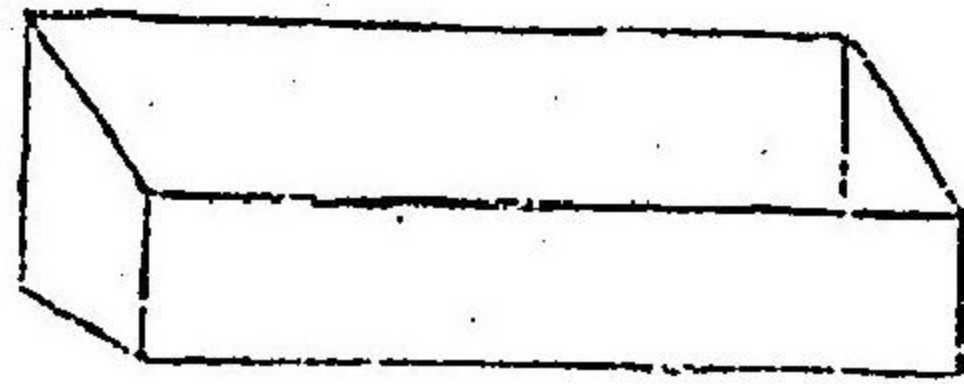


圖五第

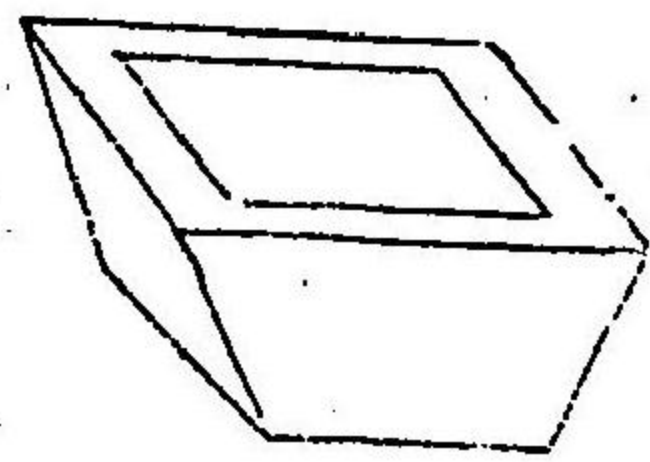


第

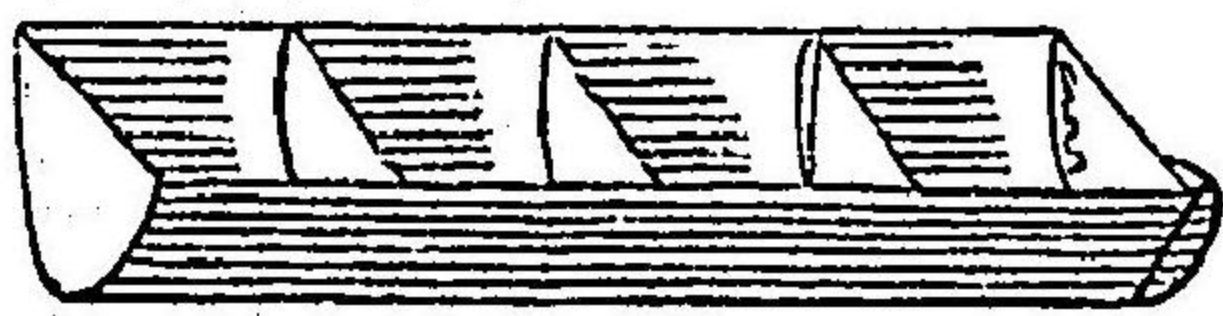
圖二第



圖四第

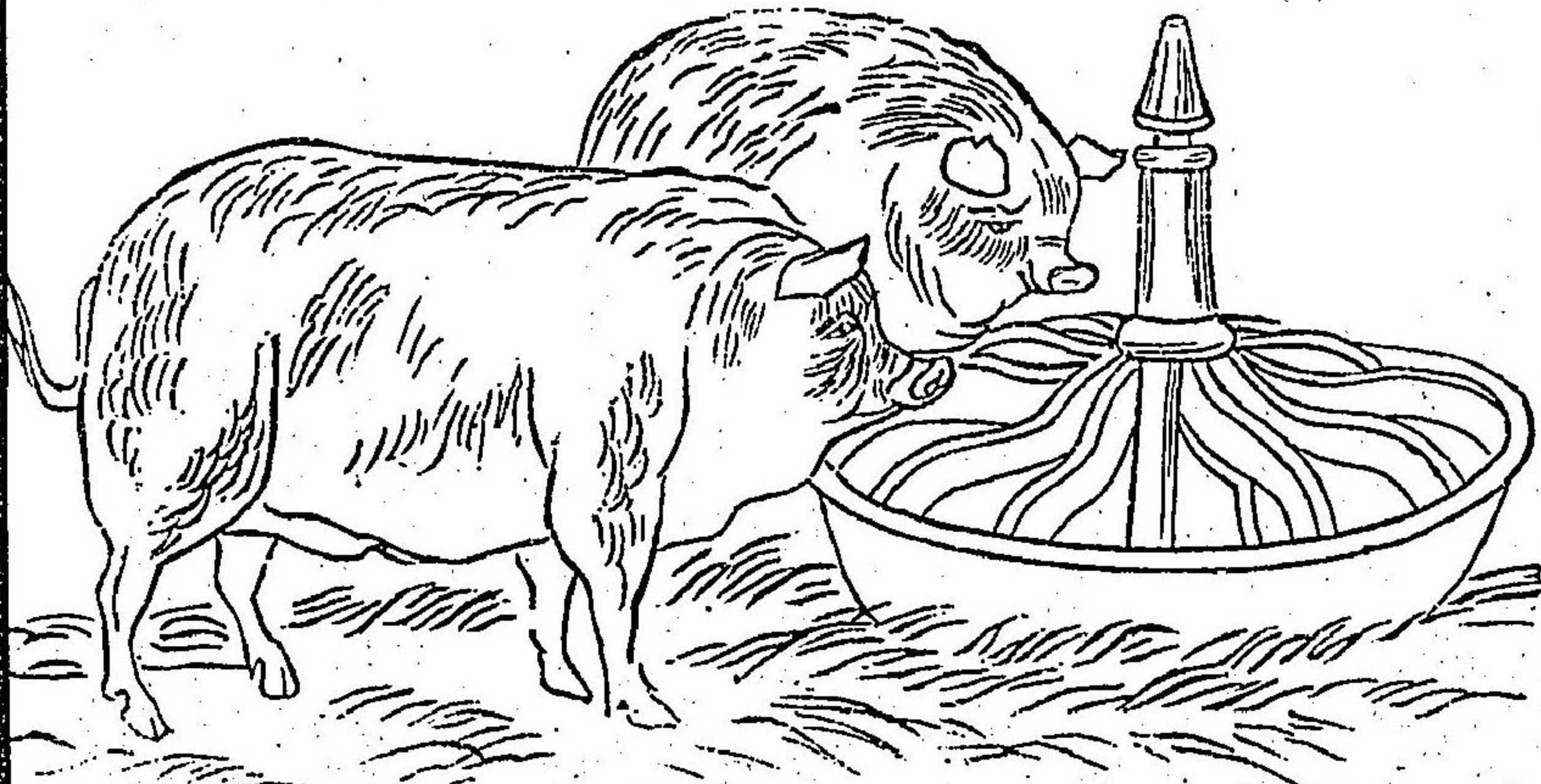


圖六第



圖

七



土中に掘り立て、用ひ一頭用食槽なり即ち第三圖は高さ一尺四寸直径一尺位の丸木に内徑八寸深さ六寸位を椀底形に掘りたるものなり  
 第四圖は長さ一尺五寸幅一尺高さ七寸五分の木に長さ一尺幅八寸深五寸位に底は口より狭く四角に掘りたるものなり  
 以上は本邦に於て主に用ゆる一頭用食槽にして第一圖第三圖を良とす即ち底の圓きものは食物を食ふに便利にして且つ掃除に便利なり  
 數頭共有の食器は第一第二圖の如きものを長くして六寸乃至八寸毎に横棒又は中仕切を附け相互の競争を防ぐ様にすべし即ち第五圖第六圖の如きものを用ゆべし何れの食槽も水平に置くこと必要なりとす  
 第七圖は底の淺き厚き鍋の如き鑄物にして圖に示す如き鐵板を以て數多に仕切りて群豚の雜踏を防ぐ此の器は放飼する時は殊に有效なりとす

蒸育器

蒸煮器

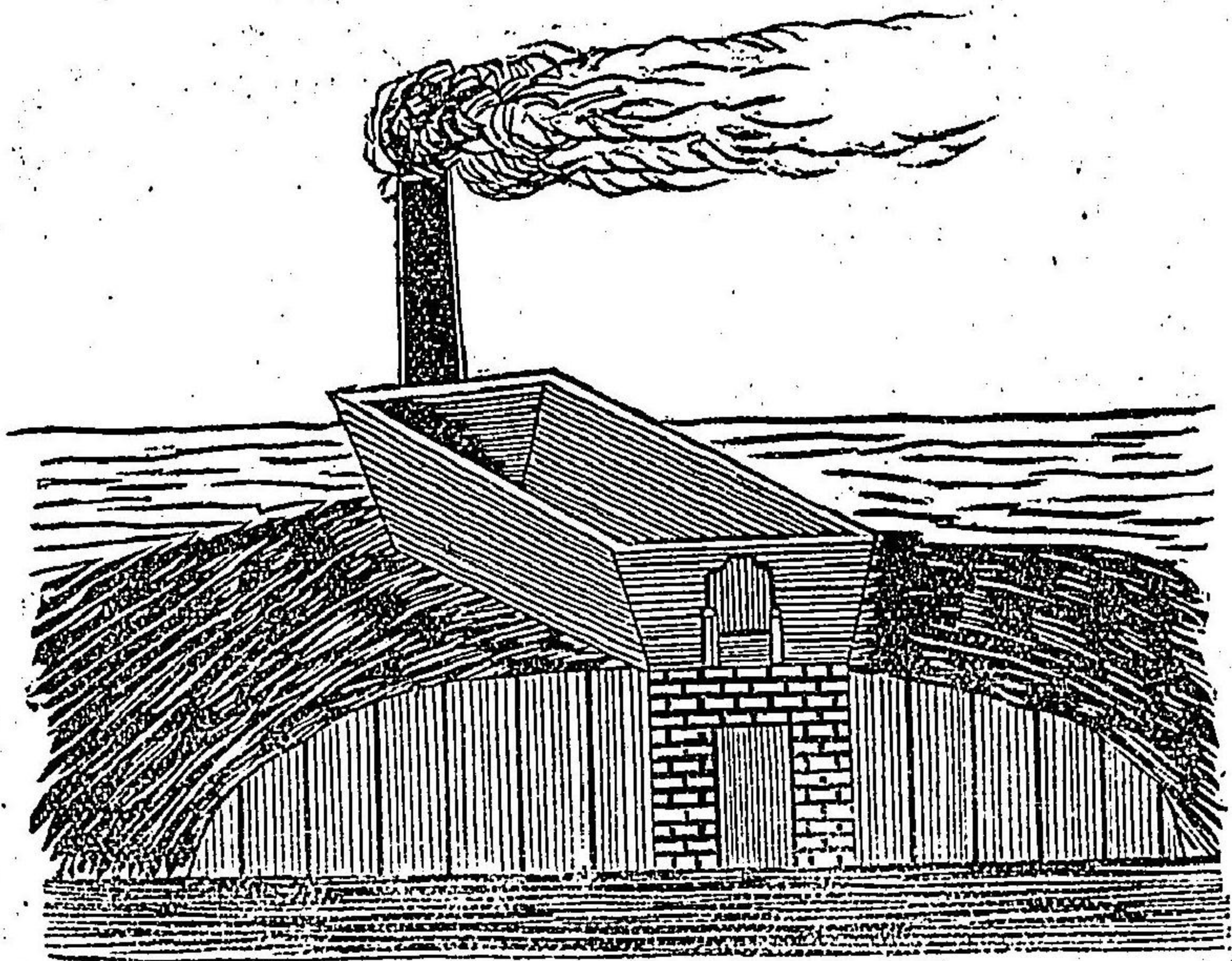
穀類及び根菜類を蒸煮するには單に鍋に煮るあり又特に鍋にコシキを附けたるあり何れにしても費用少なく效力の大なるものを用ゆべし普通の農家



クレイ氏の  
蒸煮器

にて副業として養豚するには特別なる蒸煮器を設くるの必要なかるべし  
 近頃米國にて最も簡便なる蒸煮器として使用するものはエヌエイチクレイ  
 氏の考案に由るものなり今其の構造の要點を擧げて斯業者の參考にすべし  
 此の器は長さ六呎乃至八呎幅二呎十八吋乃至二呎二十四吋にして二吋厚さ  
 の堅き木の板を以て底部は上方より稍狭く構造したる箱にて挾板の底を堅  
 く釘着したるものなり此の器は石又は煉瓦にて構造したる竈の上に安置す  
 竈の火口には漏氣孔を有する鐵戸を設け火口は樹根等を投入するに足るべ  
 き大きにして竈の後端には烟突の設けあり  
 箱には蒸煮物を掻き出すに便なる爲め前面に口を設け此の口には落し蓋を  
 附し口を開くには蓋を引き上げ口を閉づる時は押し下ぐべし箱の蓋は一吋  
 厚さの板にて造り角蓋にて箱の内側に密嵌せしめ蓋の前後には柄を附して  
 開閉に便ならしむ箱の底は二重底とすべし其の構造は底の少し上に於て横  
 に若干の棒を列べ此の棒の上に數多の小孔を有する板を置き此の板の上に  
 蒸煮物を置くあり斯くすれば飼料の焦け着くことなし

クレイ氏の蒸煮器



飼料運搬器

此器は穀物及び根菜類等を煮  
 るには燃料を費すこと少く勞  
 力と時間とを要することも少  
 なく甚だ便利なり  
 飼料調理器には以上の外蒸煮  
 したる根菜類を搗き碎く木製  
 の臼とキ子とを用ふることあ  
 り

○飼料運搬器  
 飼料を調理室より豚舎迄運搬  
 するには普通タンゴを用ふる  
 ことあり或は甲圖の如き孤輪  
 車に桶を具へ附けたるものを  
 用ゆるあり或は乙圖の如きも



飼料の調理

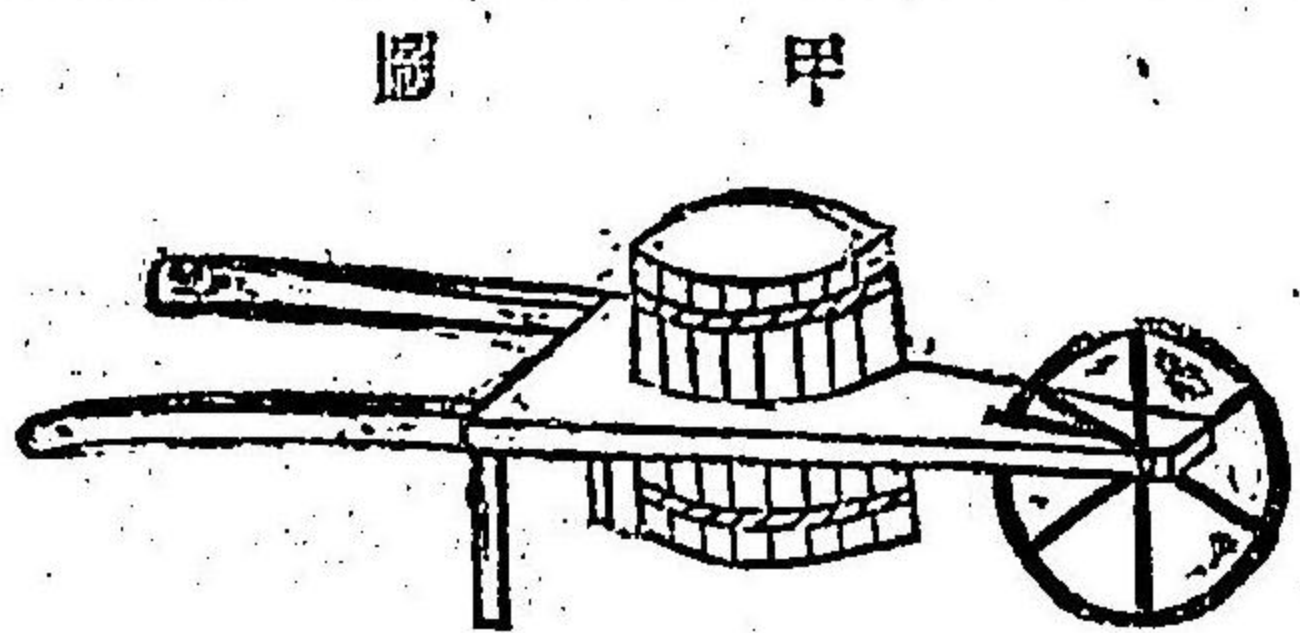
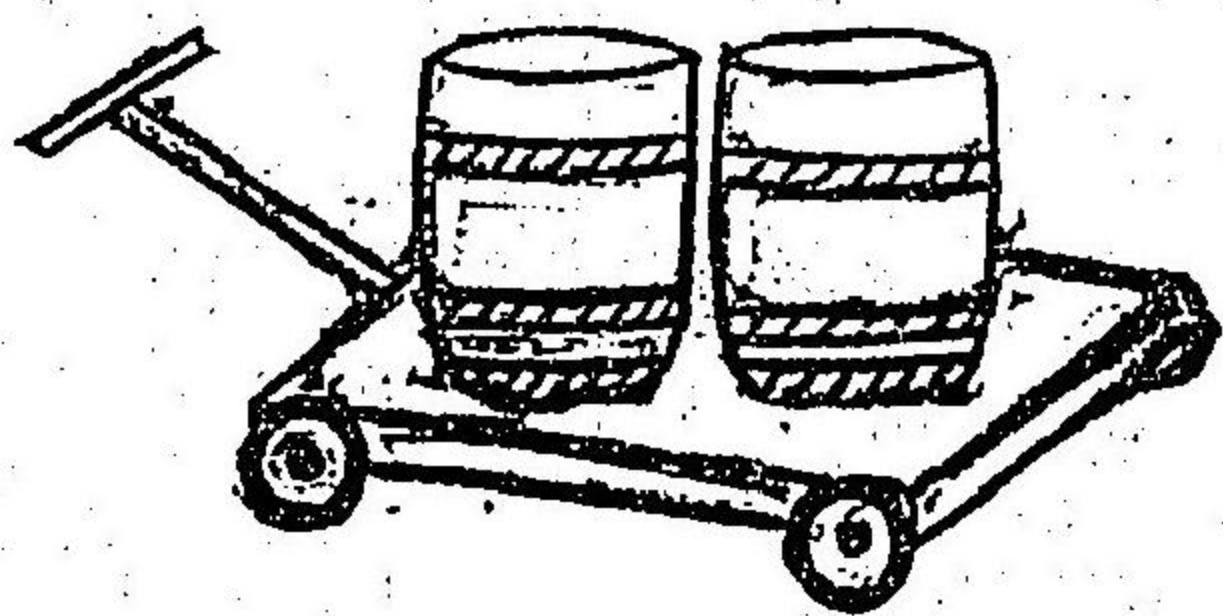


圖 乙



のを用ふるなり

此の外調理器には穀物破砕器根菜類洗滌器及び碎粉器等あれども一々説明をなす必要なかるべし

○飼料の調理

飼料の調理とは食物を消化し易き様に料理することを云ふ例へば穀物なれば能く之れを粉碎し蒸煮し根菜類及び鹹

果類なれば洗滌し細かに破砕し蒸煮する等或は又此等の飼料を適當に調合するも調理法の一つなるべし

豚の飼料を調理することに付ては從來數多の養豚家若しくは學者が豚の生理的又は經濟的より研究せる所にして豚の生理的より研究せる結果は皆同一轍に出ずと雖も經濟的より研究せる結果は各自經濟上の事情の異なるに從ひて全く一致することを得ざるが如し例へば穀物を破砕し之れを蒸煮し

調理の利  
クレイ氏の  
試験

て豚に與ふれば消化し易く且つ其含有する營養分を多く吸収するを以て單に生理上より論すれば最も有利なるべき理屈なり然れども經濟上より論する時は多くの燃料と手數とを要するを以て必ず有利と云ふことを得ざるのみならず却て不利益となることなきにしもあらざるべし豚の飼料を調理することは増肉上大なる利益あるに拘らず實際上實行し能はざる理由は經濟上數多ありと雖も就中主なる理由とする所は燃料乏しき勞力の得難き資本に乏しき場合等なり飼料の原料は豊かに産する地方と雖も燃料乏しく其價格高き時は縦ひ調理法が豚肉を増すことに於て利益なりと雖も結局得失相償はざるが如きことあり又た燃料も容易く且つ廉價に得らるるとするも多くの勞力を要し其の勞力賃金高き時は到底得失相償はざることあるべし或は又た燃料も勞力も共に廉價に得らるるとするも調理に用ゆる器具器械を設備するに要する資本に乏しき爲め實行し能はざる等種々の理由あり飼養調理の利益なる事實は英米の養豚家が經驗したること多く米國ケンタッキー洲の人エス、エイチ、クレイ氏はパークシャー種を盛に飼養せる老練家にして



千八百七十一年九月シカゴ府に開設せられたる豚共進會に於て賞金一千弗を得たる人なるが氏は飼料調理の利益なるや否やの疑問を決定せん爲め次の如き試験をなしたり該試験は生後十二月の牡豚六頭を取り七月十六日を以て着手せり其の六頭の牡豚の重量は各左の如し

一號	二百五十五磅	二號	二百八十五磅	三號	二百四十磅
四號	二百四十磅	五號	二百六十五磅	六號	二百四十五磅

氏は此の六頭の豚を十二日間一所に置き其の食物は何れも同様にして調理して與へ十二日目に六頭を別居せしめ其の重量を秤りしに左の如し

一號	二百九十四磅	増加量	三十九磅
二號	三百十八磅		三十三磅
三號	二百九十磅		五十磅
四號	二百七十六磅		三十六磅
五號	二百九十磅		二十五磅
六號	二百八十二磅		三十七磅

次に氏は一號二號豚を一組とし一室に同居せしめ三十日間蒸煮したる穀物を與へたり其の消費したる穀物は三百九十磅即ち六ブッセルと五十四磅にして其の豚の増加重量は一號豚に於て五十磅二號豚に於て五十二磅合計百三十二磅を得たり又三號豚四號豚を一組とし一室に同居せしめ三十日間穀粉を蒸煮して淡き粥状となして與へたり而して消費したる穀物は二百五十四磅即ち四ブッセルと三十磅にして其の豚の増加重量は三號豚に於て三十磅四號豚に於て五十磅合計八十磅を得たり又乾燥せる穀物を以て四號五號豚を一組とし一室に同居せしめ三十日間養ひしに消費したる穀物は四百五磅即ち七ブッセルと十三磅にして豚の増加重量は五號豚に於て十磅六號豚に於て三十二磅合計四十二磅を得たり以上の事實を表示すれば次の如し

食物の種類	消費したる穀量	三十日間増加したる豚の重量	穀物「ブッセル」に對する豚の増加重量	穀物「ブッセル」の價	豚肉一磅に付消費したる穀物の價
蒸煮二號豚	六ブッセル	一〇二磅	一四磅	百分ノ壹二八セント	一セント九ミル
蒸煮三號豚	五ブッセル	一〇二磅	一四磅	百分ノ壹二八セント	一セント九ミル



蒸粉三號豚	四(ブッセル)四六磅	八〇磅	一六磅ト百分ノ六二八セント	一セント六ミル
乾粒五號豚	七(ブッセル)二二二磅	四二磅	五磅ト百分ノ八二二八セント	四セント八ミル

右の三十日間を經過したる後更に飼養法を變換して乾燥穀粒を與へたる五號六號豚には更めて蒸煮したる穀物を與へ蒸煮したる穀粉を與へたる三號四號豚には更めて乾燥穀粒を與へ一號二號豚には尙ほ前と同様に蒸煮したる穀物を與へたり而して各組二十六日間後の結果を表示すれば次の如し但し一號二號豚の結果は前試験の結果と殆んど同じきを以て略す

食物の種類	費消したる穀量	二十六日間 に於て豚の 増加したる 重量	穀物「一ブッセル」に 對する豚の増加量	穀物「一ブッ セル」の價	豚肉一磅に付き費 消したる穀物の價
調理五番豚	四(ブッセル)一〇磅	七四磅	一七磅ト百分ノ七二八セント	一セント五ミル	
乾粒三番豚	六(ブッセル)二二八磅	四四磅	六磅ト百分ノ七二八セント	四セント一ミル	

クレイ氏の此の試験の結果を考ふるに蒸煮調理したる一ブッセルの穀物を以て得らるべき肉量は調理せざる穀物を以てすれば三ブッセルを費すにあらざ

スリヴァン  
ト氏の説

れば得べからず換言すれば調理したる穀物は調理せざる穀物に比し三倍の効力を有す然るに世人には往々調理したる飼料の却て不調理飼料に劣ると唱ふるものあり之れ數多の實見なりとして主張すと雖も余輩は其の實見法の正しきに從ひたるや否やを疑ふものなり尙ほ飼料調理の有効なる所以を明かにせん爲め千八百六十九年米國オハイオー洲農務局出版の農事報告書に養豚業に名高き官吏スリヴァント氏の調査せられたる記事の一部を抜萃して記載せん

余は蒸煮穀物を用ゆるの得失に付き多くの記録を調査したる結果穀物一ブッセルに付き豚重九磅を増加するの標準を得しが穀物を穀粉となして養ふときは更に此の標準數の三割三分を増加すべく若し穀物を蒸煮して養ふときは標準數の六割六分を増加すべく又穀粉を蒸煮して用ゆるときは尙ほ増加すべし蓋し穀物を磨きて粉となすも蒸煮するも毫も其の分子を増加せしにあらざるに之を食して豚肉に分量を増加するは消化吸収



せられ易く筋肉及び脂肪になる部分多きが爲めなるべし  
余は研究の結果左の如き標準を以て大差なしと信ず即ち穀を被ぶる穀物  
一ブッセルを生のみ食はしむれば豚肉九磅を増加すべく又穀物を粉とな  
して生のまゝ食はしむれば豚肉十二磅を増加すべく又た穀粒を蒸煮して  
食はしむれば豚肉十三磅半を増加すべく尙ほ又た穀粉を蒸煮して食はし  
むれば豚肉十三磅半以上を増加すべし但し何れも氣候尋常にして豚舎は  
乾燥清潔なりし場合なり

以上の事實に徴し穀物を調理して與ふるの有效なるとは何人と雖も異論な  
かるべし而して尙ほ他の種類の飼料に於ても草として與ふるの外は皆調理  
して與ふるを有效とす如何となれば飼料調理の要は第一消化し易からしむ  
ると第二豚の嗜好を増加するにあるを以て根菜類若しくは鹹類等も之れを  
細く破碎し蒸煮して與ふるに於ては豚の嗜好を増し多く食し能く消化吸収  
せられ肥満することも迅速なるべし故に經濟上事情の許す限りは調理する  
を以て利益なりとす他の家畜に於ては調理はさまで影響せざるも豚は他畜

## 成豚の飼養法

と大に異なるものなれば飼養者は茲に最も注意するを要す

## ○成豚の飼養法

繁殖豚仔豚及び肥育豚に於ては夫々特別なる飼養法ありて前二者は既に前  
章に於て詳述せり茲に云はんとする成豚の飼養とは生後四ヶ月以上になり  
たる豚の飼養法を云ふなり

豚の飼養法には野飼法もあれども普通は舎飼法と半舎飼法の二つなり故に  
之によりて其の飼養法も亦た異ならざるを得ざるなり然れども茲には單に  
舎飼法のみを述べ他は之に基きて斟酌を加へば可なりとす

豚の消化器は強勢なるを以て大抵のものは之れを食して消化吸収して自己  
の營養に供することを得而して一日一頭に對し幾何の分量を與ふべきかは  
一定せず消化し易き形として豚の食する丈け可成充分多量に與ふるを以て  
良とすスリウアント氏の調査に依れば生體量百五十斤の豚一頭に對し維持的  
飼料は一日穀物一斤半位にして若し一日一斤の増肉をなさしめんと欲せば  
更に二斤の穀物を増加し合計三斤半位を與ふべしと云へり之れ化學的計算

## 飼養の分量



に由れるものなる故實際に於ては之れだけにては逆でも足らざるなり先づ之を最少限とすれば間違なかるべし

(一) 舂の平均重量は大麥三百匁裸麥三百七十匁玉蜀黍四百匁大豆三百四十匁豌豆三百五十匁蠶豆三百二十匁)

農科大學にては生體重十八貫位の豚に對して普通に一日一頭につき大麥一升二合根菜類百七匁食鹽一匁位の割合を以て充分に蒸煮して與へり然れども之にては逆でも不充分にして豚は尙ほ食はんと欲して止まざるが如し東京府下大久保村三浦氏の養豚場の飼料の組立を農事雜報第三十號に付て見るに二三貫目より十貫目迄の仔豚七十八頭七貫以上二十八九貫目迄の豚八頭に對し左の如く配合して與ふと云ふ

一日に付	南	五貫目	五錢弱	何れも能く煮て水
合計凡	馬	六貫目	十錢弱	を混じり四斗樽二本
金五十三	冬	十二貫目	十五錢弱	餘に殖して與ふる
錢弱	麥	二貫目	十錢弱	の餘である
	醬油	五貫目	十二錢弱	

沖繩縣にては生體重十八貫目位の豚一頭に對し甘藷及び燒酎滓等を粥の如

く極稀薄にしたるものを一日一斗五升内外を與へり

ツオルフ氏の飼養表によれば成豚の體重五十基に對して一日一頭に與ふべき成分は左の如し

乾物	二、〇〇
蛋白質	〇、三八
炭水化物	一、五〇
營養率	四、〇〇

右の標準によりロード氏の計算によれば左の各種の飼料を與ふるを可とすと云ふ

一 滓	乳 六、〇〇	瓜哇薯 六、〇〇	瓜哇薯 四、〇〇
二 大	麥 一、〇〇	滓 乳 四、〇〇	瓜哇薯 六、〇〇
三 碗	豆 〇、五〇	滓 乳 二、〇〇	

又ハツオルフ氏は豚の各成長期中毎日毎頭に要する養分量を次の如く定めり



全有機物	可消化養分		養分合計	營養率	年齢月數	壹頭の生體重基
	蛋白質物	可溶無氮素物及び脂肪				
二、一〇	〇、三八	一、五〇	一、八八	四、〇	二一三	二五、〇
三、四〇	〇、五〇	二、五〇	三、〇〇	五、〇	三一五	五〇、〇
三、九〇	〇、五四	二、九六	三、五〇	五、五	五一六	六二、五
四、六〇	〇、五八	三、四七	四、〇五	六、〇	六一八	八五、〇
五、二〇	〇、六二	四、〇五	四、六七	六、五	八一二	一二五、〇

要するに豚の食物の分量は必ずしも一々規則正しく定めずとも食ふ丈充分に與ふるを良しとす右表の如きは大體の標準たるのみ實際の分量は實際に飼養して定むべし恰も人間に大食家と小食家とある如く豚にも多く食すると少く食するとあり故に一二回試験して其適量を定め過不及なき様にすべし一體に豚は多食するものを以て成長及肥育共に良しとす本食の間に時々牧草の類を與ふるは最も良き飼養法なり牧場を有する所な

れば晴天の時は放牧して随意に食せしむべし半舎飼の場合には春夏は多く牧場に放ちて牧草のみを食はしむることあり斯かる場合には豫め草食に慣れしむること必要なり冬間穀物及び根菜等を以て養ひたる豚を春に至り急に放牧するときは美味の青草を貪食するを以て忽ち下痢を發し體量を減ずることあり此の損害を避くるには放牧前十五日乃至二十日位より放牧すべき牧場の草を刈取りて間食として最初は少量に與へ次第に其量を増加し新しき食物に慣るゝに至りて放牧するにあり斯く漸を追ふて飼料を變換せしむるの手續きは總ての場合に於ても最も緊要のことなり斯くすれば豚の食欲を減せしめず且つ疾病等の憂ひなく健康を保つを得べし飼料は夏冬の寒暖によりて多少異なるなり例へば冬は寒冷なるを以て體温を維持する爲め夏よりは稍々多くの炭水化物飼料を要するが如し食物は可寧に消化し易き形となし充分に食はしむべきことは屢々之を云へり豚をして充分多く食物を食はしむるには各食事の場合に最初は淡白のものを與へ食欲の次第に衰ふるに従ひ嗜好品例へば食鹽砂糖の如きものを加味すべし



一日の給食回数

然るときは食慾再び増して充分多量に食するなり  
豚の若き時は滋養分に比し容積の稍大なる食物を與へ適當なる運動をなさしめ骨格の發育を完全ならしむべし若し斯くせずして若き時より滋養分の多き旨き食物のみを與へ運動を缺きたるときは早く小形に肥滿して充分に成長をなさざるに至るものなり  
一日に幾回給食すべきやは豚の成長の時期によりて異なる即ち斷乳後豚兒が未だ飼料に慣れざる間は恰も母豚が乳を與ふる回数丈與ふべし充分飼料に慣れるに至れば回数を少くして毎日一定時間に給食すべし朝晝晩の三回に與ふるを可とす其時間の如きは各自の便宜に従ふべし朝は可成早きを良とす又た一日に二回給食する所あれども手数の及ぶ限りは回数を増すとも減すべからず

豚の食物は常に温めて與ふべし然れども餘り熱きものを與ふるときは豚は其性質鈍きものなるを以て知らず識らすの間に之を吞み火傷を爲すことあり故に温湯位を良とす水も冬は温めて與へ其分量は豚の隨意にすべし

飼養上温度の關係

食事をなさしむるときは最も叮嚀に取扱ひ靜穩に且つ愉快ならしむる様にすること緊要なり故に犬又はその他の騷々しきものを近づけさる様にすべし

○飼養上温度の關係

飼養中豚舎の温度を適當にするとは敢て論を俟たず室内寒冷なる時は體温は外氣の爲めに奪ひ去らるゝものにして此の奪ひ去られたる體温を補充するものは食物なり故に寒冷なれば食物を消費すること大にして割合に増肉せざるを以て經濟上甚だ損なり豚室を暖かにするの必要は茲に存するなり之れに反して炎暑烈しき時は豚は食慾大に減却し體重を減じ又種々の疾病に罹ることも多し故に夏は日影を與へ或は水を與へて隨意に涼を取らせしむべし英國に於ては夏は毎日一回豚をして水浴せしむ其目的は一つは涼からしめ一つは清潔ならしむるにありと云ふ室内は常に乾燥清潔ならしめんが爲め毎日藁若しくは鋸屑等を三四斤位與へざるべからず此等の管理に付きては第三章を参照すべし



一室の豚數

○一室の豚數

一室に飼養すべき豚の數は豚の大き及び室の大小により一様ならざれども一坪位の室にて生後二三ヶ月の豚なれば五六頭生後五六ヶ月以上のものなれば二三頭迄を通常とす餘り多く一室に飼ふ時は喧嘩などをなして常に安逸なるを得ず從て發育完全なるを得ざるなり尙ほ注意すべきは一室に飼ふべき豚は強弱の度殆んど同じきものを置くべし然らざれば強者は弱者を壓し弱者は益々弱者となり發育不揃となりて甚だ不利益なり

○沖繩縣に於ける飼育法

沖繩縣は日本第一の養豚地にして斯業に就ては熟練せるもの多し故に茲に其飼育法を記載して斯業家の參考に供すべし  
沖繩縣に於て最も盛に豚を飼ふ所は首理區サンカと稱する焼酎醸造地にして該地にては主に焼酎滓を利用して豚を飼ひ醸造業者の利益は酒の利益より寧ろ豚の利益を以て大なりとす醸造地外の部分にては飼料の原料は主に甘藷、豆腐粕、豆腐汁及び其他の根菜、葉菜類等にして嗜好品としては食鹽、蟹の

沖繩縣に於ける豚の飼育法

鹽漬、蛙煮たるもの及び粗製糖等なり尙ほ間食として甘藷蔓及び人尿尿を與ふ茲に一言し置くべきは世人に往々人尿尿を與ふことを聞きて其の豚肉迄も嫌ふ人あり然れども能く熟考すれば決して然るべきにあらざるを知るなり何んとなれば吾人の口にする米麥及び野菜の如きは殆んど人尿尿を用ひて作らざるはなし若し前者を嫌へば後者も嫌はざるべからず其の關係に於て兩者の間に異なる所なし即ち何れも人尿尿中より養分を吸収して之れを己れの體質に同化するに外ならず唯だ前者は動物にして後者は植物なる差あるのみ故に豚に人尿尿を與へたりとて決して嫌ふべきにあらざるなり而して人尿尿を與へたる豚の肉は其之を與へざる豚の肉に比すれば其の味遙かに勝れるが如きは實に妙なりと云ふべし

沖繩縣にては斷乳して屠殺に附する迄を三期に分ちて其の飼料を異にせり第一期は斷乳したる兒豚五六頭宛を一室に入れて三四ヶ月飼ひ初の一ヶ月間は米の磨汁、酒滓に甘藷の皮及び屑藷の少量を混して與ふ第二期も第一期と同じく酒滓に米の磨汁とを混じ稀釋して四五ヶ月間與ふ此の場合に濃厚



なる良き飼料を食はず時は早く小さく肥満して成長せざるなり故に可成骨格の成長を務むべし第三期は小なるは八九十斤大なるは百二十斤位なり此の場合には酒滓と米の磨汁と其他に甘藷を多量に加へて濃厚にして與ふること凡そ三ヶ月位なり斯くすれば脂肪は聚積して充分に肥満し屠殺に供せらるゝなり而して此の三期に區別して飼料を異にすることは一般に通じて行ふ方法なり唯だ醸造地外にては酒滓の代りに甘藷を主用するの差あるのみなり

肥臘法

○肥臘法(肥育法とも云ふ)

豚は生肉用と製品用とに拘らず屠殺する前には肉質を良くし體重を大にする爲め肥臘法を行ふこと最も緊要なり肥育法を施すには特別な狭き肥臘室にて特別な飼養管理をなさざるべからず肥臘法は暗くするを可とす普通の養豚業者には肥臘專業者と繁殖專業者及繁殖兼肥臘者との別ありて養豚の盛なる所にては各々分業的に行へるを利とせり肥臘に適する年齢は種類によりて異なり小形種にては生後六ヶ月乃至九ヶ月目に行ひ大形種にて

肥臘年齢

は十八ヶ月目に行ひ最も遅きは二十四ヶ月目に行ふ中形種は兩者の中間にあり肥臘に適當なる年齢を定むることは經濟上最も肝要にして斷乳後直ちに肥育すべしと云ひ或は生後六ヶ月又は二十ヶ月目に於て行ふべしと云へり然れども早きに失する時は筋骨の發育完全なるを得ずして體重も増すと少し米國の養豚家マイルス氏は骨格の發育不完全なる幼豚を肥育せしに年齢七ヶ月にして充分熟したるも其體重僅に百四十五斤に止まりしと云ふ又遲きに失せば飼料の消費多く時日も永く要し不經濟の點少なからず故に前段に述べたる如く早熟種(小形種)晩熟種即ち大形種等の區別あるを以て夫々性質に應じて適當の年齢を定めて肥臘に供すること肝要なりとす

肥臘期間

肥臘期間は豚の種類と性質及び飼養管理等の如何によりて一定するを得ず短きは八週間長きは十八週間なり然れども普通は十二週間とす十二週間の場合なれば之を三期に分ちて第一期を六週間とし第二期を三週間とし第三期を三週間とするなり

肥滿極度に達せば増肉せず

豚は肥滿極度に達せば更に増肉せざるのみならず却て體重を減却し或は種



一日の増肉

肥臘と温度との關係

々の疾病に罹ること多し故に肥臘中は一週間又は二週間毎に體重を秤りて其肥滿の適度を知ることに肝要なり肥滿の極度に近ければ飼料を消費する割合に増肉せざるものなり一日の増肉量は豚の種類性質及び飼養管理の良否によりて一定せざるものなれども少きは一日半斤多きは二斤半普通は一斤内外なり

肥臘室は適當なる温度を保つこと必要なり普通攝氏十三度を適度とす餘り暑ければ食慾を減じ疾病を起すこと多し又た寒冷に過ぐれば飼料を消費する割合に増肉せざる者なり其事實に就ては農學博士セルトン氏の米國カンサス州農科大學に於ける試験によりて明なり氏は千八百八十年より翌八十一年に跨る冬と及び千八百八十二年より翌八十三年に跨る冬に於て純粹なるパークシャー種十頭を以て試験に供したり而して此十頭は同年生にして試験前後同じ取扱をせられ試験に供したる時何れも體重同一にして健全なりき而して十頭を二組に分ち一組は充分防寒法を施せる温暖なる石造りの屋内に設けたる舎に入れ他の一組は唯だ北風のみ塞ける五尺の板塀の南側

に設けたる舎に入れ必要の場合にのみ藁を與へて巢窟となさしめたり今試験の結果の概要を示せば次の如し

温暖舎の豚		寒冷舎の豚	
週第一	週第二	週第一	週第二
週第三	週第四	週第三	週第四
週第五	週第六	週第五	週第六
週第七	週第八	週第七	週第八
週第九	週第十	週第九	週第十
合計		合計	
華氏の每週温度	「コーン」の消費額	豚重百磅に對する食量	豚の體重の増加磅
「コーン」の消費額	豚肉一磅に對する食量	華氏の每週温度	「コーン」の消費額
週第一	週第一	週第一	週第一
週第二	週第二	週第二	週第二
週第三	週第三	週第三	週第三
週第四	週第四	週第四	週第四
週第五	週第五	週第五	週第五
週第六	週第六	週第六	週第六
週第七	週第七	週第七	週第七
週第八	週第八	週第八	週第八
週第九	週第九	週第九	週第九
週第十	週第十	週第十	週第十
合計	合計	合計	合計



豚重百磅に對する食量に豚の體重の増加磅 豚肉一磅に對する食量磅	週										
	第一週	第二週	第三週	第四週	第五週	第六週	第七週	第八週	第九週	第十週	合計
對する食量	二九〇	二六九	二六〇	二五三	二八	一九〇	一九〇	一六〇	一六〇	一四〇	
豚の體重の増加磅	八七	八三	三三	一九	三三	一六	一六	一六	五五	一	四七
豚肉一磅に對する食量磅	三、三〇	三、二七	五、五〇	一七、五五	四、三三	一七、五〇	四、二二	一五、四六	四、六二	三、六〇	

右の表を見るに温暖なる屋内の舎に飼ひたる五頭の豚は消費したる穀物の合計二千八百七十六磅にして豚の増加體重の合計は六百〇四磅なり又た外部の寒冷なる舎に飼ひたる五頭の豚は消費したる穀物の合計は二千八百四十二磅にして豚の増加體重合計は四百七十九磅なり即ち温暖なる舎にありては豚肉一磅に付き穀物の消費僅五磅弱なりしが寒冷なる舎にありては六磅強なり尙ほ穀物一ブツセルに對する増加豚重を見るに温暖なる舎の豚にありては平均十二磅弱なりしが寒冷なる舎の豚にありては平均九磅半弱の増加なり之れ寒冷なる舎の豚にありては尙ほ豚肉二磅半弱を増すべかりし物質を寒氣の爲め體温を維持するに自ら消費したるなり

寒氣が豚の肥満に影響すること此の如くなるが尙ほ本試験中の最も温度の低下したる第六週より第十週迄の四週間にありて温暖なる舎の豚と寒冷なる舎の豚の状況を比較するときは左の如し

	穀物の消費高	豚の増加重
温暖舎	一〇八六、五	一九〇磅
寒冷舎	九九七、〇	八八磅

此の表によれば温暖なる舎の豚は極寒の時其増加重一磅に對し穀物の消費五七磅餘なりしが寒冷なる舎の豚は極寒の時其増加重一磅に對し穀物の消費高十一磅半弱なり

以上の事實により肥育豚舎を温暖に保つこと最も緊要なることを知らるべし

肥育飼料は最も消化し易き形として與ふること緊要にして調理飼料の効驗は肥臘に於て特に著大なりとす肥臘に最も適當なる飼料は大麥、豌豆、大豆、玉